

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウセイジン ノートルダムジヨウクイン 学校法人 ノートルダム女学院							
フリガナ大学の名称	キョウトノートルダムジヨウダクイガク 京都ノートルダム女子大学 (Kyoto Notre Dame University)							
大学本部の位置	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地							
大学の目的	教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与する。							
新設学部等の目的	人間の発達やより良い生活を追求するとともに、その望ましいあり方の実現に貢献できる専門知識と実践力を備えた人材を養成するため、生活科学、社会福祉学、心理学、教育学、保育学といった関連諸科学による学際的、総合的な研究、教育を行う。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地 京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地
	現代人間学部 [faculty of Contemporary Human Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	福祉生活デザイン学科 [department of Social Work and Life Design]	4	70	-	280	学士 (福祉生活デザイン)	平成29年4月 第1年次	
	心理学科 [department of Psychology]	4	100	-	400	学士 (心理学)	平成29年4月 第1年次	
	こども教育学科 [department of Child Education]	4	70	-	280	学士 (こども教育)	平成29年4月 第1年次	
計		240	-	960				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 (廃止) (△100) (3年次編入学定員) (△ 5) 心理学部 心理学科 (廃止) (△160) 現代心理専攻 (3年次編入学定員) (△ 2) 学校心理専攻 (3年次編入学定員) (△ 3) 臨床心理専攻 (3年次編入学定員) (△ 3) ※平成29年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成31年4月学生募集停止) 人間文化学部 英語英文学科 [定員減] (△ 30) (平成29年4月) 人間文化学科 [定員減] (△ 10) (平成29年4月)							
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
			講義	演習	実験・実習	計		
	現代人間学部	福祉生活デザイン学科	139 科目	76 科目	16 科目	231 科目	124 単位	
		心理学科	113 科目	63 科目	7 科目	183 科目	124 単位	
	こども教育学科	133 科目	76 科目	13 科目	222 科目	124 単位		

教 員 組 織	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設 分	現代人間学部 福祉生活デザイン学科		9 (8)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (13)	0 (0)	101 (101)
	心理学科		7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	96 (96)
	こども教育学科		4 (4)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	92 (92)
	計		20 (19)	18 (18)	4 (4)	1 (1)	43 (42)	0 (0)	— (—)
既 設 分	人間文化学部 英語英文学科		5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	93 (93)
	人間文化学科		5 (5)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	83 (83)
	計		10 (10)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	— (—)
合 計		30 (29)	24 (24)	9 (9)	1 (1)	64 (63)	0 (0)	— (—)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		40 (39)		16 (16)		56 (55)		
	技 術 職 員		2 (2)		6 (6)		8 (8)		
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		4 (4)		7 (7)		
	そ の 他 の 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	計		46 (45)		26 (26)		72 (71)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	17,206 m ²	0 m ²		0 m ²		17,206 m ²		
	運 動 場 用 地	19,625 m ²	0 m ²		0 m ²		19,625 m ²		
	小 計	25,966 m ²	0 m ²		0 m ²		25,966 m ²		
	そ の 他	0 m ²	0 m ²		0 m ²		0 m ²		
	合 計	36,831 m ²	0 m ²		0 m ²		36,831 m ²		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		30,169 m ² (30,169 m ²)	12,670 m ² (12,670 m ²)		0 m ² (0 m ²)		30,169 m ² (30,169 m ²)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	41 室	6 室	14 室		4 室 (補助職員 2人)		3 室 (補助職員 2人)		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		現代人間学部			44 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分を含む 図書40,000冊 [35,000冊]	
	現代人間学部	128,000 [33,300] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
	計	128,000 [33,300] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	340 (400)	400 (400)	0 (0)		
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		3,625 m ²		198		278,111			

体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体
		2,004 m ²		トラック 1面 テニスコート 4面		トレーニングルーム 1室				
経費の 見積り 及び 維持 方法 の概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コスト含む) を含む。	
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円		
		共同研究費等	3,200千円	3,200千円	3,200千円	3,200千円	－千円	－千円		
		図書購入費	10,000千円	9,000千円	9,000千円	9,000千円	－千円	－千円		
		設備購入費	15,223千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,410千円	1,130千円	1,130千円	1,163千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私学大学等経営補助金、雑収入、その他							
大 学 の 名 称 京都ノートルダム女子大学										
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	人間文化学部		年	人	年次 人	人		倍		
	英語英文学科		4	110	3年次 5	450	学士(文学)	0.67	昭和36年度	京都府京都市左京 区下鴨南野々神町 1番地
	人間文化学科		4	60	－	240	学士 (人間文化)	0.69	平成12年度	
	生活福祉文化学部									
	生活福祉文化学科		4	100	3年次 5	410	学士(生活福 祉文化)	0.73	平成19年度	
	心理学部									
	心理学科		4	160	3年次 8	656	学士(心理)	0.69	平成17年度	
	現代心理専攻		4	30	3年次 2	124		0.59		
	学校心理専攻		4	50	3年次 3	206		0.75		
	臨床心理専攻		4	80	3年次 3	326		0.69		
	(修士課程)									
	人間文化研究科									同上
	応用英語専攻		2	8	－	16	修士 (応用英語)	0.12	平成14年度	
	生活福祉文化専攻		2	6	－	12	修士(生活福 祉文化)	0.08	平成16年度	
	人間文化専攻		2	3	－	6	修士 (人間文化)	0.33	平成17年度	
	(博士前期課程)									同上
	心理学研究科									
	発達・学校心理学専攻		2	8	－	16	修士(心理)	0.18	平成17年度	
臨床心理学専攻		2	7	－	14	修士(心理)	0.92	平成17年度		
(博士後期課程)									同上	
心理学研究科										
心理学専攻		3	4	－	12	博士(心理)	0.00	平成17年度		
附属施設の概要		該当なし								

学校法人 京都ノートルダム女学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
京都ノートルダム女子大学				京都ノートルダム女子大学				
人間文化学部		3年次		人間文化学部		3年次		
英語英文学科	110	5	450	英語英文学科	<u>80</u>	5	<u>330</u>	定員変更(△ 30)
人間文化学科	60	-	240	人間文化学科	<u>50</u>	-	<u>200</u>	定員変更(△ 10)
				現代人間学部				学部の設置(認可申請)
				福祉生活デザイン学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	
				心理学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	
				こども教育学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	
生活福祉文化学部		3年次		生活福祉文化学部		3年次		
生活福祉文化学科	100	5	410	生活福祉文化学科	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	平成29年4月学生募集停止 3年次編入平成31年4月募集停止
心理学部		3年次		心理学部		3年次		
心理学科	160	8	656	心理学科	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	平成29年4月学生募集停止 3年次編入平成31年4月募集停止
計	430	18	1756	計	<u>370</u>	<u>5</u>	<u>1490</u>	

教育課程等の概要

(現代人間学部 福祉生活デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	人間と文化	日本文学		2		○									兼1		
		外国文学	1後	2		○									兼1		
		日本近現代史	1前	2		○									兼1		
		日本の宗教	1後	2		○									兼1		
		東アジア近現代史	1前	2		○									兼1		
		ヨーロッパ近現代史	1後	2		○									兼1		
		歴史の中の女性	1後	2		○									兼1		
		身近な心理学	1前	2		○									兼1		
		文化人類学	1後	2		○									兼1		
		小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
	生活と社会	暮らしの法律学	1前		2		○									兼1	
		憲法と人権	1後		2		○									兼1	
		暮らしの経済学	1後		2		○									兼1	
		国際関係論入門	1前		2		○									兼1	
		社会学概論	1後		2		○									兼1	
		ジェンダー論	1前		2		○									兼1	
		ボランティア概論	1前		2		○									兼1	
		子育てとワークライフバランス	2前		1		○									兼1	
		こどもと子育ての生活環境学	2前		1		○			4							オムニバス
		海外研修(生活と社会)	1・2・3・4休		1			○		1	1						集中
	小計(10科目)	—	0	17	0	—			4	1	0	0	0	0	兼8	—	
	人間と自然	身近な自然科学	1前		2		○									兼1	
		暮らしの統計学	1後		2		○									兼1	
		地球と宇宙の科学	1前		2		○									兼1	
		情報科学入門	1後		2		○									兼1	
		環境学概論	1後		2		○									兼1	
		身近な医学	1・2前		2		○									兼2	オムニバス
		生命倫理	1後		2		○									兼1	
		こどもと自然	1通		2			○								兼4	集中・共同
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	—	
基礎科目	外国語科目	英語基礎Ⅰ	1前	1			○								兼5		
		英語総合Ⅰ	1前	1			○								兼6		
		英語基礎Ⅱ	1後	1			○								兼5		
		英語総合Ⅱ	1後	1			○								兼6		
		日常の英会話	2前・後		1			○							兼3		
		旅行の英会話	2後		1			○							兼2		
		留学の英会話	2後		1			○							兼2		
		おもてなしの英会話	2前		1			○							兼2		
		やさしいビジネス英会話	2前		1			○							兼1		
		歌って覚える英語表現	2後		1			○							兼1		
		英語リスニング初級	2前		1			○							兼1		
		英語リスニング中級	2後		1			○							兼1		
		読むための英語	2前		1			○							兼1		
		実用英語基礎	2後		1			○							兼1		
		身近な英文法	2前		1			○							兼1		
		アカデミック英語	3前		1			○							兼1		
		ドイツ語	1前		2			○							兼1		
		フランス語	1後		2			○							兼1		
		スペイン語	1前		2			○							兼1		
		アラビア語	1後		2			○							兼1		
		中国語Ⅰ	1前・後		2			○							兼3		
		中国語Ⅱ	1後		2			○							兼1		
中国語Ⅲ	2前		2			○							兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	外国語科目	コリア語Ⅰ		2			○								兼1	
		コリア語Ⅱ		2			○								兼1	
		コリア語Ⅲ		2			○								兼1	集中
		海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休	2			○								兼1	集中
		海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休	2			○								兼1	集中
		海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休	2			○								兼1	集中
		日本語講読Ⅰ	1前	1			○								兼1	
	日本語講読Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	日本語表現Ⅰ	1前	1			○								兼1		
	日本語表現Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	日本語特講Ⅰ	2前	1			○								兼1		
	日本語特講Ⅱ	2後	1			○								兼1		
	小計(35科目)	—	4	44	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼28	—
	リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	1前・後		2		○								兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1				○							兼1	
		情報演習Ⅱ	2前・後		1			○							兼1	
		情報処理	2前・後		2			○							兼3	※講義
		体育講義	1後		1		○								兼1	
		健康スポーツ演習	1前・後		2			○							兼3	
		体育実技	1前		1				○						兼1	
小計(7科目)	—	1	9	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼7	—	
カトリック教育科目	キリスト教入門	1前・後		2		○								兼1		
	キリスト教音楽入門	1前・後	1			○								兼1	※演習	
	聖書と文化	2前		2		○								兼1		
	キリスト教と日本文化	2後		2		○								兼2	オムニバス	
	キリスト教思想	2前		2		○								兼1		
	キリスト教美術	2後		2		○								兼1		
	キリスト教音楽	2後		2		○								兼1		
小計(7科目)	—	3	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼6	—	
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	1前	2			○								兼1	※演習	
	女性とライフキャリア	1前・後		2		○				1				兼1		
	ホスピタリティ入門	1前・後		2		○								兼1		
	ホスピタリティ京都	2・3前		2		○								兼2	共同	
	キャリア形成	3前・後		2		○								兼1		
	キャリア形成ゼミ	2通		2			○							兼1	集中	
	インターンシップ	2・3・4通		2				○						兼1	集中	
	海外インターンシップ	2・3・4休		2					○					兼1	集中	
小計(8科目)	—	2	14	0	—	—	—	0	0	1	0	0	0	兼6	—	
小計(84科目)	—	10	128	0	—	—	—	4	1	1	0	0	0	兼67	—	
学部共通科目	現代社会と子ども	1前		1		○								兼2	オムニバス	
	現代社会と女性・家族	1前		1		○					1			兼1	オムニバス	
	現代社会と高齢者	1前		1		○								兼1	オムニバス	
	現代社会と病者・障がい者	1前		1		○				1	1			兼2	オムニバス	
	病児の発達と支援	1休		2			○							兼10	【集中・オムニバス・共同(一部)】	
	情報科学	3前		2		○								兼1		
小計(6科目)	—		8	0	—	—	—	2	1	1	0	0	0	兼14	—	
専門教育科目	基幹科目	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ	1前	2			○			7	2	3				共同
		福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ	1後	2			○			7	2	3				共同
		福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ	2前	1			○			7	2	3				共同
		福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ	2後	1			○			7	2	3				共同
	小計(4科目)	—	6	0	0	—	—	—	7	2	3	0	0	0	—	
	基礎科目	福祉生活デザイン概論	1前	2			○			7	2	3				オムニバス
		衣生活概論	1前	2			○			1						
		食生活概論	1後	2			○			1						
		住居学概論	1前	2			○			1						
		現代社会と家庭経営	1後	2			○					1				
現代社会と福祉Ⅰ		1前	2			○										
小計(6科目)	—	12	0	0	—	—	—	7	2	3	0	0	0	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	展開科目	衣生活材料学		2		○					1					
		アパレルデザイン		2		○			1							
		衣生活情報論		2		○			1							
		服飾心理学		2		○			1							
		繊維材料学		2		○					1					
		染色加工学		2		○					1					
		アパレル造形学(実習を含む)		2		○			1							※実習
		アパレルデザイン演習Ⅰ		1				○		1						
		アパレルデザイン演習Ⅱ		1				○		1						
		衣生活実験Ⅰ		1					○			1				
		衣生活実験Ⅱ		1					○			1				
		食品学		2			○			1						
		食品加工学(実験を含む)		2	3			○		1						※講義、実験
		食品官能評価論		2			○			1						
		食品官能評価演習(実験を含む)		1				○		1						※実験
		栄養学		2			○									兼1
		調理学		2			○			1						
		調理学実習		2			○			1						
		発展調理学実習		2					○	1						
		フードコーディネーター論		2			○			1						
		建築一般構造		2			○			1						
		住生活学		2			○			1						
		住環境学		2			○			1						
		住居史		2			○			1						
		インテリア装飾学		2			○			1						
		福祉住環境デザイン		2			○			1						
		住居製図Ⅰ		1				○		1						
		住居製図Ⅱ		1				○		1						
		建築材料学		2			○			1						
		建築法規		2			○			2						オムニバス
		京都生活論		2			○									兼1
		家族関係		2			○					1				
		家族社会学		2			○					1				
		消費者教育		2			○									兼1
		家庭電気・機械及び情報処理		2			○									兼1
		家庭科教育法Ⅰ(生活の自立と衣食住)		2				○		1						※講義
		家庭科教育法Ⅱ(家族・家庭生活と福祉)		2				○		1						※講義
		家庭科教育法Ⅲ(指導法と教材作成)		2				○		1						※講義
		家庭科教育法Ⅳ(模擬授業)		2				○		1						※講義
		保育学(実習および家庭看護を含む)		2			○									兼1
		医学一般		2			○									兼1
小計(41科目)		—	0	76	0	—	—	5	0	2	0	0	0	兼5	—	
福祉系科目	福祉系科目	現代社会と福祉Ⅱ		1		○										
		社会保障論Ⅰ		2		○										
		社会保障論Ⅱ		2		○										
		老人福祉論		2		○			1							
		介護概論		2		○			1							
		障害者福祉論		2		○					1					
		児童福祉論		2		○										兼1
		地域福祉論Ⅰ		2		○					1					
		地域福祉論Ⅱ		2		○					1					
		介護技術		2				○								
		精神保健学Ⅰ		2		○					1					
		精神保健学Ⅱ		2		○					1					
		医療ソーシャルワーク論		2		○			1							
		レクリエーション論		2		○										
		福祉コミュニティの実践		2		○					1					集中
小計(15科目)		—	0	30	0	—	—	2	2	1	0	0	0	兼1	—	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
生活系科目	食品安全性学	2後		2		○										兼1	
	食品流通論	2後		2		○										兼1	
	フードスペシャリスト論	2前		2		○										兼1	
	住計画演習Ⅰ	3前		2			○									兼1	
	住計画演習Ⅱ	3後		2			○									兼1	
	建築構造力学	3前		2		○										兼1	
	建築施工	3後		2		○										兼1	
	デザイン論Ⅰ	3前		2		○										兼1	
	デザイン論Ⅱ	3後		2		○										兼1	
	色彩学	3前		2		○										兼1	
	ビジネスの基礎	2前		2		○										兼1	
	マーケティング論	3前		2		○										兼1	
	女性起業論	4前		2		○										兼1	
	小計(13科目)		—	0	26	0	—			0	0	0	0	0		兼9	—
	専門教育科目 関連科目 福祉系科目	保健医療サービス	2後		2		○			1							
		公的扶助論	3前		2		○										
		福祉行財政と福祉計画	3後		2		○										
		社会福祉運営論	3後		2		○										
		就労支援	3前		1		○										
		権利擁護と成年後見制度	3前		2		○										兼1
		更生保護制度	3前		1		○										兼1
		社会福祉調査法	2前		2		○										兼1
		精神医学Ⅰ	2前		2		○										兼1
		精神医学Ⅱ	2後		2		○										兼1
		精神科リハビリテーション学Ⅰ	3前		2		○										兼1
		精神科リハビリテーション学Ⅱ	3後		2		○										兼1
精神保健福祉論Ⅰ		2前		2		○				1							
精神保健福祉論Ⅱ		2後		2		○				1							
精神保健福祉論Ⅲ		4前		2		○				1							
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)		1後		2		○				1							
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)		2前		2		○				1							
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		3後		2		○										兼1	
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		4前		2		○										兼1	
リハビリテーション論		2後		2		○										兼1	
ターミナルケア論		3前		2		○				1							
ソーシャルワーク論Ⅰ		1後		2		○				1							
ソーシャルワーク論Ⅱ		2前		2		○				1							
ソーシャルワーク論Ⅲ		2後		2		○				1							
ソーシャルワーク論Ⅳ		3前		2		○				1							
ソーシャルワーク論Ⅴ		3後		2		○				1							
ソーシャルワーク論Ⅵ		4前		2		○				1							
ソーシャルワーク演習Ⅰ		2通		2			○			1							
ソーシャルワーク演習Ⅱ		3通		2			○				1						
ソーシャルワーク演習Ⅲ		4前		1			○				1						
医療ソーシャルワーク演習Ⅰ		3前		1			○			1						※実習	
医療ソーシャルワーク演習Ⅱ		3後		1			○			1							
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2後		2				○		1	1					共同	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		1				○		1		1				共同		
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3通		2				○		3	1	1				集中		
ソーシャルワーク現場実習	3休		6					○	3	1	1				集中		
精神保健福祉援助演習(基礎)	3前		1				○			1					兼1		
精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	3後		1				○			1					兼1		
精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4前		1				○			1					兼1		
精神保健福祉援助実習指導	3後		3					○		1					兼1		
精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休		2					○		1					兼1 集中		
精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休		2					○		1					兼1 集中		
精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休		3					○		1					兼1 集中		
社会福祉特講Ⅰ	4通		2					○	1								
社会福祉特講Ⅱ	4通		2					○		1							
小計(45科目)		—	0	87	0	—			4	2	1	0	0		兼8	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	福祉生活デザイン特論	3通	4				○		7	2	3				
	卒業研究	4通	8				○		7	2	3				
	小計 (2科目)	—	12	0	0		—		7	2	3	0	0	0	—
	合計 (126科目)	—	30	219	0		—		9	2	3	0	0	兼22	—
教職に関する科目	教師論	2前			2	○									兼1
	教育学	1後			2	○									兼1
	発達と学習の教育心理	2前			2	○									兼1
	教育社会学	2後			2	○									兼1
	中等教育課程論	2・3前			2	○									兼1
	道徳の指導法 (中等)	2・3前			2	○									兼1
	特別活動の指導法 (中等)	2・3前			2	○									兼1
	教育の方法及び技術	3後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3休			2	○									兼1 集中
	教育相談の理論及び方法	2・3後			2	○									兼1
	中等教育実習事前事後指導	4通			1	○			1						兼1 集中・ホニバス
	中等教育実習 I	4通			2			○	1						兼1 集中
	中等教育実習 II	4通			2			○	1						兼1 集中
	教職実践演習 (中・高)	4後			2		○		1						兼2 共同
介護等体験	2・3通			1			○			1				兼1 集中	
小計 (15科目)	—	0	0	28		—		1	0	1	0	0	兼9	—	
総合計 (231科目)			—	40	347	0	—		9	2	3	0	0	兼101	—
学位又は称号	学士 (福祉生活デザイン)		学位又は学科の分野			家政関係、社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることできる。 (2) 学部共通科目 選択科目の現代社会とこども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。 (3) 専門教育科目 必修科目として基幹科目6単位、基礎科目10単位及び専門演習・卒業研究12単位の計28単位を修得し、展開科目及び関連科目の中から56単位以上を修得する。 (4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。 (5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。						1学年の学期区分		2学期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要																	
(現代人間学部 心理学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	人間と文化	日本文学	1前	2		○									兼1		
		外国文学	1後	2		○									兼1		
		日本近現代史	1前	2		○									兼1		
		日本の宗教	1後	2		○									兼1		
		東アジア近現代史	1前	2		○									兼1		
		ヨーロッパ近現代史	1後	2		○									兼1		
		歴史の中の女性	1後	2		○									兼1		
		身近な心理学	1前	2		○			1							兼1	
		文化人類学	1後	2		○										兼1	
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼7	—	
	生活と社会	暮らしの法律学	1前	2		○										兼1	
		憲法と人権	1後	2		○										兼1	
		暮らしの経済学	1後	2		○										兼1	
		国際関係論入門	1前	2		○										兼1	
		社会学概論	1後	2		○										兼1	
		ジェンダー論	1前	2		○										兼1	
		ボランティア概論	1前	2		○										兼1	
		子育てとワークライフバランス	2前	1		○										兼1	
		こどもと子育ての生活環境学	2前	1		○										兼4	オムニバス
	海外研修 (生活と社会)	1・2・3・4・休	1				○								兼2	集中	
	小計 (10科目)	—	0	17	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼13	—	
	人間と自然	身近な自然科学	1前	2		○										兼1	
		暮らしの統計学	1後	2		○			1							兼1	
		地球と宇宙の科学	1前	2		○										兼1	
		情報科学入門	1後	2		○										兼1	
		環境学概論	1後	2		○										兼1	
		身近な医学	1・2前	2		○			1							兼1	オムニバス
		生命倫理	1後	2		○										兼1	
		こどもと自然	1通	2				○	1	1						兼2	集中・共同
	小計 (8科目)	—	0	16	0	—	—	3	1	0	0	0	0	兼7	—		
基礎科目	外国語科目	英語基礎 I	1前	1				○							兼5		
		英語総合 I	1前	1				○							兼6		
		英語基礎 II	1後	1				○							兼5		
		英語総合 II	1後	1				○							兼6		
		日常の英会話	2前・後	1				○							兼3		
		旅行の英会話	2後	1				○							兼2		
		留学の英会話	2後	1				○							兼2		
		おもてなしの英会話	2前	1				○							兼2		
		やさしいビジネス英会話	2前	1				○							兼1		
		歌って覚える英語表現	2後	1				○							兼1		
		英語リスニング初級	2前	1				○							兼1		
		英語リスニング中級	2後	1				○							兼1		
		読むための英語	2前	1				○							兼1		
		実用英語基礎	2後	1				○							兼1		
		身近な英文法	2前	1				○							兼1		
		アカデミック英語	3前	1				○							兼1		
		ドイツ語	1前	2				○							兼1		
		フランス語	1後	2				○							兼1		
		スペイン語	1前	2				○							兼1		
		アラビア語	1後	2				○							兼1		
中国語 I	1前・後	2				○							兼3				
中国語 II	1後	2				○							兼1				
中国語 III	2前	2				○							兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	外国語科目	韓国語Ⅰ	1前・後		2			○								兼1	
		韓国語Ⅱ	1後		2			○								兼1	
		韓国語Ⅲ	2前		2			○								兼1	集中
		海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休		2			○								兼1	集中
		海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休		2			○								兼1	集中
		海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休		2			○								兼1	集中
		日本語講読Ⅰ	1前		1			○								兼1	
		日本語講読Ⅱ	1後		1			○								兼1	
		日本語表現Ⅰ	1前		1			○								兼1	
		日本語表現Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	日本語特講Ⅰ	2前		1			○								兼1		
	日本語特講Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	小計(35科目)	—		4	44	0		—		0	0	0	0	0	0	兼28	—
	リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	1前・後		2			○								兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1					○							兼1	
		情報演習Ⅱ	2前・後		1				○							兼1	
		情報処理	2前・後		2				○							兼3	※講義
		体育講義	1後		1			○								兼1	
		健康スポーツ演習	1前・後		2				○							兼3	
		体育実技	1前		1					○						兼1	
		小計(7科目)	—	1	9	0		—		0	0	0	0	0	0	兼7	—
	カトリック教育科目	キリスト教入門	1前・後		2			○								兼1	
		キリスト教音楽入門	1前・後		1			○								兼1	※演習
		聖書と文化	2前		2			○								兼1	
		キリスト教と日本文化	2後		2			○								兼2	オムニバス
		キリスト教思想	2前		2			○								兼1	
		キリスト教美術	2後		2			○								兼1	
		キリスト教音楽	2後		2			○								兼1	
小計(7科目)		—	3	10	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6	—	
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	1前		2			○								兼1	※演習	
	女性とライフキャリア	1前・後		2			○								兼1		
	ホスピタリティ入門	1前・後		2			○								兼1		
	ホスピタリティ京都	2・3前		2			○								兼2	共同	
	キャリア形成	3前・後		2			○								兼1		
	キャリア形成ゼミ	2通		2				○							兼1	集中	
	インターンシップ	2・3・4通		2					○						兼1	集中	
	海外インターンシップ	2・3・4休		2					○						兼1	集中	
小計(8科目)	—	2	14	0		—		0	0	0	0	0	0	兼7	—		
小計(84科目)	—	10	128	0		—		3	1	0	0	0	0	兼69	—		
学部共通科目	現代社会とこども	1前		1			○								兼1	オムニバス	
	現代社会と女性・家族	1前		1			○								兼1	オムニバス	
	現代社会と高齢者	1前		1			○								兼1	オムニバス	
	現代社会と病者・障がい者	1前		1			○								兼3	オムニバス	
	病児の発達と支援	1休		2				○			2	1			兼7	【専修・保健】との共同(一部)	
	情報科学	3前		2			○								兼1		
小計(6科目)	—	0	8	0		—		4	1	0	0	0	0	兼13	—		
専門教育科目	基礎科目	心理学概論	1前		2			○							1		
		心理統計法Ⅰ	1前		2			○							1		
		心理統計法Ⅱ	1後		2			○							1		
		心理学基礎演習Ⅰ	1前		2				○			4	2				共同
		心理学基礎演習Ⅱ	1後		2				○			3	4				共同
		初級実験演習Ⅰ	1後		2				○			1	1			兼1	共同
		初級実験演習Ⅱ	2前		2				○			2				兼1	共同
		現代社会調査入門	1前		2			○				1					
		行動科学概論	1後		2			○				1					
		心理学研究法	2前	2				○				1					
		推測統計学Ⅰ	2前		2				○				1				
		推測統計学Ⅱ	2後		2				○				1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	基礎科目	心理テスト演習	2前		2			○		1	1					兼2 共同
		質問紙調査法	2前		2			○			1					
		心理学英文講読 (基礎)	2後		2			○								兼1
		心理学英文講読 (応用)	3後		2			○								兼1
		上級実験演習	3前		2				○	1	1					共同
		心理学情報処理	3前・後		2				○	1						
		心理カウンセリング実践 (面接技法)	3前		2				○		2					兼2 共同
	小計 (19科目)	—		14	24	0		—	7	6	0	0	0		兼3	—
	基礎心理領域	知覚心理学	2・3前		2			○		1						
		学習の心理学	2後		2			○		1						
		認知心理学	3前		2			○								兼1
		神経心理学	3・4後		2			○		1						
	小計 (4科目)	—		0	8	0		—	3	0	0	0	0		兼1	—
	生涯発達心理領域	教育心理学概論	1・2後		2			○		1						
		発達心理学概論	2・3前		2			○		1						
		現代青年の心理学	2・3後		2			○			1					
		高齢者の心理学	3・4前		2			○		1						
	小計 (4科目)	—		0	8	0		—	3	1	0	0	0	0		—
	社会・産業心理領域	現代社会の心理学	1後		2			○		1						
		対人関係論	2・3前		2			○		1						
生活環境の心理学		2・3前		2			○		1							
消費者行動の心理学		2・3前		2			○		1							
家族心理学		2・3後		2			○								兼1	
社会・ビジネス心理フィールド研修		2通		2				○	3	1					集中・共同	
服飾心理学		2後		2			○								兼1	
産業心理学	3後		2			○								兼1		
小計 (8科目)	—		0	16	0		—	3	1	0	0	0		兼3	—	
臨床心理・精神医学領域	心理カウンセリング概論	1前		2			○			1						
	心理テスト論	1後		2			○		1							
	臨床心理学概論	2前		2			○		1							
	精神保健学Ⅰ	2前		2			○								兼1	
	精神保健学Ⅱ	2後		2			○								兼1	
	パーソナリティ心理学	2・3前		2			○		1							
	障害児・者の心理学	2・3前		2			○			1						
	臨床心理アセスメント	2後		2			○			1						
	無意識の心理学	2・3後		2			○			1						
	スクールカウンセリング論	3・4前		2			○			1						
	心理療法論	3・4前		2			○								兼1	
	心理関係法規論	3休		2			○								兼1	
	精神医学Ⅰ	2・3前		2			○		1							
	精神医学Ⅱ	2・3後		2			○		1							
	犯罪心理学	3・4後		2			○								兼1	
認知行動療法概論	3後		2			○			1							
心理カウンセリング実践 (アートセラピー)	3後		2				○		2					兼1 共同		
心理カウンセリングフィールド研修	3通		2				○	2	2					集中・共同		
小計 (18科目)	—		0	36	0		—	3	5	0	0	0		兼5	—	
小計 (34科目)	—		0	68	0		—	7	6	0	0	0		兼8	—	
関連科目	現代ジャーナリズム論	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	福祉住環境デザイン	2前		2			○								兼1	
	食品流通論	2後		2			○								兼1	
	消費者教育	3前		2			○								兼1	
	衣生活情報論	3後		2			○								兼1	
	ビジネスの基礎	4前		2			○								兼1	
	マーケティング論	4前		2			○								兼1	
	女性起業論	4前		2			○								兼1	
小計 (8科目)	—		0	16	0		—	0	0	0	0	0		兼6	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	関連科目 精神保健福祉領域	現代社会と福祉Ⅰ		2		○										兼1	
		現代社会と福祉Ⅱ		2		○										兼1	
		地域福祉論Ⅰ	3前		2		○										兼1
		地域福祉論Ⅱ	3後		2		○										兼1
		医学一般	2前		2		○										兼1
		社会保障論Ⅰ	2前		2		○										兼1
		社会保障論Ⅱ	2後		2		○										兼1
		障害者福祉論	2後		2		○										兼1
		保健医療サービス	2後		2		○										兼1
		公的扶助論	3前		2		○										兼1
		福祉行財政と福祉計画	3後		2		○										兼1
		権利擁護と成年後見制度	3前		2		○										兼1
		精神科リハビリテーション学Ⅰ	3前		2		○										兼1
		精神科リハビリテーション学Ⅱ	3後		2		○										兼1
		精神保健福祉論Ⅰ	2前		2		○										兼1
		精神保健福祉論Ⅱ	2後		2		○										兼1
		精神保健福祉論Ⅲ	4前		2		○										兼1
		精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	1後		2		○										兼1
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2前		2		○										兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	3後		2		○										兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	4前		2		○										兼1
		精神保健福祉援助演習（基礎）	3前			1		○		1							兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	3後			1		○		1							兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	4前			1		○		1							兼1
		精神保健福祉援助実習指導	3後			3					1						兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3休			2					1						兼1 集中
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3休			2					1						兼1 集中
		精神保健福祉援助実習Ⅲ	3休			3					1						兼1 集中
		社会福祉特講Ⅱ	4通			2		○									兼1
	小計（29科目）		—	0	42	15	—	—	—	1	1	0	0	0	0	兼8	—
	小計（37科目）		—	0	58	15	—	—	—	1	1	0	0	0	0	兼14	—
	専門演習・卒業研究	心理学演習	3通	4				○		7	6						
卒業研究		4通	4				○		7	6							
卒業論文		4通		4			○		7	6							
小計（3科目）			—	8	4	0	—	—	7	6	0	0	0	0	0		
合計（93科目）			—	22	162	15	—	—	7	6	0	0	0	0	兼22	—	
合計（183科目）			—	32	290	15	—	—	7	6	0	0	0	0	兼96	—	
学位又は称号	学士（心理学）		学位又は学科の分野				文学関係										

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることができる。</p> <p>(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会とこども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。</p> <p>(3) 専門教育科目 必修22単位、合計84単位以上修得すること。ただし、コースごとに必修と選択必修を定める（心理カウンセリングコースは、コース必修科目（心理テスト演習、質問紙調査法、心理カウンセリング実践（面接技法）、心理テスト論、臨床心理学概論、心理関係法規論、精神医学Ⅰ、心理カウンセリングフィールド研修）16単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から22単位以上修得する。社会・ビジネス心理コースは、コース必修科目（初級実験演習Ⅱ、現代社会調査入門、推測統計学Ⅰ、推測統計学Ⅱ、現代社会の心理学）10単位、必修以外の専門基礎科目と専門展開科目から28単位以上修得すること。）。</p> <p>(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。</p> <p>(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。</p>						1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要

（現代人間学部 こども教育学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間と文化	日本文学	1前		2		○									兼1	
	外国文学	1後		2		○									兼1	
	日本近現代史	1前		2		○									兼1	
	日本の宗教	1後		2		○									兼1	
	東アジア近現代史	1前		2		○									兼1	
	ヨーロッパ近現代史	1後		2		○									兼1	
	歴史の中の女性	1後		2		○									兼1	
	身近な心理学	1前		2		○									兼1	
	文化人類学	1後		2		○									兼1	
	小計（9科目）	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
生活と社会	暮らしの法律学	1前		2		○									兼1	
	憲法と人権	1後		2		○									兼1	
	暮らしの経済学	1後		2		○									兼1	
	国際関係論入門	1前		2		○									兼1	
	社会学概論	1後		2		○									兼1	
	ジェンダー論	1前		2		○									兼1	
	ボランティア概論	1前		2		○									兼1	
	子育てとワークライフバランス	2前		1		○									兼1	
	こどもと子育ての生活環境学	2前		1		○									兼4	オムニバス
	海外研修（生活と社会）	1・2・3・4休		1			○								兼2	集中
小計（10科目）	—	0	17	0	—			0	0	0	0	0	0	兼13	—	
人間と自然	身近な自然科学	1前		2		○									兼1	
	暮らしの統計学	1後		2		○				1					兼1	
	地球と宇宙の科学	1前		2		○									兼1	
	情報科学入門	1後		2		○									兼1	
	環境学概論	1後		2		○									兼1	
	身近な医学	1・2前		2		○			1						兼1	オムニバス
	生命倫理	1後		2		○									兼1	
	こどもと自然	1通		2			○			2					兼2	集中・共同
小計（8科目）	—	0	16	0	—			1	2	0	0	0	0	兼8	—	
基礎科目	英語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼5	
	英語総合Ⅰ	1前	1				○								兼6	
	英語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼5	
	英語総合Ⅱ	1後	1				○								兼6	
	日常の英会話	2前・後		1			○								兼3	
	旅行の英会話	2後		1			○								兼2	
	留学の英会話	2後		1			○								兼2	
	おもてなしの英会話	2前		1			○								兼2	
	やさしいビジネス英会話	2前		1			○								兼1	
	歌って覚える英語表現	2後		1			○								兼1	
	英語リスニング初級	2前		1			○								兼1	
	英語リスニング中級	2後		1			○								兼1	
	読むための英語	2前		1			○								兼1	
	実用英語基礎	2後		1			○								兼1	
	身近な英文法	2前		1			○								兼1	
	アカデミック英語	3前		1			○								兼1	
	ドイツ語	1前		2			○								兼1	
	フランス語	1後		2			○								兼1	
	スペイン語	1前		2			○								兼1	
	アラビア語	1後		2			○								兼1	
中国語Ⅰ	1前・後		2			○								兼3		
中国語Ⅱ	1後		2			○								兼1		
中国語Ⅲ	2前		2			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	外国語科目	コリア語Ⅰ		2			○								兼1		
		コリア語Ⅱ		2			○								兼1		
		コリア語Ⅲ		2			○								兼1	集中	
		海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休	2			○								兼1	集中	
		海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休	2			○								兼1	集中	
		海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休	2			○								兼1	集中	
		日本語講読Ⅰ	1前	1				○								兼1	
	日本語講読Ⅱ	1後	1				○								兼1		
	日本語表現Ⅰ	1前	1				○								兼1		
	日本語表現Ⅱ	1後	1				○								兼1		
	日本語特講Ⅰ	2前	1				○								兼1		
	日本語特講Ⅱ	2後	1				○								兼1		
	小計(35科目)	—	4	44	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼28	—	
	リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	1前・後		2		○									兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1				○								兼1	
		情報演習Ⅱ	2前・後		1				○							兼1	
		情報処理	2前・後		2				○							兼3	※講義
		体育講義	1後		1		○					1				兼2	
		健康スポーツ演習	1前・後		2				○				1			兼1	
		体育実技	1前		1					○						兼1	
	小計(7科目)	—	1	9	0	—	—	—	—	0	0	0	1	0	兼6	—	
	カトリック教育科目	キリスト教入門	1前・後	2			○									兼1	
		キリスト教音楽入門	1前・後	1			○									兼1	※演習
		聖書と文化	2前		2		○									兼1	
		キリスト教と日本文化	2後		2		○									兼2	オムニバス
		キリスト教思想	2前		2		○									兼1	
		キリスト教美術	2後		2		○									兼1	
キリスト教音楽		2後		2		○									兼1		
小計(7科目)	—	3	10	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6	—		
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	1前	2			○									兼1	※演習	
	女性とライフキャリア	1前・後		2		○									兼1		
	ホスピタリティ入門	1前・後		2		○									兼1	共同	
	ホスピタリティ京都	2・3前		2		○									兼2		
	キャリア形成	3前・後		2		○									兼1		
	キャリア形成ゼミ	2通		2			○								兼1	集中	
	インターンシップ	2・3・4通		2				○							兼1	集中	
	海外インターンシップ	2・3・4休		2					○						兼1	集中	
小計(8科目)	—	2	14	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7	—		
小計(84科目)	—	10	128	0	—	—	—	—	1	2	0	1	0	兼69	—		
学部共通科目	現代社会とこども	1前		1		○			1						兼1	オムニバス	
	現代社会と女性・家族	1前		1		○									兼2	オムニバス	
	現代社会と高齢者	1前		1		○									兼2	オムニバス	
	現代社会と病者・障がい者	1前		1		○									兼3	オムニバス	
	病児の発達と支援	1休		2			○		1	5					兼4	オムニバス	
	情報科学	3前		2		○				1					兼4	オムニバス・異時(一部)	
小計(6科目)	—	0	8	0	—	—	—	2	6	0	0	0	0	兼10	—		
専門教育科目	基礎科目	こども教育基礎演習	1前	1			○		4	10	1	1				共同	
		こども教育フィールド研修	1前	1			○		3	10	1	1				集中・共同	
		教職論	1前	2			○			1							
		教育原理	1前	2			○		1								
		教育史	3後	2			○								兼1		
		こどもの教育心理学	1前	2			○				1						
		こどもの発達心理学	1後	2			○				1						
		教育と社会	2後	2			○		1								
		教育経営論	2後	2			○				1						
		小計(9科目)	—	8	8	0	—	—	—	4	10	1	1	0	兼1	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	幼小共通科目	教育課程論		2		○			1								
		教育の方法と技術	2後	2		○			1								
		教育評価	3後		2		○					1					
		教育相談の理論と方法	3前	2			○										兼1
		教育実習事前事後指導	3前		1		○			1	1						
		初等教育実習Ⅰa	3前		2				○	2	7	1		1			
		初等教育実習Ⅱa	4前		2				○	2	7	1		1			
		初等教育実習Ⅰb	3前		2				○	2	7	1		1			
		初等教育実習Ⅱb	4前		2				○	2	7	1		1			
		教職実践演習(幼・小)	4後		2				○	2	1						
		国語	1後		2		○			1							
		算数	1後		2		○				1						
		生活	1後		2		○				1	1					
		障害児・者の心理学	2前		2		○										兼1
		学習の心理学	2後		2		○										兼1
		スクールカウンセリング論	3前		2		○										兼1
		教職専門ゼミナール	3前		2		○					1					
	小計(17科目)			4	29	0		-	2	7	1	1	0		兼3	-	
	展開科目	幼保共通科目	保育課程論	3前		2		○		1							
			保育内容総論	1後		2			○			1					
			保育内容(健康)	2前		2			○			1					
			保育内容(人間関係)	2前		2			○		1						
			保育内容(環境)	2前		2			○								兼1
			保育内容(言葉)	2後		2			○								兼1
			保育内容(表現)	2後		2			○			1					
			幼児理解の理論と方法	1後		2		○				1					
			保育・教職実践演習	4後		2			○			3					
			乳児保育	3後		2			○			1					
			障害児保育	3後		2			○			1					
			こどもの保健Ⅰ	2後		2		○			1						
			こどもの保健Ⅱ	3前		2		○			1						
			こどもの保健演習	2休		1			○		1						
			こどもの食と栄養	3前		2			○								
			家族援助論	3前		2		○									
			保育相談支援	3後		1			○								
保育表現演習Ⅰ			3前		1			○		1	4						
保育表現演習Ⅱ			3後		1			○		1	4						
保育心理学演習			2前		1			○			1						
保育原理			1後		2			○			1						
保育者論			1後		2		○			1							
保育実習指導Ⅰ-1			2前		1			○		1	4						
保育実習指導Ⅰ-2			2後		1			○		1	2						
保育実習指導Ⅱ			3後		1			○		1	3						
保育実習Ⅰ-1			2休		2					1	4						
保育実習Ⅰ-2			2休		2					1	2						
保育実習Ⅱ			3休		2					1	4						
児童福祉論			2前		2		○										
現代社会と福祉Ⅰ			2前		2		○										
現代社会と福祉Ⅱ			2後		2		○										
地域福祉論Ⅰ			2後		2		○										
相談援助演習			2前		1			○									
社会的養護	2後		2		○												
社会的養護内容	2後		1			○											
小計(35科目)			0	60	0		-	2	4	0	0	0		兼8	-		
学科共通科目	ピアノ実技	1前		1						2							
	音楽Ⅰ	1後		1						2							
	音楽Ⅱ	2前		1						2							
	音楽Ⅲ	2後		1						2							
	図工Ⅰ	2前		1						1							
	図工Ⅱ	2前		1						1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	関連科目	心理統計法Ⅰ	1前	2		○									兼1
		心理統計法Ⅱ	1後	2		○									兼1
		基礎統計学	1後	2		○				1					
		推測統計学Ⅰ	2前	2		○									兼1
		推測統計学Ⅱ	2後	2		○									兼1
		介護等体験	2・3通	1					○		1				兼1
		学校経営と学校図書館	2・3・4前		2		○								兼1
		学校図書館メディアの構成	2・3・4後		2		○								兼1
		学習指導と学校図書館	2・3・4前		2		○								兼1
		読書と豊かな人間性	2・3・4後		2		○								兼1
	情報メディアの活用	2・3・4前		2		○								兼1	
小計 (11科目)			0	15	6		—		0	2	0	0	0	兼6	
業習専研・門究卒演	こども教育演習	3通	4				○		3	7	1	1			
	卒業論文	4通	4				○		3	6	1	1			
	小計 (2科目)		—	8	0	0		—	3	7	1	1	0		
合計 (132科目)			—	22	212	6		—	4	10	1	1	0	兼23	
総合計 (222科目)			—	32	348	6		—	4	10	1	1	0	兼92	
学位又は称号		学士 (こども教育)		学位または学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>(1) 共通教育科目 必修科目10単位、教養科目の人間と文化、生活と社会及び人間と自然の3領域から各2単位以上、外国語科目の選択科目から4単位以上、カトリック教育科目の選択科目から2単位以上、ライフキャリア形成科目の選択科目から2単位以上、合計24単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、外国人留学生専用の日本語科目の単位をもって外国語科目の必要単位数に充てることできる。</p> <p>(2) 学部共通科目 選択科目の現代社会とこども、現代社会と女性・家族、現代社会と高齢者、現代社会と病者・障がい者の4科目から2科目2単位以上修得する。</p> <p>(3) 専門教育科目 基礎科目8単位、展開科目6単位及び専門演習・卒業研究8単位の必修科目計22単位、基礎科目の教育社会学及び教育経営論から選択必修2単位以上、展開科目の選択科目から46単位以上修得し、専門教育科目全体で合計84単位以上修得する。 ただし、所属する履修コースに応じ、以下のとおりコース必修科目を含めて修得しなければならない。</p> <p>①幼稚園教員・保育士コース コース必修科目＝展開科目のうち、保育課程論、保育内容総論、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(言葉)、保育内容(表現)、幼児理解の理論と方法(以上16単位) コース適用除外科目＝展開科目の「小学校科目」群のうち、こども情報リテラシーを除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目</p> <p>②幼稚園・小学校教員コース コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導(以上26単位) コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、保育課程論から幼児理解の理論と方法までの科目及び児童福祉論を除いた科目</p> <p>③小学校・特別支援教員コース コース必修科目＝教育課程論、国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科指導法、生活科指導法、音楽科指導法、図工科指導法、家庭科指導法、体育科指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、生徒指導・進路指導(以上26単位) コース適用除外科目＝「幼保共通科目」群のうち、児童福祉論を除いた科目及び「特別支援科目」群のうち、視覚障害者の心理・生理・病理から特別支援教育実習までの科目</p> <p>(4) 学際教育科目 他学科等科目から14単位まで履修できる。なお、学際教育科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。</p> <p>(5) (1)～(4)全体で124単位以上修得する。</p>						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(現代人間学部 福祉生活デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人間と文化	日本文学	講義形式で行う授業である。日本文学の表現と文化背景に対する理解を深めることを目標とする。はじめに文学というジャンルの特徴について考察する。特に言語表現としての特徴を理解するために、絵画や音楽など、他ジャンルの表現と比較していく。続いて、国際的交流の中で形成されてきた日本文化の特徴をふまえながら、具体的な作品の分析をとおして、日本文学の特徴に対する理解を深める。これら2つの視点を前提としながら、日本文学に対する概説的な知識を身につけると共に、文学理念や文学表現理論のテキストと結びつけ、言語表現としての文学を意識的に読解できるような分析力を育てる。	
	外国文学	アラブ文学とはアラビア語で表現された文学をさす。その起源はイスラームが興る以前の西暦6世紀に遡る。それ以来、アラブ文学は現代に至るまで豊かで固有の文学伝統を築いてきた。本科目では代表的ジャンル（聖典、詩、物語など）の各作品（和訳）を注意深く読むことによって、その文学伝統を理解し、内容の考察及び解釈の仕方を学ぶ。具体的には、アラブ文学に大きな影響を与えてきたイスラームの聖典「コーラン」、もっとも長い歴史をもつアラブ古典詩、そして今や世界文学となった「アラビアンナイト」を扱う。	
	日本近現代史	幕末の開国につき、第二大戦終了後、時の重光外務大臣が無条件降伏は初めてではなく、幕末の開国はとりもなおさず無条件降伏であった、と語ったという。開国から急速にヨーロッパ化を断行し、法制を整え、条約改正を成功させ、富国強兵・殖産興業のスローガンの下、近代国家として出発した。その後大正デモクラシーを経て一五年戦争に突入し、第二大戦を迎えた。戦後は、講和条約の下で、非軍事化、政治・経済体制の民主化をはかり、平和憲法を制定し、軽武装・貿易立国の道を進み、経済大国となった。この間、猛烈なアメリカ化が進み、その後、国際化の大波、さらにグローバリゼーションが来た。	
	日本の宗教	日本の基層文化にある易と陰陽五行の概念をキーワードにとして、日本の宗教である陰陽道と神道論を考える。中国で生まれた陰陽五行説は、儒学のみならず、道教、仏教、天文学、暦学、医学、薬学、民間信仰にも浸透し、朝鮮半島や日本にも伝わった。講義では、易と陰陽五行説の基本概念を明らかにしたうえで、日本の陰陽道、神道論説、とくに仏教に反論した反本地垂迹（ほんじすいじゃく）説においての展開を検討する。また、日本のカミ、信仰の在り方、死生観や価値についても考える。	
	東アジア近現代史	現在、世界の成長センターとされている東アジア地域の多くが欧米列強や日本の植民地支配もしくは、その強い影響下にあった。脱植民地化や近代化の過程において、この地域は大きな政治的・社会的な変動を経験した。今日の東アジア地域の社会と国家を考えるには、この地域が当時、どのような状況におかれていたか、そして、その中でどのように国民国家形成を成し遂げようとしたかを理解することが不可欠である。本講義は、そうした歴史学的な視座を受講生に学習してもらうことを目的とする。	
	ヨーロッパ近現代史	第二次世界大戦以降、東西に分断されてきたヨーロッパは、冷戦後はアメリカの一極集中に対抗するかたちで多様性のなかの統合を強めつつある。前半では、EUの歴史や課題、「旧東欧」諸国の近年の変化など概観し、グローバル化した現在のヨーロッパを理解する。後半では、民族、文化、宗教、政治経済、芸術などさまざまな分野から、現代ヨーロッパの複数国の過去20年の歴史を、グループごとの資料収集と報告も交えながら議論する。同時に、それらと日本のかかわりを考察ことも視野に入れた講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 教養科目	人間と文化	歴史の中の女性	男性中心とされる歴史において女性は社会とどのように係わりいかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を歴史的に考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会や、修道女の社会的使命などについての考察も行なう。具体的には、映画や書籍に登場する人物をとりあげ、その女性の職業や家庭など生涯について考察する。	
		身近な心理学	心理学は人間の行動・心理を科学的な手法で理解しようとする学問であるが、心理学で取り扱う問題意識は、そのほとんどが日常生活で感じることや疑問に内在される。たとえば、①血液型の違いで人の性格は決まるのか？②どのような時、目の錯覚は起こるのか？③思春期、親に反抗するのはなぜ？④記憶力がアップして成績がよくなる方法はあるか？など、さまざまな観点から、心理学的問題意識が挙げられる。本授業では、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、心理学について、このような日常生活での問題意識を例に挙げながら、心理学で行う基礎的な研究方法について解説する。	
		文化人類学	「文化」は人と人が結びつくところに生まれるが、文化には様々な違いがあり、異なる文化同士が対立することもある。グローバル化が進み、異文化間の交流が盛んになる現在、そうした対立が様々な形で現れ、それらを解消することがますます重要になっている。本講義では、一見近寄りたく感じるような「異文化」や当たり前になっている「自文化」を見つめ直すことにより、「異文化」と「自文化」との関わりや「伝統文化」と「近代文明」との関係、自己と社会との関わりについて理解を深め、文化的な対立の解消を図る道筋を探る。	
	生活と社会	暮らしの法学	日常生活で起こりがちなトラブル（注文した商品が届かない、賃貸物件の敷金を返してもらえない、交通事故に遭ってケガをした等）を素材とし、法学の基礎、とりわけ、民法や民事特別法（借地借家法、消費者契約法など）の基本的な問題を扱う。授業時における講師と受講者あるいは受講者どうしのやりとりを通して、知識の習得とともに、「法律の条文や判例を手がかりにしなが、他人を説得できるような結論を導き出す」という法的思考を身につけることを目標とする。	
		憲法と人権	その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書であり、国の基本法である「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方があるのかを学ぶ。 ①憲法とは何か ②権力分立の意義 ③人権保障の意義 ④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考える） ⑤国際社会における日本国憲法（特に人権の視点から） テキストから具体例を取り上げ、それに関連する憲法の条文の意味や内容などを考える。	
		暮らしの経済学	近年、経済のグローバル化やさまざまな分野における規制緩和によって社会や経済の構造が大きく変革し、市場メカニズムの役割はますます重要になっている。本講義の目標は、市場経済のしくみとその特徴について学ぶと同時に、その限界についても理解することである。いま日本社会が直面している問題は、雇用問題、格差問題、財政赤字、少子高齢化、年金問題などさまざまあるが、この講義で習得した理論的な知識をもとに、多様な社会・経済問題について議論できる力を養ってもらいたい。	
		国際関係論入門	急速なグローバル化の進行する21世紀の国際社会において、何が起きているか、そこで、生じる様々な課題に、私たちはどのように対処したらよいかを学生に考えさせる。経済面でのグローバル化の進展に伴い、宗教、地域主義、民族主義など根ざす、「アイデンティティの政治」が近年活発である。格差の拡大や「人間の安全保障」の課題に、国家や国際機関だけでなく、広く「市民社会」が、どのように対処すべきかについて具体的に考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 生活と社会	社会学概論	<p>本講義は社会学の基礎知識を習得することを主な目的とし、さまざまな社会問題や現象を取り上げ、一つひとつ検討しながら社会のメカニズムを明らかにしていく。「社会」とは個々の家庭・家族から日常的な社会生活の場、さらには国際社会に至るまでを指しており、そこに生じている社会現象や諸問題を学ぶことによって、物事に対する多角的な視点を獲得し、日常生活の中に隠された「ひと・自己」と「社会」の関係性に気づくことを目指す。最終的に、それぞれが「社会」に対する考え方や見方を養い、積極的に「社会」に対して関わっていけるような姿勢や態度、行動力を育成する。</p>	
	ジェンダー論	<p>人間は、人であると同時に、生まれながらにして、女か男である。そして、「女」「男」という身体的な相違、性別の相違＝性差が、多くの社会において、時として、「人」の普遍的な自由と平等の保障を阻んできた。性差を根拠として差別が存在するのはなぜか。女であり、男であるということと、女らしい、男らしいということとは別である。女らしさ・男らしさというのは、性差に基づく認識であり、社会的、文化的に形成されてきた。ある取り扱いについて、男女を区別して異なる取り扱いをしている場合、そこに「合理的説明」が必要である。本講義では、身体・性・生と個人の尊重の問題を扱う。</p>	
	ボランティア概論	<p>キリスト教に影響された西欧倫理を土台にもつボランティアの性格は、日本において変化がみられ、ボランティア理解はいまいである。ボランティアは、自由や正義のために、またよりよい社会のために、自ら進んでする活動であり、共に生きる社会の実現をめざし、相手の立場に立ってものを考え行動する心のはたらきが不可欠である。ここではまず基礎から、ボランティアの根本精神の理解と、多種のボランティア活動への認識に入ろうとするものである。</p>	
	子育てとワークライフバランス	<p>現代日本におけるワークライフバランスの現状や課題について、子育てに関する事項を中心に、幅広く学ぶ科目です。企業や教育現場、教育雑誌界や地域社会など、さまざまな分野で活躍している「母」「父」の立場の方や関連する仕事をしている方にお話をうかがい、ワークショップや討論をすることを通じて、受講生自身の生き方について考えます。7回半の授業のうち5回は外部講師をお招きして学ぶ科目であり、担当者はその授業のコーディネータをつとめます。</p>	
	こどもと子育ての生活環境学	<p>こどもの発達にとって、またこどもを育てる親や子育て世帯の暮らしにとって重要な生活環境のあり方を、「衣」「食」「住」それぞれの視点から考える。こどもや子育て世帯にとって安全、安心で健やかな生活の条件を、社会状況や政府の少子化対策、女性の生き方や家族の変化など、こどもと子育て世帯をめぐる諸情勢と関連付けて理解し、将来の自己の問題として主体的に考えていけるようにすることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全7.5回)</p> <p>(5) 中村 久美／2.5回 科目の趣旨概説こどもと家族の住空間-こども室をめぐる問題、子育て世帯を支援する新しい居住の形、まとめ</p> <p>(1) 牛田 好美／2回 こどもと子育て期のファッション-こどものファッション、出産、子育てのファッション</p> <p>(6) 藤原 智子／2回 こどもと母親の食生活こどもの成長と食生活</p> <p>(4) 竹原 広美／1回 こどもの遊びと住環境</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	生活と社会	海外研修（生活と社会）	<p>(2) 酒井 久美子/隔年担当)</p> <p>デンマークが福祉先進国、生活大国といわれる理由について、国民の考え方、教育のあり方、福祉の現状について学ぶ。また、デンマークの暮らしと文化・教育、高齢者、児童、障害者と福祉サービスとの関わりについて実地に学ぶ。そのための方法として、各福祉分野の施設訪問、幼稚園や国民学校訪問、バリアフリーの商業施設や住環境の視察、デンマークの人々や留学中の外国人との交流や日常生活に触れ、ディスカッション等おこない、国際理解や国際的視野を広げる。</p> <p>(6) 藤原 智子/隔年担当)</p> <p>美食大国として名高いフランスでは豊富な食材を用いた様々な加工食品が、また一方で冷涼な気候のドイツにおいては保存食が発達し、今なおそれぞれの風土に合わせた伝統的な技術の継承が行われ、今なおそれぞれの風土に基づいた新しい技術の導入も積極的に行われている。これらの加工保存技術を実地に体験し、合理的な食品の製造過程を学び、食文化への造詣を深める。</p>	集中
		身近な自然科学	<p>身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象の理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見ることができるようになることを目指したい。このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」へとつながるものである。</p> <p>授業では講義とともに、観察・実験活動やものづくり活動を行う予定であるので積極的な参加が求められる。</p>	
	暮らしの統計学	<p>統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野である。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを用いて統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。本科目で扱うトピックは、「統計データの種類や集計法」、「グラフの種類と特徴」、「統計データの代表的な指標」、「二変量データの表現」などである。授業の前半時間は主に講義形式によりそれぞれのトピックの解説を行い、後半は主に課題演習などを行う。</p>		
	人間と自然	地球と宇宙の科学	<p>地球環境がどのように機能しているのかを学び、その科学的な理解を深めることを目標とする。具体的には、①地球内部の構造と大地の動きについて理解し、それに基づいて、地殻変動現象（地震・火山活動・造山運動）のしくみを説明できる、②大気と太陽エネルギーの性質について理解し、それに関連した地球環境問題（オゾン層の破壊・地球温暖化）を考えるための科学的基礎を養う、③地球形成時と現在の地球環境の比較を通じて、大気の進化と生命との関係性を概観できる、の3点を個別課題とする。</p>	
	情報科学入門	<p>『あなたはコンピュータを理解していますか？～10年後、20年後まで必ず役立つ根っこの部分がきっちりわかる！～』（梅津信幸著）を教科書に使い、我々が毎日使うコンピュータ（PC、スマホ、タブレットなど）の基盤になっている理論や原理の第一歩を学ぶ。</p> <p>理解を容易にするために、講義に加えて演習としての実験も取り入れる。その一つとして、まず、センサーからの入力に対応する、音や光や動きを出力させる実験を行い、その後、ハードウェアだけでは実現できない動きをソフトウェアの助けを得て実現させる実験を行う。これらの実験を通して、なぜコンピュータがプログラム通りの動作しかできないのかを理解する。</p>	講義10時間 演習20時間	
	環境学概論	<p>授業を通じて、深刻さを増す環境問題と現代社会のライフスタイルが直結していることに気づくことを目指す。生身の自分をとりまく環境がどのようなものであるかを考える機会にし、その上で、受講者および授業者が同時代、同社会に生きる「人」として共に生きていく姿について考えていきたい。具体的な課題は以下のとおりである。①「環境」、「環境問題」について理解する②環境問題とライフスタイル（および自分）との関連に気づく③今後の社会（および自分）のビジョンについて考える。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と自然	身近な医学	<p>医療の基礎的知識・医療用語の習得と生活習慣病をはじめとする代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解してく。すなわち、医療における基礎的な用語の使用、代表的な疾患について概念、診断・検査法、治療方法そして予防法が説明できることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(24 萩原 暢子／7回) 糖尿病、血液疾患、呼吸器疾患（炎症性疾患、ぜんそくなど）、腎臓疾患、膠原病、甲状腺そのた内分泌疾患、婦人科疾患、小児科疾患などを担当</p> <p>(16 河瀬 雅紀／8回) 高血圧、心臓疾患、脳卒中、消化器がん、肺がん、肝臓・胆のう・膵臓疾患、精神疾患、頭痛・めまい・腰痛などを担当</p>	オムニバス方式
	生命倫理	<p>「臓器移植」「葉害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらおう。具体的な個別課題は、現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし、などである。</p>	
	子どもと自然	<p>本授業では、こどもが自然と触れ合える活動を、企画・開発することを通して、こどもの心理・教育と自然科学について、それぞれ実践的に学ぶ機会を提供する。具体的には、地域の子ども（主に幼児と小学生）と大学生が関わり、自然素材を活用して造形活動を行ったり、自然観察や理科実験を行ったりする、地域貢献プログラムの企画・実施を行う。複数の担当教員が、理科教育、図工科教育、発達心理学の学際的な立場から関わり、こどもの自然に対する関心をどのように育てるかという観点から、教育的指導を行う。</p>	集中・共同
	英語基礎Ⅰ	<p>本講義の目的は、プレースメントテストによって示された英語力によって、それぞれの段階に応じて、簡単な英語文を効率よく読むことができる能力を開発し、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を養うことである。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけさまざまな主題や表現を経験しながら、読解スキルの習得を図る。さらに、読む練習を通して、基礎的な文法の事項の復習と定着、語彙ビルディングも同時に行う。</p>	
	英語総合Ⅰ	<p>本講義の目的は、プレースメントテストによって示された英語力によって、それぞれの段階に応じて、簡単な英語文を効率よく書き、英語で発信することができる能力を開発することである。さまざまな主題で、平明な英語の文を書く演習を行う。この書く練習を通して、初級基本英文法の復習や確認、総合的なライティング・スキルの習得を図るとともに、語彙ビルディングも行う。最終的に、「段落」を組み立てる能力とともに、自信を持って「書く」ことができるようになることを目指す。</p>	
外国語科目	英語基礎Ⅱ	<p>本講義の目的は、英語基礎Ⅰに引き続き、英語力に応じて、簡単な英語文をさらに効率よく読むことができる能力を開発し、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を獲得することである。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけさまざまな主題や表現を経験しながら、読解スキルの習得を図る。さらに、読む練習を通して、基礎的な文法の事項の復習と定着、語彙ビルディングも同時に行う。受講者は、一年の学習成果を確認するために、年度末に実施する客観テストを受験する必要がある。</p>	
	英語総合Ⅱ	<p>本講義の目的は、英語総合Ⅰに引き続き、英語力に応じて、簡単な英語文をさらに効率よく書き、英語で発信することができる能力を獲得することである。さまざまな主題で、より長く平明な英語の文を書く演習を行う。この書く練習を通して、初級基本英文法のさらなる復習や確認、総合的なライティング・スキルの習得を図るとともに、語彙ビルディングも進める。受講者は、一年の学習成果を確認するために、年度末に実施する客観テストを受験する必要がある。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	日常の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、日常的な内容に関するリスニング力を鍛える。同時に、ペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられた身近なトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	旅行の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、海外旅行に必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	留学の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、留学やホームステイに必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	おもてなしの英会話	授業中、学生は旅行代理店、ホテル、レストランなど観光産業で行われる会話や路上で旅行者を助けるための会話に必要なリスニング力および会話力を、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまでペアおよびグループワークを通して英語のみで鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	やさしいビジネス英会話	授業中、学生は教師、学習者同士の活動を通して、ビジネスシーンに必要なと思われるリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、ビジネスに関する話題について、応対したり、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関する語彙力、リスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	歌って覚える英語表現	英語がうまくなりたいと思いつつながら、手段がわからないという学習者に対して、英語を身近に感じながら、自然に英語表現の習得を目指す実践的授業である。歌を唄うという演習を通して、英語独特のリズムやイントネーションが無理なく矯正されることに加え、歌詞の聞き取りにより、音声独特の連結などを積極的に聞き取ろうとする態度を涵養する。さらに、歌詞理解を図ることによって、異文化理解を促進することが可能となる。また、歌詞を覚えることで、より多くの日常的な英語表現を習得することを目指す。	
	英語リスニング初級	本授業は英語リスニング初級レベルの授業である。国際社会において「相手の言っていることを理解する」ためには総合的な英語力を向上させる必要がある。英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点を絞って練習を行う。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用して習得することを目指す。	
	英語リスニング中級	本授業は英語リスニング中級レベルの授業である。さらなるリスニング力強化を目指した授業を行う。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指す。どこでも誰にでも手に入る映画や歌やラジオ劇などを利用して、単なるリスニングの練習だけではなく、身の回りにおける機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	読むための英語	本講義の目的は、英語で小説・ニュース記事などを読むことによって、英語学習を楽しみながら英語の学力を全体的にのびすことである。このクラスの受講生は、指定する文献またはEnglish graded readersの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持つ。受講生は、いろいろな英語文献を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになることを目指す。	
	実用英語基礎	本授業の目的は、実用的に英語を使えるようになるための、最低限必要な基礎知識の習得することである。本授業では、辞書の使い方や英語の基本文法を初歩から学習しなおしたり、音読や筆写という基礎的な訓練なども取り入れる。同時に、教材を通してTOEIC (R)に出題される基本的なビジネス英語を理解できるように、演習を進める。最終的には実際のTOEIC (R)にチャレンジできるように、上記の目標達成を目指す。	
	身近な英文法	英語学習は読み・書き・対話いずれの練習においても時間をかけて積み重ねることが大切であり、初歩の練習段階でこの積み重ねにつまずくとそれ以降の練習の成果がなかなか得られなくなる。英語学習の成果が得られない学習者の中でこのつまずきを経験している学習者は多い。本コースはこれまでの英語学習において初歩の積み重ねが不十分であった学生諸君のために英語の基礎学習再チャレンジを応援する。15レッスン修了時は、基礎的文法事項の習得、確実な語彙として1200語程度獲得、そしてgraded readers (語彙1200語程度)が強いストレスなしに読解できるようになること、さらにこれらの積み重ねを基礎に英語で初歩的対話ができるようになることを具体的目標とする。	
	アカデミック英語	本講義の目標は大学院進学を目指している学生に高度の「英語読解能力」を養成することである。大学院の入試などで評価される英語能力は専門性の高い英文を正確に読解できる能力である。このことを念頭において、本授業では、受講生が興味をもつ専門的な題材について読み、議論することに重きをおく。また、研究の進め方を学び、研究内容を短いリサーチペーパーとしてまとめ、口頭で発表をするプレゼンテーションの練習も行う。	
	ドイツ語	会話を中心にドイツ語の基礎運用能力を身につける。具体的にはドイツ語の話しことば・書きことばの基本的な用例をとりあげ、ヒアリングや対話などの練習を通じて、ドイツ語を聞いたり発音したりすることに慣れ、日常の日本語を簡単なドイツ語で表現できるようになることを目指す。また、教科書で扱われている題材をもとに、ドイツ語圏の文化や諸事情に触れ、異文化への関心と理解も深めていく。	
	フランス語	基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。基礎的なフランス語の発音・聴き取り・文法・語彙の規則を学ぶ。基礎的なフランス語の表現・成句・文法を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す。また、フランス語特有の文構造に慣れ親しみ、文全体を理解する。文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シュミレーション」など、コミュニケーションのための言語使用や文法能力を身につける。	
	スペイン語	本科目では、基礎的な文法事項を学ぶと同時に、様々な生活場面を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。具体的には、自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった初歩段階から実践段階の練習をする。また、同時にスペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化にも触れていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	アラビア語	「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。	
	中国語Ⅰ	本授業は演習形式の中国語初級授業である。1年間の学習を通して、受講生に正確な発音、簡単な会話を習得させると同時に中国文化、現代中国事情も把握してもらうのが本授業の目標である。また、1年の学習を終えた時点で、多くの受講生が中国語検定試験準4級に挑戦できるように指導することも目標の一つである。授業計画として、簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。	
	中国語Ⅱ	本授業は演習形式の中国語中級授業である。1年間の学習を通して、初級で学習した中国語文法と単語をしっかりと消化した上で、日常会話をさらにグレードアップし、中国語検定試験準4級合格を目指すことを目標としている。授業計画として、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。	
	中国語Ⅲ	本授業は演習形式の中国語上級レベルの授業である。初級と中級で学習した内容をベースにし、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すのではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指すことも本授業の目標の一つである。授業計画として、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。	
	韓国語Ⅰ	日本と朝鮮半島は長い交流の歴史を共有してきた。とりわけ近年、文化的交流が急進展する中で、お互いの言語を学ぶ人が急増している。ハングル（韓国文字）は非常に科学的かつ合理的な文字である。また韓国語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語でもある。具体的には、ハングルの特徴・構成を理解し、読み書きを学び、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることをめざす。	
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだことをより発展させ、中級レベルの語学力を習得する。ヒアリング、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力を高め、多様な表現力を学んでいく。具体的には、グループによる参加型の学習法を活用し、中級レベルの日常会話に必要な文法と会話力のレベルアップをはかる。また、韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいく。	
	韓国語Ⅲ	韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだことを再確認し、重要な全ての文法をマスターする。辞書さえあれば、新聞、雑誌を読んだり、インターネットでハングルのネットサーフィンを楽しめるほどの読解力を持つとともに、ハングルで日記やメールを書いたり、会話をなめらかに行うことができるようにする。韓国のウェブに載っている情報や雑誌のコラム、新聞のニュース、Kポップの歌詞など多彩な資料を活用しながら、社会生活や仕事にも役立つようなより実践的な語学力、会話力を獲得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	海外研修（語学）Ⅰ	韓国語の語彙、文型、会話、聴解、読解等の学習を通して運用能力（初級～中級）を高め、韓国語でコミュニケーションができる語学力を身につけること目標とする。夏期休暇期間中の約3週間（授業は計60時間）、韓国の協定大学にて実施する。語学のみならず、韓国の歴史、文化、生活様式や社会事情への理解を深めるとともに、韓国人学生との交流活動を行い、実践的に学ぶ。初日に語学レベルを測るプレースメントテストを行い、授業は、韓国語演習（48時間）、韓国語特別講義（6時間）、韓国文化講義（2時間）、韓国文化の実習又は見学（4時間）で構成される。	集中
	海外研修（語学）Ⅱ a	春期休暇中にオーストラリア又はアメリカの協定大学において英語の集中授業を受講する。英語のスピーキング、リスニングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得すると同時に、訪問国の歴史、文化、自然、社会等への理解を深め、異文化への適応力や国際性を身につけることを目標とする。オーストラリアではSpoken English, Oral Presentation, Australian Studies等、アメリカではEnglish Conversation, Presentation, Discussion, American Culture等の授業で構成される。	集中
	海外研修（語学）Ⅱ b	夏期休暇中に英国又はカナダの協定大学において英語の集中授業を受講する。英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させることを目標とする。さらに、訪問国の歴史、文化、生活、社会事情等の理解を深め、異文化の中で積極的に行動できる力と国際的な視野を身につける。英国ではCommunication Skills, British Culture, Presentation等、カナダではOral and Written English Communicaton, Conversational Idioms, Canadian Culture等の授業で構成される。	集中
	日本語講読Ⅰ	日本語を母語としない外国人留学生在が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけることをめざす。	
	日本語講読Ⅱ	日本語を母語としない外国人留学生在が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を確実に身につける。	
	日本語表現Ⅰ	日本語を母語としない留学生在が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを既習の日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	外国語科目	日本語表現Ⅱ	日本語を母語としない留学生在日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。		
		日本語特講Ⅰ	日本における様々な文化や社会問題について、毎回様々な資料を読み現状を理解させる。その後、インタビュー、アンケート調査や文献調査を行い、そのテーマについて発表させる。授業内でのディスカッション、ディベートなどの自主的な協同学習活動を通してそれぞれのテーマについての認識を深めさせる。これらの言語活動を通じて日本語コミュニケーション能力、運用能力も身につけられるようにする。また、文法・語彙などのタスク、クイズを実施し、豊かな表現も身に付けられるように指導する。		
		日本語特講Ⅱ	日本における小説、論説文、俳句、詩などの多様な文章を読解したり、テレビ番組、ビデオ、落語などを視聴したりする。これらの活動を通して、日本で日常使われている多様な表現を学び、同時に現代日本社会の諸問題を考えさせ、タスクを行う。それを基に自分の意見をまとめ、わかりやすく相手に伝える演習を行う。論理的に文章にまとめることで書く力も養う。また、文法・語彙などのタスク。クイズを実施し、表現をさらに豊かにできるように指導する。		
	基礎科目	文章表現法	大学生に求められる論述の諸能力（語彙力、表現力、構成力、論理的思考力等）が総合的に向上し、また、様々な事柄に対して自ら明確な主張を持ち、それを「分かりやすい」日本語の文章で伝えることができることを目標とする。個別課題は次のとおり。①日本語文章作成のための基本的な語彙力、表現力、構成力を磨く。②様々な資料や文献等から必要な情報を適切に読み取り、文章作成に反映させる。③議論の基本を学び、論述の基本姿勢を身につける。④論述のスキルやテクニックについて、学術的な文章のみならず、他のタイプの文章においても適宜利用することができるような、より実用的なものとしていく。		
		リテラシー・スポーツ科目	情報演習Ⅰ	今日の情報化社会では、企業・組織において一人1台のコンピュータが付与され、コンピュータはビジネスや業務を遂行するツールとして利用されている。この科目では、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通してそれらの基本スキルを習得し、社会へ出る前のIT基礎力を養うことを目的とする。さらに、学内のコンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用方法など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念・操作（ファイル管理、印刷方法など）を習得する。	
			情報演習Ⅱ	この授業は、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通して応用スキルを習得し、社会へ出る前のIT応用力を養うことを目的とする。使用するソフト（Microsoft Office製品）の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。「情報演習Ⅰ」の内容をすでに学んでいることを前提に授業を進めるため、履修済みであることが望まれる。	
			情報処理	インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページであろう。この科目では、電子メールやWebページを中心とした、インターネットの各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、複数のOS（WindowsとLinux）を利用する実習、および、プログラミングの実習も行う。	講義10時間 演習20時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 基礎科目	リテラシー・スポーツ科目	体育講義	<p>「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の健康に関する問題について理解する。 ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。 ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。 ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。 	
		健康スポーツ演習	<p>スポーツの実践を通して、体を動かす楽しさや爽快感を知る。その上で、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <p>自分自身の健康や体力にも目をむけ、生活をより健康的に送る力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なスポーツを経験し、運動の楽しさを実感する。 ・スポーツを通して、他者と積極的に関わりを持つ。 ・スポーツテストにより、自分自身の健康と体力について考える機会とする。 	
		体育実技	<p>心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。 ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。 ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、仲間と強し切磋琢磨し合う能力の向上を図る。 	
	カトリック教育科目	キリスト教入門	<p>本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学ぶ。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、現代社会へのメッセージとして受け止める。</p>	
		キリスト教音楽入門	<p>授業形態は講義を主とするが、年間の大学行事で歌う聖歌等の練習も授業内で行う。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一の目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。教育・学習の個別課題は(1)キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。(2)さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。</p>	講義22時間 演習8時間
		聖書と文化	<p>聖書成立の背景には、ユダヤ、ギリシア、ローマ文化など様々な文化の影響があり、また、聖書の思想は西洋文化を始めとして、多くの文化の形成に影響を与えてきている。イエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、イエス時代の文化的、思想的背景との関係において聖書を探究する。また、聖書の思想が、キリスト教成立後の世界の文化にどのような影響を与えているかについても考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基盤科目 カトリック教育科目	キリスト教と日本文化	<p>キリスト教と日本文化の交流を、歴史と文学という二つの側面から理解することを目標とし、オムニバス形式の講義を行う。初めの5コマでは、「キリスト教と日本の歴史」をテーマとし、後の10コマでは、「キリスト教と日本文学」をテーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(113 John Breen/5回) 「キリスト教と日本の歴史」 キリスト教伝来に始まる日本におけるキリシタン史を概観し、日本社会のキリスト教受容と葛藤、キリスト教宣教師との交渉、キリスト教宣教師の視点による日本宗教論、昭和初期から戦後の日本のキリスト教と神道との関わり等を扱う。</p> <p>(58 郭 南燕/10回) 「キリスト教と日本文学」 日本近現代の文学者たちがどのようにキリスト教を受容し、いかなる文学を作ったのかを教える。さらに来日した外国人宣教師の執筆した日本語著書が日本人にいかによりキリスト教を伝え、日本社会にどのような影響を与えたかを検討する。授業の目的は、近代日本におけるキリスト教の浸透によって、日本語と日本文学が豊かになったことへの理解を助けることである。</p>	オムニバス方式
	キリスト教思想	<p>使徒の教えが受け継がれ、どのようにキリスト教思想として発展してきたかを理解することを目的として、主要なキリスト教教父や、聖トマス・アクィナス等のキリスト教神学の発展に寄与したキリスト教著作家の生涯と思想について講義する。彼らが生きた時代と文化の中で、いかにキリスト教神学を構築したかをその生涯とともに紹介し、キリスト教の教義の発展との関わりや、後のキリスト教に与えた影響についても考察する。</p>	
	キリスト教美術	<p>4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。本科目では、講義形式でその基本的な知識を習得する。主にゴシック時代から18世紀について、絵画を中心とした代表的な作例を鑑賞し分析することにより、主要な主題と基本的な図像を学べるようにする。旧約聖書・新約聖書・聖人についてまんべんなく触れる。また、キリスト教美術の歴史についても適宜解説し、基本的な流れを把握してもらおう。以上を通して、未知の作品に出会ったときにも、独力である程度主題を推測できる力を養うことを目指す。</p>	
	キリスト教音楽	<p>授業形態は講義を主とする。目標は「ミサ曲を学ぶ」。ミサ曲は古くから多くの作曲家によって手がけられ現代にまで続いている。この授業の計画としては、中世からバロック時代にかけてのミサ曲の変遷とJ.S. バッハ作曲の《ロ短調ミサ曲》、更にモーツァルト、ベートーベンなどの古典派のミサ曲までを範囲として学ぶ。ミサ曲と典礼との関わりやバッハの音楽の宗派を超えた普遍性などについても考えたい。教育・学習の個別課題は(1)ミサ曲のテキストと典礼との関連を理解するように努める。(2)J.S. バッハの音楽の特徴や他の時代の音楽との比較をする。(3)中世からロマン派までの音楽を味わう。</p>	
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	<p>本学の設立母体であるノートルダム教育修道女会について学ぶ。修道女会の創立者であり、カトリック教会の中で「福者」として列福されているマザーテレジア・ゲルハルディンガーとその時代について学習し、どのようにして本学が設立されたかという創設の歴史と理念を知り、連綿と受け継がれてきたノートルダム女性教育の現代的意義を、キャリア教育(知育)と自校教育(徳育)、双方の観点から考える。ゲストスピーカーとしてシスター、卒業生等を招き、その意味・意義について討論し、自ら考える授業とする。</p>	講義15時間 演習15時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基盤科目 ライフキャリア形成科目	女性とライフキャリア	本授業では、学生生活を終えたあとの長い人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身につけ、考える力を養成することを目的とする。特に職業キャリアと家庭生活の両立は、男性以上に女性にとって大きな人生の課題として立ちはだかるだろう。そのために、あらゆるライフキャリアの可能性を検討し、予測される課題にどのように対処できるのか検討することは重要である。また、生きる目的のひとつに社会活動に参加するというものがあることを知り、自分や自分の家族のためだけではなく、社会に貢献するために自分は何ができるのかを考える。	
	ホスピタリティ入門	「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。ホスピタリティの語源、ホスピタリティと文化、地域や文化・文明による差異などを考察する。パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回小レポートによりホスピタリティを考察する。	
	ホスピタリティ京都	講義形式である。京都の接遇の文化について理解を深めることを目標とする。はじめに、日本ならではの「もてなし」という概念を理解する。普遍的な概念としてのホスピタリティ、あるいはサービスと、どのような点で共通し、どのような点で異なるのか、華道、茶道、和食などの世界における具体的な事例をとおして、日本の接遇の独自性を理解する。特に日本の伝統文化を伝えてきた京都の、国内および国際的交流の歴史をふまえ、京都に受け継がれる、コミュニケーションの方法としての「もてなし」の独自性について考察する。各回毎に華道、茶道、和食などテーマを設け、具体的事例から理解を深める構成である。	共同
	キャリア形成	大学生活の中盤を迎える2、3年次生を対象に、コミュニケーションスキルを向上させながら、大学生活の振り返りを行い、今後のキャリアプランについて考える科目である。そのために、基礎的なコミュニケーションスキルについての学修をした上で、自己の振り返りや職業社会の理解など、キャリアにかかわる学修を少人数のグループワークを中心に行い、コミュニケーションスキルを高めながら、キャリアに関する深い理解と、今後のキャリアプランの作成をする。	
	キャリア形成ゼミ	社会で必要とされる力を社会人基礎力と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動する「場」をゼミナールとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。	集中
	インターンシップ	職業現場での就業体験プログラムを通して、働くことの価値形成を図る実践授業である。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識を育成し、職業選択の明確な基準軸を養成するとともに、人間性（思いやり、公共心、倫理観）を高め、基本的な生活習慣（基礎的なマナー、時間管理）を身に付けることを目標とする。就業体験を有意義にするための事前、事後指導も併せて行う。さらに体験成果の発表を課すことで、社会人としての基礎能力をも養成する。	集中
	海外インターンシップ	海外の職場で実際に英語等を使って仕事をするを体験することにより、語学の応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、責任感、協調性、キャリア意識を身につけることを目標とする。研修先国は、ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ等複数の国から選択できるとし、夏期又は春期のいずれかの休暇期間中に、各自の希望等に応じて一般企業、教育機関、福祉施設等で実施する。就業体験中の海外生活を通して、異文化に対する理解、積極性、国際的な視野を広げる。研修終了後にレポートを提出することが求められる。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通 科目	現代社会と子ども	<p>現代社会における、こどもの生活世界の現状と課題について、こども教育の観点と、こどもの発達心理学の観点から、オムニバス方式で講義を行い、「今」を生きるこどもとそれを取り巻く人々や社会の在り方について考える力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(18 工藤 哲夫/3.75回)</p> <p>本講義の前半では、現代社会におけるこどもの教育の状況を概観する。小学校就学前のこどもたちの保育・教育の状況について、また小学校就学後のこどもたちの教育状況についても、国際的な比較することで日本の独特な状況を客観視し、保育・教育のあるべき姿を考える。また、待機児童ゼロとはどんな状況なのか、いじめはどのような教室で起こるのか、学びの場にこどもたちは何を期待しているのかなどの課題について討論、発表を行う。</p> <p>(23 高井 直美/3.75回)</p> <p>本講義の後半では、こどもの発達心理学の観点から、現代の子どもを取り巻くいくつかの課題について、問題意識を喚起し、受講生の意見を積極的に聞きながら、現代社会の課題について考える。取り扱う課題は、「早期教育はこどもを伸ばすのか?」「こどもへの虐待は増えているのか?」「昔のこどもと今のこどもの発達の違いは?」など、心理・福祉・教育全般に関係するもので、3つの学科の専門教育への導入の役割も担うものである。</p>	オムニバス方式
	現代社会と女性・家族	<p>性別や性差、性役割などの性をめぐるトピックについて、現代社会における女性、現代社会における家族の在り方や課題を関連づけながら講義する。講義の前半は家族関係学や女性学の観点から、後半は心理学の観点から性や家族に関して、オムニバス方式で講義を行い、この問題に関する受講生の興味や関心、知識の拡充を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(19 青木 加奈子/3.75回)</p> <p>本講義の前半では、女性のライフコースと社会的地位の歴史的変化を国際比較調査のデータを用いて、現代の日本社会のなかで女性の置かれている現状を理解する。また、現代に生きる私たちが家族に求めるものはなにかを、グループディスカッションをとおして受講生に考えさせる。</p> <p>(26 向山 泰代/3.75回)</p> <p>本講義の後半では、心理学の分野での性や家族に関するこれまでの研究を紹介しながら、この問題の現状や課題について講義する。授業中、受講生には簡単なアンケートや教材等に反応を求め、これらを講義の素材とすることによって、受講生自身が性や家族に関する自らの価値観や態度に気づき、問題意識や興味を深める。</p>	オムニバス方式
	現代社会と高齢者	<p>超高齢社会において人々がより良く生きるには、高齢者を正しく理解し、高齢者と上手にかかわることができるとともに、高齢者を支援できる人材が豊富であることであろう。本講義は、生活学や老年学および心理学の視点から現代社会における高齢者についての知識を身につけ、理解を深めるとともに、他者としての高齢者を学ぶだけでなく、受講者自身もおいゆく存在として自分のライフコースとも関連付けて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(2 加藤 佐千子/3.75回)</p> <p>本講義の前半では、超高齢社会の現状を概観し、生活学や老年学の視点から、高齢者の健康、老化、コミュニケーション、生活、社会交流などについて講義や討論によって理解を深める。また、高齢者を正しく理解し、高齢者を支え、高齢者とともに生きるための基礎知識を講義、発表を通して学ぶ。</p> <p>(14 伊藤 一美/3.75回)</p> <p>本講義の後半では、生涯発達心理学における高齢期の位置づけと、現代の多様な老いのプロセスや発達課題について、受講者自身のライフコースや時間的展望と関連付けながら学ぶ。また、高齢者における認知、パーソナリティ、家族を含む対人関係の特徴などについて、心理学的な理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代社会と病者・障がい者	<p>現代社会における病を抱えた人、障がいのある成人やこどもの生活様態や生活困難性、教育や社会制度の課題について、主として社会福祉学、教育学の観点から、様々な事例を交えながら講述する。</p> <p>(オムニバス方式／全7.5回)</p> <p>(⑦ 三好 明夫／1.5回)</p> <p>本科目のねらいと内容について概説したあと、病者や障がい者の非日常として、自然災害の被災時における彼らの生活困難とそれへの支援のための課題について、東日本大震災における事例を通して解説する。</p> <p>(② 酒井久美子／1回)</p> <p>障がい者の地域生活移行が進む一方で、障がい者が地域で安心・安全に生活し、社会進出するには課題が山積している。このような現状を理解し、障がいがあるとなかろうと、地域でその人らしい生活を営むためにどのようなことが必要かについて学び、考える。</p> <p>(⑰ 江川 正一／2回)</p> <p>病や障がいを抱える幼児や学童の日常と、発達支援のしくみ、教育制度などについて、教育現場からの具体的課題をあげながら解説する。</p> <p>(⑯ 河瀬 雅紀／3回)</p> <p>感染症、がん、精神障がいなどの主要疾患を取り上げ現代社会が抱える問題を検討する。すなわち、過去と現在、発展途上国と先進国、都市部と過疎地、貧困と格差など複数の軸から病や治療・ケアに伴うさまざまな社会的問題を検討し、現代社会に生きる病者の心理と苦悩への理解を深める。</p>	オムニバス方式
学部共通科目	病児の発達と支援	<p>病を抱える子どもたちの苦しみを理解し、発達を支援する方法を学ぶ。即ち、小児科病棟でのボランティア活動をモデルとして、病児のサポートのあり方を理解していく。まず小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師等の立場から概説し、子どもたちの疾患の基本的な知識や心のケアについても学ぶ。また、子どもたちの発達に沿った遊びの役割や手技などの実践を学習する。院内学級での支援についても現場を見学し、担当の講師からその実際を学ぶ。さらに、ボランティアをする学生自身のケアについても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑯ 河瀬 雅紀・24 萩原 暢子・36 畠山 寛・28 石井 浩子・29 植田 恵理子・14 伊藤 一美・33 薦田 未央・⑰ 江川 正一・30 太田 容次・15 岩崎 れい／2回) (共同)</p> <p>初回にオリエンテーションを行い、15回目に振り返り、グループワークと発表を行う。</p> <p>(⑯ 河瀬 雅紀／3回)</p> <p>病児の精神的な発達と、心の葛藤や周囲の人たちとの関わりを解説する。</p> <p>(24 萩原 暢子／3回)</p> <p>子どもの疾患について、基本的な知識を画像を多く用いて解説する。</p> <p>(36 畠山 寛・28 石井 浩子・29 植田 恵理子・14 伊藤 一美・33 薦田 未央／3回) (共同)</p> <p>子どもの発達的特徴や、心の安定に関わる遊びの役割を学び、年齢にあった遊びの手技、小集団で行う遊びなどを体験する。病児の遊びサポートの実践、グループでの遊びの工夫について解説する。</p> <p>(15 岩崎 れい／1回)</p> <p>絵本の種類と読み聞かせの方法について解説する。</p> <p>(⑰ 江川 正一・30 太田 容次／3回) (共同)</p> <p>院内学級の現状と支援学校の取り組み、病児の学びのサポート、病棟での病児を想定した学びサポートについて解説する。</p>	集中・オムニバス方式・共同(一部)
	情報科学	<p>情報とコンピュータ及び情報通信に関する基本的な項目を広く学習し、さらに進んだ知識を習得するために必要な基礎力を身につけ、コンピュータの基礎—ハードウェア、ソフトウェアのあらまし</p> <p>(OS の概要を含む)、情報通信ネットワークとインターネットの仕組みと活用のあらまし、データ構造、アルゴリズムと情報システム開発、知的財産権、個人情報保護、情報倫理、セキュリティ、ビジネスと情報技術などについて学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基幹科目	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ	本演習は、社会で話題の「新書」を用いて「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった演習を通して、大学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。	共同
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。	共同
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ	住宅地や団地、地域の福祉施設や保育所、市場や都心の複合施設、織元、染元など伝統品の製作、販売現場等、現代の生活や社会活動の現場でのフィールドワークや、障がい者、高齢者、授産施設などの福祉施設の現場での見学・体験活動を行う。これらの活動を通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場の実情を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。これらの体験学習を通して、自己のキャリア形成や進路への関心を高める。	共同
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ～Ⅲを通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏付けによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基礎科目	福祉生活デザイン概論	<p>より良い生活のあり方を追求するために、目標となる「生活の質(QOL)」の考え方を理解したうえで、個人の食と健康の問題(食領域)、家族関係と課題(家族領域)、個人を取り巻く生活環境(衣領域・住領域)、個人を支援する社会環境(福祉領域)の4側面から、質の高い生活の実現に向けて基本的考え方や今日的課題を概説する。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(② 加藤 佐千子/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回は講義の概要、評価の仕方、超高齢社会の現状等の説明、および老年学の立場からウェルビーイングの条件と生活の質(QOL)の考え方とその背景、生活の質に関わる4つのポイントを説明する。また、高齢者の食と、生活機能、健康観、精神的健康度の関係を例に挙げて、生活の質を追求する上での食生活の重要性について概説する。 ・最終回ではこれまでの講義をもとに、自分と他者の生活の質についてグループで議論させ、生活の質を高めるには何が必要かを考えさせる。また、今後4年間に行うべきこと、めざす資格について自身の考えをまとめさせる。 <p>(⑤ 中村 久美/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活学の立場から、生活基盤としての住まいの持つ根源的な意味を考え、生活の質(QOL)を追求する上での居住環境の重要性について概説する。 ・持続可能な住生活のために、人は誰とどんな場所でどのようなコミュニティを形成して暮らしていけばよいか、住生活基本法をとりあげながら、あるべき住生活の姿について概説する。 <p>(⑦ 三好 明夫/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉学の立場から、生活の質(QOL)の捉え方、解釈について概説する。人は、機能低下がみられても支援の活用によって生活の質(QOL)が保たれることについて高齢者を例に挙げて説明する。 ・高齢者福祉の現状と課題について概説し、人生の最期まで生活の質を低下させずに過ごす支援方法について説明する。 <p>(⑥ 藤原 智子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと若者の食と健康について、現在のみならず将来にわたってQOLの向上に資する食生活のあり方を概説する。 <p>(⑬ 青木 加奈子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半は家族の発達段階で直面する生活課題について概説する。後半は、世話を必要とする子どもがいる家族にとっての生活の質(QOL)を、ワークライフバランスとジェンダーの視点から考える。 <p>(① 牛田 好美/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人はなぜ服を着るのか。ファッションや装いについて心理的な観点から概説する。 <p>(⑭ 安川 涼子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な衣生活のために、環境に配慮した衣服材料や衣生活の現状と課題について概説する。 <p>(④ 竹原 広実/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住環境要素が人に与える影響について人間工学の観点から概説し、人の特性を組み込んだ住環境のあり方を考察する。 <p>(③ 小池 桂/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における福祉の歴史的展開を概説するとともに「福祉とは何か」を説明する。 <p>(② 酒井 久美子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の現状と課題について概説し、地域住民の主体的な取り組みによって地域住民のよりよい生活に向けて相互に支え合うことの重要性を説明する。 <p>(④ 矢島 雅子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の現状と課題について概説し、障害があっても生活のしづらさを解決できることを説明する。 <p>(③ 佐藤 純/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の暮らしやQOLに大きな影響を与えるものの、見過ごされがちな「こころの健康」や「精神疾患・精神障害」について、正しい理解を進める。 	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	基礎科目	衣生活概論	少子高齢社会が急速に進む現代社会において、乳幼児・高齢者・障がい者など社会的障がいを持つ人々だけでなく、すべての人が生き生きと生活できる社会を構築するための支援が必要である。生活の中でも、衣生活については、年齢に応じて異なる生理機能や障がいの種類などの影響を最も受けやすい。そこで、福祉の視点から、年齢や障がいの有無に関わらず、快適で満足な衣生活を送るために必要なモノやコトを企画・提案し、それを実践できる能力を養う。	
		食生活概論	「食べる」ということは、人が生きるために欠かすことのできない行為である。本授業では、「人はどのように考えて食物を選択するか」について考えていく。特に、超高齢社会でより良く生きるために、食生活にかかわる諸問題や各発達段階で選択すべき食物や食生活のあり方について、講義や視聴覚教材を用いながら概観する。また、グループワークや発表によって他者と意見交換し、「食生活とはどうあるべきか、食物の選択をどのように考え、実行していくべきか」について自身の考えを明確にし、未来の食生活をより良くする方策を考えていく。	
		住居学概論	少子高齢化のもとで循環型社会を目指すという大きな社会的枠組みを前提として、国民の住居の課題や今後のあり方を、ハード、ソフトの両面から概説する。すなわち、日本の風土や文化に根付いた住居の歴史を概観したうえで、ハードとしての住まいの構造や材料、室内環境やデザインに加え、家族の住生活や住まいと生活の管理、生活環境整備や防災・防犯といった地域コミュニティの問題などのソフト面に関する諸相について、最新の情報に触れながら講義する。	
		現代社会と家庭経営	長引く経済の低迷や少子高齢化の進展によって、日本社会は、既存の社会システムからの大転換期を迎えている。このような混沌とした社会においては、「生きる力」を養い主体的な生活を営むための知識の習得が求められている。この授業では、生活の基本単位である家族がより良い生活を送るための家庭経営の知識を身につける。前半は、家族形態と機能が変化しつつあるなかで、現代の家族が抱える問題を学ぶ。中盤では、主体的に生きる消費者としての知識を習得してもらう。具体的には、生涯を見通した家計の管理できるようになることと、現代の消費者問題について考える。後半は、地域社会における家族の役割や環境に配慮した家庭経営とはどのようなものかを検討する。	
		現代社会と福祉 I	「現代社会と福祉」の主たる目的は、社会福祉の政策及び原理と哲学を学ぶことにあるが、本講義はこれらのほかに社会福祉の入門的性格をもっていることから、社会福祉の全体像を理解することに重きを置いている。具体的には政策を中心にしながら、①諸外国も含む社会福祉の歴史について学び、②現代社会における社会福祉の意義を考え、最後に社会福祉の今日的課題について、様々な社会問題との関わりで理解する。	
展開科目	生活系科目	衣生活材料学	日常生活における衣服の役割を認識し、繊維、糸、布、服への一連の流れから衣服のデザイン、機能性、衣服の管理や加工、環境問題等について幅広く講述し、衣生活のあり方について概観する。また、健康で快適な衣環境を構築するための科学的な基礎知識についても講述する。日常生活における衣服の役割を認識し、被服材料学、被服衛生学、被服管理学等の観点から被服材料の概要を理解し、衣生活領域における衣生活材料の基礎知識を習得する。	
		アパレルデザイン	私達の生活とデザインには密接な関係があり、人間は生活する上で快適な環境を構築するため、さまざまなモノをデザインし造形している。アパレルデザインは、他のデザインと異なり、人間という身体と動き、表情、個性など多くの要素が加わった形で表現される。本授業では、アパレルデザインの歴史から、デザインの基礎および造形美の諸原則を中心に学び、アパレルデザインについて理解し、生活の中で実践する能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 生活系科目	衣生活情報論	現代社会において、ファッションは人々にさまざまな情報を送り、人々は受けとった情報を利用し、さらに自らが情報の送り手となる。本授業では、ファッションビジネスの仕組みやファッション業界の仕事についての知識を得るとともに、ファッションマーケティングやファッションマーチャンダイジングの実践的な内容について学ぶ。さらに、ファッションコーディネート基礎知識や日常生活において実践する能力を養う。	
	服飾心理学	人間が被服や装飾品を用いるには、「身体・生理的目的」と「社会・心理的目的」の2つがある。その中でも、社会・心理的目的に焦点をあて、その目的を実現するためのさまざまな被服や化粧など装いに関する行動を究明する。特に装いの社会・心理的機能については、「自己の確認・強化・変容」「情報伝達」「社会的相互作用の促進・抑制」の3つの機能があることが明らかにされているが、その機能について、現代のさまざまな現象を取り上げ解説する。	
	繊維材料学	私たちの周りには様々な繊維材料が存在する。その各種の繊維素材を、分子レベルの繊維の構造や性質だけでなく繊維集合体である糸・布の構造や性質、特徴について解説する。付加価値や実用性能の向上のための繊維加工についても紹介する。また、学生は繊維素材についてテーマを決めて発表も行う。衣服を構成する繊維材料の性質や特徴について科学的な理解を深め、得られた知見を日常生活や社会に役立てられる応用力を修得する。	
	染色加工学	衣服をはじめとした繊維製品の重要な付加価値機能として染色加工があげられる。この染色加工の事象、染料や顔料、色彩、繊維と染料の相互作用等について科学的な観点から解説する。また繊維染色製品の品質・堅ろう性、染色以外の機能加工、伝統工芸染色等についても歴史的観点のほか、実用性の観点まで講述する。衣生活に欠かせない繊維製品の染色加工、機能加工についての科学的な理解を深め、得られた知見を日常生活や社会に役立てられる応用力の養成を目指す。	
	アパレル造形学 (実習を含む)	アパレル造形の基本となる、被服構成の方法には立体構成と平面構成とがある。日本においては前者は洋服、後者は和服に代表される。本科目においては、浴衣を課題とし、両者の考え方の違いを理解しながら、着衣基体である人体の理解と、家庭科教員免許状に必要な基礎技術の習得をはかる。人体計測法および立体裁断と平面図について、それぞれの解説を行い、理解をうながすとともに、実際の製作につなげることにより、理論と結びついた技術の習得を目指す。	講義15時間 実習30時間
	アパレルデザイン演習Ⅰ	デザインには、「形態」、「色彩」、「材料」という造形の3要素がある。この3要素はデザイン分野すべてに共通するものであるが、特にアパレルデザインにおいて、人間が着装して美しい形態をつくりあげるにはパターンが最も重要である。イメージをシルエットやディテールにするために、パターンメイキングの基礎から応用について学ぶ。グループあるいは個人で実際にパターンを引き、実物を組み立てながら、知識および技術を身につける。	
	アパレルデザイン演習Ⅱ	デザインには、「形態」、「色彩」、「材料」という造形の3要素がある。その中でも、色彩はすべての造形に共通する重要な要素である。私たちは、ものを見るとき、形態とともに常にその色彩をみている。本科目では、色彩の基礎から、色の見え方と働きを理解した上で、アパレルにおける色彩とファッションイメージの関係を、さまざまな素材を用いながら、色をつくる、色を塗る、色を合わせる、色をコーディネートするなどの演習的内容に取り組むながら、知識および技術を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 生活系科目	衣生活実験Ⅰ	被服管理・加工に関わる基本的性質に対する理解を深めることを目的とする。薬品の使用、ガラス器具の使い方、重量・体積の測定方法等、衣生活に関わる実験の基本操作を身につける。衣服の管理の基本である洗浄については、石けんの合成や洗浄実験等を行い、界面活性剤の基本的性質について学ぶ。衣服の白度や風合いの保持や回復のための漂白や蛍光増白、糊つけや柔軟処理も行う。染色加工については天然染料や合成染料による染色の技法とともに染料や助剤の性質や効果、および染色条件を調べる。また染色布の測色も行う。	
	衣生活実験Ⅱ	前期の衣生活実験Ⅰに引き続いて、実験の基本操作を習得する。観察・評価装置の使用、糸や布の構造分析の手法や物性評価方法を身につける。衣服の材料を構成する繊維についての基本的な性質を燃焼、溶解、呈色により鑑別する。糸や布の構造については撚り、太さ、織密度、織組織等を調べる。布の物性については防しわ性や吸水性等の物性評価試験を行う。KESによる風合い評価法やJISの堅ろう度試験についてもその技法を学ぶ。加えて実際の衣生活における苦情事例についても紹介する。	
	食品学	マスコミやインターネット上で日々大量に供給されている食品に関する情報を適切に取捨選択する判断力を養うために、食品中に含有される主要な成分の化学的性質と特徴について学ぶ。さらに具体的な食品を想定しながら、食品の貯蔵・加工・調理の過程で起こる食品成分の変化、また成分間での相互作用について理解を深める。多種多様な食品の化学的特性を総合的に捉え、科学的根拠に裏付けられた知識を構築し、日常の食生活のなかで積極的に生かすことを目標とする。	
	食品加工学 (実験を含む)	本科目は、食品加工の目的、食品成分の化学的変化、食品の物理的性質、製造工程や加工の原理を演習や実験・実習を通して学ぶことを目的とする。さらに、食品の加工方法、包装方法、保存方法についての学びを生かして、日常生活の中で、加工食品を適切に利用できる態度を養い、食品加工に関する基礎知識と技術を身につけることを目指す。実習レポートの作成を通して加工食品についての情報収集力や記述力を磨き、グループ活動を通して協働力を身につけ、相手の立場に立って行動できる態度を養う。	講義10時間 演習20時間 実験30時間
	食品官能評価論	望ましい生活を支えるために、市場に出回る多くの個別食品を適切に鑑別できる知識と能力を身につけることを目的とする。加工食品の品種、銘柄、特徴、分類方法、製造方法、保存方法などについての理解を深める。また、個別食品の種類と特徴、品質と取り扱い方法については、事前学習と学習者主導の発表や意見交換を通して知識の定着を図る。学習者の主体的な市場調査を通して、より身近な食品の鑑別について理解を深める。	
	食品感応評価演習 (実験を含む)	食品の評価・鑑別に対する知識と技術を「実験及び演習等の体験的な学習」を通して修得する。特に、官能評価の概要、評価の基本と実施法、科学的評価法、物理的評価法について、実際の食品を用いて評価を行う。官能評価では評価の手法、解析方法、および結果の解釈に重点を置く。科学的評価では、食品の褐変実験や中和滴定など、科学実験の基礎技術を身につける。物理的実験では、硬さや粘度の測定を通して機器の取り扱いを理解する。	演習20時間 実験10時間
	栄養学	健康な生活の根幹をなすものとして食生活があることに気づき、人の生命を維持し、活動するために必須である「栄養」について、五大栄養素の構造と機能、生理的な役割を理解する。また、消化、吸収など体内移動、物質代謝、エネルギー代謝について基礎的な概念、知識を身につける。さらに食品機能成分の働きや生体調節機能に関する知識も習得し、健全な食生活を自ら実践し、他者に対しても健全な食生活の設計、運営に積極的に関わることができる力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 生活系科目	調理学	食品素材の持つ栄養性、嗜好性、機能性を最大限に引き出すことが調理の役割であることを理解し、非加熱操作、加熱操作に関してそれぞれ代表的な調理操作の物理化学的メカニズムを学ぶ。また、各々の食品に起こる調理過程の諸現象、および食品成分間の調理過程における相互作用などについて科学的な視点からの理解を深める。さらにおいしさの要因について多角的に捉え、必要かつ適切な調理操作を選択できる能力を身につけることを目的とする。	
	調理学実習	健康で豊かな食生活を営むために、科学的な調理理論に基づいた調理操作と食品素材の調理特性を理解し、実習を通して調理技術の基礎を修得する。実習は、調理操作別に日本料理、西洋料理、中国料理の形式で行い、これらの様式の違いも学び、基本的な食事マナーやサーブの方法を身につける。また、本授業において中学・高等学校家庭科教員としての調理実習に関する基本的スキルの獲得も目指す。	
	発展調理学実習	各国のもてなし料理や日本の行事食などの製作を通して、様々な場面における献立の組み方と調理操作の流れ、および食卓の整え方を学び、献立から調理、テーブルコーディネートに至る過程において必要不可欠な要素を理解する。また、世界や日本各地の食文化について調理の実践によって造詣を深めていく。さらに生涯発達と食教育の観点から、自ら率先して食生活を設計していく姿勢を身につける。	
	フードコーディネイト論	将来、フードスペシャリストとして活動するために必要なフードコーディネイトに関する基本的知識を身につけることを目的とする。すなわち、まずマナーを含む各地の食文化に関する基本的な知識と、食器、インテリアなど食のアメニティの創造要因について学び、ホスピタリティーを内包した食空間を演出する具体的な方法を習得する。さらにフードビジネスを展開するために必要とされる基礎的事項を理解し、事業として食をコーディネートする力を養う。	
	建築一般構造	住宅や建築を学ぶうえでは、骨組みとしての構造や仕上げの仕組みなどの建築構造への理解が大前提となる。この講義では、建築材料や施工法とも関連付けながら、木造や鉄骨造、鉄筋コンクリート構造など建築構造の種別、それぞれの部材とその構成について解説するとともに、住宅被覆の仕組みやインテリアデザインの基礎となる内部造作の仕組み、開口部、建具、和風造作などについて解説する。加えて地震による被害や耐震構造についても触れる。	
	住生活学	居住面にあらわれる生活様式である「住様式」は、歴史的、社会的に発展し、それぞれの時代、社会に応じて特色ある様式を形成する。本講は、この住様式を主対象とし、その種々相について問題を論じる。その内容は、まず近代以降の住宅平面の発展とそれに伴う住様式の変化を概説したうえで、少子高齢化や家族の変化、地球環境問題、地域問題や集住などの視点から、今日的な住生活の問題を考察する。本講は歴史的、社会的背景の認識のうえで住生活のあり方を深く掘り下げて考え、これからの発展すべき方向への探求力を身につけると同時に、住宅計画の基盤となる考え方への理解を目指す。	
	住環境学	私たちの生活環境は向上し快適な住宅に暮らしていると考えられている。しかし、現在の住環境において新たに発生している問題も多い。講義では健康で、安全で、より豊かな生活を実現するための住宅環境全般に渡る基礎的知識について、環境工学的側面から、熱環境、音環境、光環境、空気環境の習得をはかり、住まいに対するより深い理解と実生活への積極的な応用を目指すとともに、持続可能な社会に対する意識を深める。また基本的な製図の基本を知り図面上の配置計画と住環境のあり方との関連を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 生活系科目	住居史	日本の住まいの歴史を振り返り、そのよって立つところを明らかにすることは、これからの住宅の有り様を考えるうえで非常に重要である。住居史では、現在の住環境を歴史的視点から評価し、住宅建築の将来の発展を考えるための基礎的知識を習得することを目標とする。この講義は、先史から近代にいたる、日本の住居の空間構成や意匠、寝殿造りや書院造り、数寄屋といった様式などの歴史の変容をみるとともに、町家や民家など、庶民の住宅を含めそこで展開される生活、さらにはまちや集落の成り立ちにまで目を向け講述する。	
	インテリア装備学	住生活において豊かさの象徴としてインテリアエレメントが氾濫する昨今、その機能性、利便性、快適性、環境性については考慮されず、単なる見た目の美しさや好みというあいまいな基準で選択される現状を多く目にする。真に快適で安全かつ豊かで魅力的な生活空間を創造するためには、インテリアエレメントの正しい知識をもって設計することが必要である。本科目ではインテリア設計をするための基礎となる内装材、設備機器、照明器具、家具などの室内装備に関する知識を習得することを目的とする。	
	福祉住環境デザイン	科学技術の進歩は住宅においても目覚ましいものがあり、技術を導入するべく住まいの造りは変わり、新しい設備器具が次々と開発されている。一方、人間の営みは長い年月の間に営々と築きあげられてきたものである。そのため、人がモノと均衡がとれない事態も生じ、この場合多くは人側に障害が表れ安全性が脅かされる。本来人間が持つ機能や特性を活かした住宅のあり方が求められる。講義では人間工学の視点から身体的、動作的、心理的、生理的特性に沿った建築環境及び住環境と設備のあり方について理解する。	
	住居製図Ⅰ	本科目の目標は、住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識の理解と各種図面の理解、製図技法の習得を目指すものである。基本図法を学んだ上で、各種図面の作図、表現方法を演習する。同時に様々な住宅図面を読み取り、空間に配置される多様なもののスケールへの認識を深めること、立体模型の制作を通じて空間感覚の養成を合わせて行う。課題例として、木造住宅配置図、平面図、立面図、展開図のトレース、立体模型の制作を行う。	
	住居製図Ⅱ	主としてCADによる製図の技法を身につける授業である。まずCADの特性を理解したうえで基本操作を学ぶ。基本図形や建築部品の作成を通じ、各種コマンドの内容を理解する。次にRCラーメンの集合住宅や在来木造など代表的な建築構造の実習課題（トレース）を通じ、画層の設定や各種製図環境の設定、印刷設定を学ぶ。同時に建築計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識や、各種スペース・設備等のスケール感を養う。最終的にはトレースした木造住宅の増築計画とその設計製図をCADを使って行う。	
	建築材料学	建築物を形づくるのは材料であり、建築物に使用される材料はその時代の分野や文明、その土地の風土を反映するものである、また使用する材料によって建築物の性格や品質が左右される。建築材料に対する知識をもち、それらを適材適所に使い分けることは重要である。講義では建築物を構成する材料の性質や使い方についての知識を深め、さらに地球環境や循環型社会を意識した材料の使い方を考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 生活系科目	建築法規	<p>建築物の計画・設計・工事管理や建築行政に関する法規の知識を習得し、法規的取り扱いや手続きのしくみを理解することを目標とする。建築基準法における建物の面積、容積、高さ、防火や環境などの性能に関わる単体規程、立ち並びや用途計画、まちづくりに関わる集団規程、および制度規程を中心に、都市計画法、消防法、建築士法などの関連法規について学習する。建築計画における法規的課題の解決に必要な知識と建築士業務への倫理的態度を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(④ 竹原 広実／7回) 建築士法と単体規定 1. 建築士法、2. 用語の定義、面積・高さの算定方法、3. 制度規定、4. 構造強度、5. 防火・避難関係規定、6. 一般構造、7. 設備およびその他の単体規定</p> <p>(⑤ 中村 久美／8回) 集団規定と建築関連法規 1. 道路との関係、用途制限、2. 建蔽率・容積率、3. 斜線による高さ制限、4. 日影規制、良好な市街地創出のための制限、5. 地区計画、防火上の地域内建築制限、6. 消防法と都市計画法、7. その他の関連法規、8. 手続きと集団規定のまとめ</p>	オムニバス方式
	京都生活論	<p>京都は平安遷都以来、ファッションの発信地であり、和食の殿堂、優れた都市住宅としての町家の先達である。このように、日本の衣食住の文化を先導した京都の生活文化について、その諸相や精神、現代からみた価値を理解する。「食」では平安貴族の饗宴で供された料理に始まり、精進料理、懐石料理について、「衣」では西陣織や友禅染など、京都で発達した織物や染色技術について、「住」では京都の町家と町内の生活文化をそれぞれとりあげる。</p>	
	家族関係	<p>2011年3月に起こった東日本大震災の経験は、私たちの生活が家族や地域の人々に支えられて成り立っていることを再確認させてくれた。その一方で、少子高齢化や未婚化が進み、ひとり親世帯が増加するなかで、現代の家族が、これまでのような家族機能を果たせなくなっているのも事実である。さらに、家庭内暴力(DV)や親族間での殺人等連日メディアをにぎわす家族をめぐる問題は、家族とは一体なにかという問いを私たちに突きつける。この授業では、現代の家族が抱えるさまざまな問題を社会と関連させながら考えていく。夫婦関係や親子関係だけでなく、きょうだい関係や祖父母と孫関係の視点も含めて客観的・批判的に検討することを目指す。</p>	
	家族社会学	<p>この授業では、フィンマン(2009)のケア理論に依拠し、現代社会が直面するケア問題を考える。まず、エスピン-アンデルセンの福祉レジーム論(2001)と落合によるアジアのケアダイヤモンド(2013)からアメリカ、ドイツ、スウェーデン、中国、日本の5カ国の育児と介護事情を受講生に調べてもらう。次に、受講生による報告をとおして5カ国間比較を行い、各国のケア事情の類似点と相違点を明らかにする。最後に、これからのケアのあり方として、個人(家族)や日本社会がどのようにかわるべきかを、持続可能な社会の構築という視点から検討する。</p>	
	消費者教育	<p>消費者を取り巻く環境は年々変化し、消費者被害が増加の一途をたどっている。同時に消費者被害の対象は広範囲に及び、問題が複雑化・多様化し、その結果、国民生活に不安をもたらしている。本講義では、消費者問題の歴史、消費者被害の実際、消費者行政・制度等について講義やDVDの視聴を通して理解する。また、消費者としての意思決定プロセスにおけるバイアスや情報の影響に気づくとともに、一人一人が適切な「選ぶ目、決める力」を身につけるための方策を考え、消費者としての態度を身につけることを目的とする。</p>	
	家庭電気・機械及び情報処理	<p>豊かな人生を送るための基盤となる家庭生活を便利で快適にかつ安全なものにするために、家庭で使われる機器に対する、電気・機械・情報処理などに関する基礎知識を理解することにより、それらを安全で適切に使いこなす能力を養うことを目標とする。さらに、これら機器の利用にかかわる環境負荷についても学び、循環型社会、持続可能な社会など地球環境に対する意識を高める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 生活系科目	家庭科教育法Ⅰ (生活の自立と衣食住)	中学校「家庭分野」、高等学校「家庭」の学習指導要領を深く読み込み理解する。また、学習指導の基礎となる内容・技術のうち、「生活の自立」や「衣・食・住」に関する内容を中心に挙げ、実際に実験や演習を体験することを通して、知識や技術を習得する。また、生徒が「学ぶ」として生徒に「教えること」の違いを実感して理解する。さらに、中学生が知識や技術を修得するために教員はどのように言葉で表現し、何を準備すべきかなど、生徒へのアプローチの仕方や教授方法について理解し、学習指導を考えることができるようにする。	講義15時間 演習15時間
	家庭科教育法Ⅱ (家族・家庭生活と福祉)	中学校家庭分野、高等学校家庭の学習指導の基礎となる専門的内容・技術のうち、「家族」「保育」「家庭生活」「福祉」に関する内容を中心に挙げ、実験・演習を実際に体験することを通して、知識や技術を習得すること、および「学ぶこと」と「教えること」の違いを理解する。体験学習、DVD学習、コンピュータ学習、新聞記事の利用、ホームプロジェクトやスクールプロジェクトに取り組む等、体験・演習を通して「学ぶこと」と「教えること」の違いを理解し、学習者が理解しやすい教授法や教材作成に生かすことができる。	講義15時間 演習15時間
	家庭科教育法Ⅲ (指導法と教材作成)	家庭科教育の意義、本質、家庭科の目標と指導内容、家庭科の歴史の変遷についての基礎的理解をする。また、中学校家庭分野、高等学校家庭の学習指導要領や評価基準を理解した上で、実際に指導案作成や教材作成を行う。他者の指導案を題材としてディスカッションし、指導案作成や指導方法の工夫を共有する。さらに、生徒の知識、実践、体験を「生きる力」に結びつけるよう、指導内容の組み合わせを工夫し、授業を計画・設計・実践する。校外での実習・見学の授業における事前事後指導の方法についても理解することを目的とする。	講義15時間 演習15時間
	家庭科教育法Ⅳ (模擬授業)	中学校「家庭分野」、高等学校「家庭」の学習指導要領を理解し、その指導内容をもとに模擬授業を計画し実践する。模擬授業を通して、生徒とのコミュニケーションの方法、話し方、ワークシートの使用方法、板書、カード、情報機器などの利用の仕方を体得する。他者の授業を観察し、授業を評価する力を養うとともに、授業改善に役立つ意見を述べるができるようになる。また、繰り返し、模擬授業を実践する中で、短時間で適切な指導案の作成ができる力を養うことなどを目的とする。	講義15時間 演習15時間
	保育学(実習および家庭看護を含む)	人間の子どもは他の動物と異なり、自立のために親が長期にわたって世話をし、育てはぐくむ必要がある。子どもをしっかりと育てることは社会全体の最大の責任である。保育書を読んだり、ニュース等について考える時には、基礎となる正しい医学的・生物学的・社会学的知識を身に付けている必要がある。そのためには、まず母体の理解が必要である。また、新生児から乳幼児へと発育してゆく状態や、保育のための環境整備について、学びを深める必要がある。さらに、育児不安や虐待防止のための政策にも言及する。	講義28時間 実習4時間
	医学一般	近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目を見張るものがある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 福祉系科目	現代社会と福祉Ⅱ	本講義では「現代社会と福祉Ⅰ」で得た社会福祉の基礎的理解に立ち、政策と原理・哲学を中心に学ぶ。まずは、福祉政策のニーズと資源、構成要素（福祉政策における政府、市場、家族の役割等）を学び、加えて福祉政策に関わる諸政策（教育政策、住宅政策など）を概観する。これら政策への理解を深めた上で、それらと相談援助活動との関係を理解する。最後に、福祉原理と哲学について欧米における理論動向も踏まえながら理解を深める。	
	社会保障論Ⅰ	20世紀以降、社会保障は人々の生活に欠かせないものとなった。本講義では現代社会における社会保障の存在意義、理念、歴史など社会保障の基礎を学ぶ。具体的には少子高齢化が急速に進むわが国における社会保障制度の概要と課題を確認した上で、社会保障の理念、対象、そしてイギリス、アメリカも含む社会保障の展開過程を学ぶ。かかる基礎知識を身につけた上で、社会保障の財源及び社会保障を構成する制度群を社会保険と社会扶助の二つに分け、それぞれについて理解を深める。	
	社会保障論Ⅱ	本講義では社会保障Ⅰで学んだ社会保障の基礎的理解に立って、社会保障を構成する各制度を具体的に学ぶことを主たる目的とする。まずは複雑に分立したわが国の社会保障制度を鳥瞰しながらその全体像を把握する。そして社会保障の支柱である社会保険の原理を理解した上で、年金保険と医療保険等の各社会保険の詳細を学ぶ。さらに公的扶助、福祉サービスを概観し、最後に欧米の社会保障と比較しながら、わが国の社会保障の特質について理解する。	
	老人福祉論	高齢者福祉制度は必要不可欠なものとなっている。この制度の発展過程を学び、超高齢社会の進展する現代にあってこれら高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉、介護需要や高齢者虐待防止、地域移行支援、就労の実態について理解する。さらにソーシャルワーク実践において必要となる介護保険制度や高齢者を支える他の法律制度についても理解する。具体的には、高齢者福祉制度の発展過程、高齢者の福祉需要と介護需要（要介護高齢者の実態や認知症高齢者の実態を数値などで示す）、介護保険制度の概要として、法の目的、組織及び団体の役割について理解したうえで、認定の仕組み、保険者、保険料、各種介護サービスの種類と内容、苦情処理、審査請求また制度の変更や動向について理解する。	
	介護概論	要介護高齢者の増加に対して介護の質を高めることは不可欠となっているので、介護の概念や対象及びその理念等について理解する。また介護過程における介護の技法や介護予防の基本的な考え方について理解する。また終末期ケアでの人間観や倫理観についても理解する。具体的には介護概念と範囲、介護の理念、在宅介護を意識するうえで不可欠な住環境の整備についても考える。さらに介護の対象および介護過程については概要、介護予防プランの実際、介護予防の必要性について学ぶ。	
	障害者福祉論	授業の目標は、障害のある人の生活実態と福祉・介護ニーズ（障害のある人の地域移行や就労の実態を含む）について理解することである。そして、障害のある人を取り巻く社会情勢と障害者福祉法制度の発展過程について学び、理解を深める。具体的には、相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や他の法制度について学ぶ。また、障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際、専門職の役割と実際、他職種連携やネットワーキングの実際についても理解する。	
	児童福祉論	子どもが心身ともに健やかに生まれ、育っていくことができるために必要な子どもの福祉についての学びを行う。そのためには、子どもとその家族の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や子育て、ひとり親家庭、児童虐待およびDVなどせの福祉需要について理解する。さらに、子どもと家族の福祉制度の発展過程についての理解や子どもの権利について理解し、相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 福祉系科目	地域福祉論Ⅰ	子どもから高齢者、障がい者、生活困窮者など様々な人の生活基盤である地域で起きている現代社会の多様な生活問題、福祉問題について理解したうえで、それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安心・安全に暮らしていける地域社会を構築していくために、どのような支援や活動が必要なのかを学ぶ。そのために地域福祉の概念や理論の歴史的展開・社会的背景、地域福祉の推進機関、活動の現状や課題を学び、地域に根差した福祉について理解する。	
	地域福祉論Ⅱ	地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。しかし、現代社会では地域住民同士の連帯意識の低下やつながりの希薄化などが原因となり、地域のニーズは多様化、複雑化、高度化し多くの問題が浮上している。そこで、地域住民の主体的な取り組みを推進していくためには、住民の主体形成、地域の組織化、地域への働きかけを進めていく必要がある。住民主体が原則である地域福祉の推進のために、どのような支援が必要なのか、小地域の取り組みをどのように進めていく必要があるのか、地域で暮らす一人ひとりの住民が安心安全に暮らしていくために必要な支援が何かについて理解することを目的とする。	
	介護技術	介護技術は身体介護のみと考えられがちだが、人権意識と利用者の多様性を理解する必要がある。そのために必要なコミュニケーションワークの能力およびさまざまな状態状況での介護技術の方法を習得していく。具体的には環境整備と福祉用具の知識、使用方法についての理解。生活場面における移乗、移動の介助方法、食事介助の方法、排せつ、着脱静養、清潔などの介助の意義を理解してこれらの介護技術を習得する。医療との連携の意義や必要性についても理解し、仮想事例に対して介護技術教室を使用して実体験から理解を深めていく。	
	精神保健学Ⅰ	精神保健福祉士として、「こころの健康」を広く個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学ぶ。そのために、「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指す。	
	精神保健学Ⅱ	精神保健学Ⅰの基本的知識をふまえて、「こころの健康」の個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している精神保健の課題に対する具体的な解決方法について、精神保健福祉士の視点や姿勢、そして求められる技術について学ぶ。さらに、現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることとともに、必要な支援の視点や技術が説明できることを目的とする。	
	医療ソーシャルワーク論	疾病によって課題を抱える患者・家族に対する真の援助とは何か、医療ソーシャルワークの観点から理解する。また、ソーシャルワークの基礎概念や医療ソーシャルワーカーの業務について学んだ上で、保健医療分野に社会福祉専門職が存在する意義や役割について理解を深める。さらに、医療の変遷、保健医療を取り巻く制度・施策、施設、機関などの背景や課題を学び、社会資源の活用や発掘、開発などミクロからメゾ・マクロな支援のあり方について考察する。	
	レクリエーション論	レクリエーションを社会福祉の現場でどのように活用していくのか、個人個人が持っている価値観や性質、生活歴や環境、文化など様々な要素からなるその人の生活の中の喜びや楽しみを引き出すことである。ここではソーシャルワークと関連する援助としてレクリエーションの理論やレクリエーションワーカーとしての役割を体系的に学び、実践理論として学び、レクリエーション援助活動がソーシャルワークの中で今後どのような活動を行っていくことができるのかを理解する。レクリエーションの考え方に基いてプログラムプラン提案、アセスメントや実施、評価の方法についても理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目	福祉コミュニティの実践	地域コミュニティには、子どもから高齢者、障がい者や生活困窮者など多様な人が暮らしている。現代社会において、人々が抱える課題やニーズは複雑、多様化し、潜在的なものも多くなっている。そこで本演習では、地域で起きている多様な課題が何かを検討し、それらを解決するために何ができるかを考え、地域コミュニティを舞台に企画、立案、実践する。このような取り組みを通して、履修生各自が今後の自らの地域生活において、どのようなことに取り組むことが大切か、また生活者を支援する立場としてどのようなことが必要かを体験的に学ぶことを目的とする。	集中	
	食品安全性学	食品の安全を図ること、すなわち食品による健康被害が発生しないよう予防策を講じることは、多種多様な食品が簡単に手に入る現代においては必要不可欠である。そこで、食品の安全を確保するために、消費者として、あるいは生産や製造、加工、流通に関わる立場で、食品の安全を脅かす因子と発生原因について学び、予防策についての具体的な方法を理解する。さらに食品の安全性に関する正しい知識を用いて、的確な食品の選択、保管、消費を行えるよう実践的な力を身につけることを目的とする。		
専門教育科目	関連科目	食品流通論	食品が消費者に届くまでに辿る実態が見えにくい複雑な仕組みと、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動（マーケティング活動など）について理解する。また食生活の変容とその背景、さらにその変化がフードシステムに与える影響について学び、フードビジネス（小売業、卸売業、外食産業、中食産業）の対応や業界全体が抱える構造的な問題、環境問題、食品の安全性の問題など、現在の食品消費の課題について考える。	
		フードスペシャリスト論	世界や日本の食生活について、歴史のおよび地理的視座より俯瞰し、それらの中から現代の食にまつわる諸問題を抽出することにより、フードスペシャリストが社会から期待される活動のアウトラインを理解する。さらに、食品の流通から消費にまたがる幅広い分野で必要とされる食に関わる法律や社会システムの仕組みを学び、フードスペシャリストとして専門的に活動するための礎となる知識を習得することを目的とする。	
		住計画演習Ⅰ	住宅設計における計画能力、空間構成能力及び造形能力の養成、住宅及び周辺環境に対する新たな視点の獲得が本科目の目的である。現代社会における個人と家族、地域社会との関係や、情報化、環境問題などを視野にいった、戸建住宅、集合住宅の計画・設計の一連の作業を演習する。課題例としては三世代住宅の設計やキッズルームをを具えた集合住宅などであり、多様な世代や立場のライフスタイルを追求考察する。課題はコンセプトワークや先行事例のレビュー、図面・パース・イメージ写真・文章などでプレゼンテーションの訓練も行う。	
	住計画演習Ⅱ	本科目の目標は、住宅設計における計画能力の養成、空間構成能力及び造形能力の養成、住宅に対する新たな視点の獲得である。「住計画演習Ⅰ」の授業をふまえて、本演習では、個々の住宅や住棟のみならず、居住地全体を含めた住環境の計画・設計を演習する。課題例としてはプレイロットや緑道計画も含めた団地の計画などであり、地域住民の共生を生活環境のあり方を追求考察する。課題はコンセプトワークや先行事例のレビュー、図面・パース・イメージ写真・文章などでプレゼンテーションの訓練、またグループワークを行う場合もある。		
	建築構造力学	本科目は、主に二級建築士の取得に必須の静定構造物についての応力計算・断面設計、変形計算に関する基礎知識の取得を目標とする。具体的には①作用・反作用の知識による反力計算、②単純支持梁や門型骨組みの曲げモーメントとせん断力の計算、③梁や柱断面の応力およびはりのたわみの計算などである。それにより、与えられた外力に対して建造物が安全であるためには、その外力によって構造物がどのように変形し、構造物を構成している各部材にどのような応力が発生するのか、構造上の安全の基本を理解する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 生活系科目	建築施工	計画、材料、構造、法規などの広範な基礎的知識を動員しながら、設計図書にしたがって工事現場で実際に建築物をつくっていく「建築施工」の過程を理解することを目標とする。木造在来軸組工法から鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造まで、工法、構造別に工事現場を想定し、施工計画の立て方から地業、基礎工事、仕上げ工事までを手順に従って解説する。講義では、テキストを補足するパワーポイントを利用して、施工法と施工管理について、計画、材料、構造、法規とどのような関連があるのかということも併せてとりあげる。	
	デザイン論Ⅰ	住環境にまつわる形態表現について考察する。具体的には、建築をはじめとして、我々の身の回りに存在してきた日用品の数々を含めた作品の中から、「かたち」がどのように構成されているのかを読み解くことによって、近代デザインの歴史と特徴を習得することを目標とする。それによって、作品に込められた「かたち」や「空間」のとらえ方を的確に把握するとともに、より豊かな見方を養うことを目指す。	
	デザイン論Ⅱ	絵画、彫刻、写真、音楽をはじめとして、あらゆる芸術分野の横断が活発となった今日、建築やインテリアのデザインが、どのような意味をもつのかについて考えることは重要である。本講義では、西洋および日本の建築の歴史を見ていくことで、人間が造りだしてきた空間がどのようなものであったのか、また、造りだされた空間にはどのような意味があるのかについて学ぶことを目的とする。東西の建築や空間を紹介し、その鑑賞を通して、なぜこのような空間が生まれたのか、あるいはこのような空間が何を表現するのかについて考察する。	
	色彩学	「色」は造形活動のうえで、形、テクスチャーとともに、表現するための重要な要素ともいえる。「色」を体系的に学ぶことにより、色彩システムの基本知識を習得し、色彩表現、色彩計画において色を有効に活用できるような、色の区別、再現、配色方法に関する理解を深める。授業では理論を学んだ後、色相環の作成、色の三属性を把握する配色演習、季節感の色彩構成、配色技法を用いたパターン制作、エクステリアの色彩設計、インテリアの色彩設計などの課題を通じて修得を図る。	
	ビジネスの基礎	少子化高齢化、育児・教育問題、引きこもり・ニート支援、障がい者支援、環境保護、貧困問題、まちづくりなど、解決されなければならない社会的課題をビジネスの手法で解決していくソーシャルビジネスの考え方や手法を理解したうえで、実際にビジネスに従事するために必要とする「書く」「考える」「伝える」「話し合う」といった能力の養成、ビジネス場面で必要な一般教養やコミュニケーション力を高めるための意識啓発などを行う。最終的には具体的な課題を与え解決のための「企画」「発表」を「協働」することを体験する。	
	マーケティング論	感覚的なことを上手に数値化することが現在のマーケティングに求められる。本授業ではまず、データの見方、集め方など数値を読みとる基礎能力を身に着ける訓練をする。つづいて企業の商品開発の進め方や商品イメージの数値化、ビジネスチャンスの発見の仕方などを概説したのち、需要調査の調査票作成やビジネス資金の運用などの演習を通じ、マーケティング能力を養う。そのうえで、現代において注目される企業の社会的責任（CSR）に言及し、自社の利益中心ではなく、社会全体との関わりを考えながらマーケティングを行うソーシャルマーケティングの考え方についても解説する。	
	女性起業論	女性が会社や組織を設立する動きが活発化している。こうした女性による企業の動機や背景、経営手法などをみると、男性とは異なる特徴が多くみられる。この科目では、生活・福祉の分野を中心に女性起業家の実像に迫っていく。主な内容は、女性のライフスタイルと雇用環境の変化、女性起業家の事業の特徴や企業の多様な形態や企業支援策を把握し、新たなニーズに対応した商品・サービスに注目し、事業計画、経営計画をたて、効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 福祉系科目	保健医療サービス	本講義では、保健医療サービス領域の施策や制度、近年の動向を理解し、患者・家族の相談に応じることができる知識を身につけ、患者・家族のQOLの向上に向けて保健医療サービスにおける専門職が果たすべき役割や実際について理解する。さらに、様々な事例等を用いて、保健・医療機関や地域における保健医療と福祉の連携・協働のあり方を学び、今後の包括的な地域ケアの推進に貢献できるソーシャルワーカーの基礎能力を修得することを目指す。	
	公的扶助論	公的扶助（生活保護）制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。まずは貧困・低所得層の生活実態と政策動向について学ぶ。その上でわが国及びイギリスにおける公的扶助制度の歴史を概観し、そして生活保護の原理及び原則について具体的事例を交えながら理解を深める。最後に昨今の政策課題ともいえる、自立支援プログラムの意義とその実際とホームレス支援の課題について学ぶ。	
	福祉行財政と福祉計画	福祉行財政の基礎的な知識をふまえた上で、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。具体的には、①福祉行政の実施体制について、国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係を学び、②国と地方双方の社会保障財政を把握する。その際、地方自治体の民生費については詳しく説明する。最後に①と②をふまえ、各種福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例検討を通して学ぶ。また実際に地域福祉計画を策定することを通して福祉計画に対する理解を深める。	
	社会福祉運営論	社会福祉の組織と経営についての基礎理論を理解し、その経営と管理運営についても理解を深める。さらに社会福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治など）について理解する。具体的には、組織に関する基礎理論、経営に関する基礎理論、管理運営に関する基礎理論、集団力学に関する基礎理論、リーダーシップに関する基礎理論。また社会福祉法人制度、特定非営利活動法人制度やその他の医療法人等の組織や団体について理解する。さらに提供組織の経営と実際では、理事会の役割、財源、組織のコンプライアンスとガバナンスと人材養成と確保について学ぶ。	
	就労支援	「働く」ということは単に収入を得るだけではなく、その人が社会と繋がりながら、その人らしく生活するために重要な要素である。そのような観点からまずは現在の雇用・就労の動向と労働施策を検討する。その上で、生活保護受給者の就労支援に関わる制度、当事者への相談援助の方法、就労支援に係わる組織との連携について学び、続いて就労移行支援事業など障害者の就労支援に関わる制度や、当事者への具体的な支援方法、就労サポートシステムの構築について学ぶ。	
	権利擁護と成年後見制度	多重債務、消費者被害、虐待、生活保護など、高齢者・障がい者を取りまく諸問題と、ソーシャルワークに必要とされる基本的な法律知識を学ぶ。成年後見制度と地域福祉権利擁護事業はもとより、契約、親族、相続、消費者法（悪徳商法対策）などの一般的な法律知識も対象とする。ただし、法律については、日常生活で関わる可能性の高い初歩的なものにとどめる。 抽象的な法律学習ではなく、現実の社会でどのような問題が起きており、どのような支援が行われ、また必要とされているか、現場の具体例を多く示しながら、権利擁護支援の全体像を理解する。	
	更生保護制度	成人の犯罪、子どもの非行問題の解決にあたっては、司法的な側面ばかりではなく、福祉的な側面も視野に入れ、関係機関との連携を図っていかなければならない。また、ソーシャルワーカーとして取り組む相談援助活動の場面においても、更生保護制度を中心とした刑事司法・少年司法制度についての理解は不可欠な状況である。こうした観点から、更生保護の枠組みの中で展開される福祉的機能や福祉的実践について具体例を交えながら学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 福祉系科目	社会福祉調査法	本科目では、社会的現実の一つである「社会福祉」を対象として、質的調査と量的調査の具体的な方法を学ぶ。社会的現実を把握するときには、一定の理論や仮説をもちいながら、対象にアプローチし、現象を支配している何らかの法則を明らかにすることが求められる。その際に有効な技術としての「社会調査法」が必要となる。特に国民の生活問題をどのようにとらえ、どのように調査・分析すべきかについて、具体的な調査データの分析作業を通して考えることとする。	
	精神医学Ⅰ	精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学Ⅰでは、統合失調症、躁うつ病、神経症性障害（パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害）、摂食障害など代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解していく。授業は、視聴覚教材を使用した講義形式で実施する。	
	精神医学Ⅱ	精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学Ⅱでは、PTSD、適応障害、人格障害、発達障害、アルコール・薬物依存、心身症、睡眠障害、認知症、てんかんなど各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解し、また地域精神保健の展開についても理解を深めていく。授業は、視聴覚教材を使用した講義形式で実施する。	
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	精神障害を疾患や生活、そして環境といった観点からとらえる力を身につけ、精神障害のある人の人生を支援していくリハビリテーション理念とその構成について理解する。さらに精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。これらを講義、視聴覚教材、グループワークなどを通して、生物・心理・社会のトータルな視点からその支援の必要性と方法について深く理解する。Ⅰでは、精神科リハビリテーションの歴史、リハビリテーションのプロセス、精神科医療におけるリハビリテーションを中心に学ぶ。	
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	精神障害を疾患や生活、そして環境といった観点からとらえる力を身につけ、精神障害のある人の人生を支援していくリハビリテーション理念とその構成について理解する。さらに精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。これらを講義、視聴覚教材、グループワークなどを通して、生物・心理・社会のトータルな視点からその支援の必要性と方法について深く理解する。Ⅱでは、相談援助からケアマネジメント、ネットワークングを中心に学ぶ。	
	精神保健福祉論Ⅰ	精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステムづくりを可能とする知識と技術を習得し、より実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。特に、精神障害という言葉が指す事態を、総合的に理解するとともに、精神障害のある人が置かれている現状を学び、地域で生活を支える方向性と視点を培い、精神障害のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解する。	
	精神保健福祉論Ⅱ	精神障害のある人の置かれてきた歴史を踏まえた上で、精神保健福祉法やその施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、精神障害のある人の直面している課題を踏まえ、今後求められる精神保健福祉士の視点を学ぶ。特に精神保健福祉論Ⅰを踏まえ、精神保健福祉法の意義と内容を詳しく理解し、利用者の必要に応じて説明や活用が可能になるとともに、今後の精神保健福祉の課題について述べられるようになることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 福祉系科目	精神保健福祉論Ⅲ	精神保健福祉法等の法や施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援関連の法や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士のあり方について検討する。特に、精神保健福祉論Ⅰ、Ⅱを踏まえ、精神保健福祉の関連施策である社会保険（医療、年金、介護、雇用、労災）や生活保護、社会手当などの社会保障に関する制度（なかでも特に精神障害者が直面する課題等を重点的に）、医療観察法、社会調査について理解する。	
	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	さまざまな福祉課題に直面している人やその家族に対してソーシャルワーカーが行う相談援助の定義、理念、形成過程、体系、権利擁護、他の専門職種との概念と範囲、多職種連携の基本を理解する。そのために生活支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深めるとともに、ソーシャルワークの目的や価値について基本的理解を深め、その中でも特に精神保健福祉士がおこなうソーシャルワークの特徴や留意点について理解する。	
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）の内容を踏まえ、より専門的に精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士による相談援助の定義・理念、精神保健福祉士と他の専門職との概念と範囲、精神保健福祉士と多職種連携などについて学習する。特に精神障害者の置かれている歴史的背景、偏見や差別、不足している生活支援と職員の理解等直面する様々な課題を踏まえながら、精神保健福祉士の行う相談援助の基盤となる理念・業務・役割などを習得する。	
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としている。精神保健福祉士がまずは人として「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを考えていく。具体的には（１）精神障害者の長期入院患者等の地域移行支援について、（２）精神障害者と家族の理解と支援について、（３）精神障害者本人や家族に対する個別支援について等を具体的事例に基づきながら理解を深める。	
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としている。精神保健福祉士がまずは人として人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを考えていく。具体的には、（１）精神障害者の地域生活支援について、（２）精神障害者ケアマネジメントについて、（３）障害者が地域で生活すること等について、「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」での学びをさらに展開させ、生活者支援の視点から具体的事例に基づき理解を深める。	
	リハビリテーション論	リハビリテーションは単に「訓練」だけではない、リハビリテーションの持つ社会的役割、歴史的経過、実際の各種事例や疾患別リハビリテーションなどについて学び、リハビリテーションの機能と役割から福祉領域との連携や協働のあり方について学びを深める。具体的にはWHOの国際生活機能分類の理解、リハビリテーションの手段としての理学療法、作業療法、言語聴覚療法についての理解、疾患についての理解、疾患に対するリハビリテーションの実際の理解、リハビリテーションを支える社会保障制度での保健・医療、福祉・介護の理解を行う。	
	ターミナルケア論	ターミナルケアにおいては、身体的、心理的、社会的、精神・霊的なニーズを把握し、患者とその家族のQOLを最大限に高める支援をおこなうことに主眼を置く。本講義では、ターミナル期にある患者とその家族のこころとからだのしくみを理解し、全体的なケア概念やターミナルケアに必要な援助について考察するとともに学生が自らの生命観、死生観を養うことを目指す。また、そこに関わるソーシャルワーカー等専門職の役割とチームケアの方法について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 福祉系科目	ソーシャルワーク論Ⅰ	<p>本科目の目標は、ソーシャルワークの概念、理念、価値、歴史的展開、倫理、体系、援助の展開過程等のソーシャルワークの基盤に関する理解を深めることである。具体的には1つめに、法制度等を通して社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義を、2つめに、ソーシャルワークの歴史・国際ソーシャルワーカー連盟による定義等を通して相談援助の概念・範囲を、そして3つめに、人権擁護・自立支援・社会的包摂等を含む相談援助の理念を学ぶ。</p>	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	<p>本科目の目標は、ソーシャルワークの概念、理念、価値、歴史的展開、倫理、体系、援助の展開過程等のソーシャルワークの基盤に関する理解を深めることである。具体的には1つめに、相談援助における権利擁護の意義を、2つめに、相談援助専門職の概念と意義を、3つめに、専門職倫理と倫理的ジレンマ等を、そして4つめに総合的・包括的援助とチームアプローチを学ぶ。</p>	
	ソーシャルワーク論Ⅲ	<p>ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱをふまえて相談援助とは何か、相談援助の構造と機能を明かにして、人と環境との交互作用を学ぶ。相談援助における援助関係では、援助関係の質や自己覚知、またミクロからマクロの実践領域を検証する。相談援助の展開過程については、ケースの発見、インテーク、ニーズ確定とその後のアセスメント、アセスメントからプランニング、プランニングから支援の実施までについて関連性を持たせながら理解していく。</p>	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	<p>ソーシャルワーク論Ⅰ・ⅡおよびⅢをふまえて相談援助の展開過程を理解していく。モニタリング、再アセスメント、終結と評価およびアフターケア、予防的対応とサービス開発を学ぶとともにさらに具体的にアウトリーチの技術、契約の技術、アセスメント技術、介入の技術、モニタリング、再アセスメント、効果測定、評価の技術、面接の技術、記録の技術、交渉の技術を目的や展開、形態及び留意点なども含めながら検証し、ソーシャルワーカーとしての技術を蓄積していく。</p>	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	<p>ソーシャルワーク論Ⅲ、Ⅳの内容をふまえて、主に間接援助技術を中心とした専門的なソーシャルワーク実践を有する社会福祉士に求められる知識と技術の理解を深めることとする。具体的には、相談援助における対象の理解、ケアマネジメントの理論と方法としてインテーク、アセスメント、ケアプラン、モニタリング、終結。グループを活用した相談援助についてはグループアプローチ、グループミーティング、グループの力を使う工夫、問題解決技法を使う方法の理解を深める。</p>	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	<p>ソーシャルワーク論Ⅲ、ⅣおよびⅤの内容をふまえて、さまざまな実践モデルとアプローチの方法について理解する。具体的には、医学モデルと生活モデルについて、ストレングスモデルについて、心理社会的アプローチについて、危機介入アプローチについて、エンパワメントアプローチについて、ナラティブアプローチについて学ぶとともに、関連援助技術であるスーパービジョンの概要とコンサルテーションについての理解を深め、これらのアプローチを活用した高齢者等の事例検討もを行い、ケースカンファレンスのあり方や個人情報保護の必要について理解を深める。</p>	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	<p>本演習では、相談援助に必要な知識と技術を理解し、それを事例的・体験的に学び、現場で活用できるよう修得することを目的とする。相談援助の知識や技術に関わる他の専門科目とも関連づけ、現場実習の事前授業として位置づける。そのため、本演習では学生は各福祉現場の現状や援助場面を想定しながら、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざす。具体的には、相談援助職としての専門的な「自己覚知」「ものの見方と考え方」、「援助者の態度」、「コミュニケーションスキル」、「援助プロセスの実際」を、演習と事例検討を通して学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 福祉系科目	ソーシャルワーク演習Ⅱ	本演習の目的は、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することである。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を身につけることを目的とする。実習前には、自己覚知や基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術をロールプレイ等により学習する。また、社会的排除や虐待、多様な生活問題を抱える事例を取り上げ、アセスメントやプランニング、モニタリング等の援助過程を実践的に習得する。さらに、実習後は学生の個別的な体験も視野に入れつつ、チームアプローチやネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発等を実践的に学ぶ。	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	相談援助には、個別支援にとどまらず、さまざまな問題を総合的・包括的な視点で捉え、地域支援へと展開することが求められている。また、地域における各種の課題や問題状況を把握、分析したうえで、必要な専門職等との連携・協働を視野に入れながら、解決するための方法を模索することも求められる。そこで本演習では、社会福祉士（専門職）として必要な知識をもとに、実践的な力を習得することを目標とする。特に、地域支援や地域福祉の基盤整備と開発にかかわる実践力の習得をめざす。	
	医療ソーシャルワーク演習Ⅰ	本演習では、ソーシャルワーカーに必要な価値や倫理、知識を基盤に、病院等の保健医療現場で実際に活用できる対人援助の方法と技法の基礎を修得することを目指す。具体的には、豊富な事例を基にしたロールプレイ等を通じて、病に置かれた人間を多面的に理解する。また、個別指導並びに集団指導のもと、クライエントに応じた適切なコミュニケーション能力や面接、情報収集など実際の援助場面に即した専門援助技術力を養う。さらに実際に病院の相談室や地域連携室での相談支援の現場を体験することで支援業務のアウトラインをつかみ、次の「ソーシャルワーク現場実習」につなげる。	演習20時間 実習10時間
	医療ソーシャルワーク演習Ⅱ	保健医療現場においては、患者や家族の支援のみならず、様々な職種や機関との調整及び連携・協働などソーシャルワーカーの援助は多岐にわたる。本演習では、「ソーシャルワーク現場実習」で得た経験をベースに、保健・医療に関するトピックや具体的な支援事例に対してグループディスカッションやロールプレイ、プレゼンテーションなど多彩な形式を適宜取り入れ、医療ソーシャルワーカーの様々な働きかけについて、理解を深める。また、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てていくことができる能力の獲得を目指す。	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	本演習は社会福祉施設・機関、医療機関での相談援助実習に先立つ総合的な事前学習として位置づけられ、主に次の項目からなる。 ①実習の意義と目的の理解、②福祉施設・機関、医療機関の運営の実際、利用者、援助内容、職員の役割の理解、③実習に臨むにあたっての基本的姿勢の涵養、である。その方法は、①実習場面を想定した演習の実施、②福祉現場や医療機関に従事する外部講師の講義を通じた実習のイメージ化、③体験学習などである。これらによって、実習生としての不可欠な知識と態度を育む。	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	ソーシャルワーク実習指導Ⅰを踏まえ、ソーシャルワーク現場実習に向けて必要な知識や具体的な項目について学び、効果的な現場実習ができるように学ぶ。具体的には、各自が実習する分野の役割、機能、運営、職員配置、他職種連携や地域との関係理解を深め専門職としての自覚を促す。実習計画書の作成や専門職に必要な資質や技能、感染症、倫理などについての学びはソーシャルワーク実習指導Ⅲとの関連もあるので、連携を必要とする。社会福祉施設等の現場経験者からの講義や4年次生の実習報告会を実施することによって現場実習の意義と具体的な内容についても理解を深めていく。	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	ソーシャルワーク実習指導Ⅱを踏まえ、ソーシャルワーク現場実習に向けた直前指導として、円滑に現場実習に取り組むことができるよう、実習計画書の作成や専門職に必要な資質や技能、倫理などについて学ぶ。また、ソーシャルワーク現場実習終了後の総括、振り返りとして、実習記録をもとにしたスーパービジョンを中心に、各自の援助技術を評価し、相談援助業務に従事する社会福祉専門職として必要な専門知識や関連知識を深める。そして、援助者としての資質や能力を向上させることを目的とする。特に、実習中の具体的な事例からどのような支援が必要なのか、自身のかかわりかたを振り返りながら理解を深める。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 福祉系科目	ソーシャルワーク現場実習	社会福祉施設や医療機関における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術を体得することを目標とする。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的には、①利用者理解とそのニーズの把握及び支援計画を作成することができる。②他職種連携によるチームアプローチの実際を学ぶ。③アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解を深めることを目標とする。担当教員は巡回による個別指導を十分に行う。	集中
	精神保健福祉援助演習(基礎)	広く社会福祉全般における相談援助についての視点とその支援技術を養うために、ロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客体視する力、主観的に行動する力、福祉課題に直面する人の生活や人生を深く理解する力を養う。この後に学ぶことになる精神保健福祉援助実習に向けた基礎となる内容について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。	
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	精神障害のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を養うために、ロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客体視する力、主観的に行動する力、そして精神障害のある人の生活や人生を深く理解する力を養う。具体的には、精神保健福祉援助実習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。	
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	精神障害のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を養うために、ロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客体視する力、主体的に行動する力、そして精神障害のある人の生活や人生を深く理解し支援する力を養う。さらに精神保健福祉援助実習での経験を踏まえての振り返りや実習での学びを深め、自己覚知を深めるとともに、精神障害のある人の支援に必要な精神保健福祉士の視点と専門的な支援技術を習得する。	
	精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉現場における実習の意義を理解するとともに、実習を通して精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶことができるよう、精神障害のある人の現状やその生活実態と困難を理解し、精神保健福祉士として求められる資質、知識、技術等を総合的に発揮できるように能力を涵養する。そのために、精神保健福祉現場における実習に望むに当たり必要な資質、技能、倫理、自己に求める課題などを個別指導、ロールプレイや集団指導を通じて習得する。また、感染予防に関する指導を行う。	
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。具体的には、精神保健福祉現場における指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習において、指導教員・施設における実習指導者のスーパービジョンにもとづき、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶ。	集中
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての専門的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。具体的には、精神保健福祉援助実習指導Ⅰを踏まえ、精神保健福祉現場における指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習において、指導教員・施設における実習指導者のスーパービジョンにもとづき、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶ。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	関連科目 福祉系科目	精神保健福祉援助実習Ⅲ	精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての専門的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。具体的には、精神保健福祉現場における指定された精神科医療機関での90時間(13日)以上の現場実習において、指導教員・施設における実習指導者のスーパービジョンにもとづき、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶ。	集中
		社会福祉特講Ⅰ	ソーシャルワークの演習・実習指導・現場実習で習得した専門的知識及び技術をさらに向上させることを目指す。社会福祉施設や医療機関等の相談援助においては、利用者の生活実態と取り巻く社会情勢、社会福祉制度や社会保障の動向を理解しておくことが必要とされている。社会福祉特講Ⅰでは、高齢者や障害者、児童家庭福祉、公的扶助や権利擁護、更生保護等の社会福祉制度や社会保障の動向を幅広く学び、具体的なサービスの理解と支援方法の習得を目指す。事例を用いたグループ討議も行い、相談援助に係る知識と技術を実践的に習得する。	
		社会福祉特講Ⅱ	精神保健福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、精神保健福祉士として相談援助や生活支援、リハビリテーションや就労支援、そして家族支援やケアマネジメントなど、地域における精神障害のある人に対する適切な役割を果たせる力を身につけるために、4年間での学んだ事項を十分理解し、相談者に理解してもらえるように説明できることを目指す。そのために、精神保健福祉に関する歴史や現状の知識を背景に、支援に必要な専門的技術とともに制度や支援システム、そしてさまざまな支援サービスを体系的に整理して理解させる。	
	専門演習・卒業研究	福祉生活デザイン特論	本科目は、現代生活をとりまく諸課題に深い認識と洞察力をもち、その諸課題を解決すべく、望ましいあり方を追究するための基礎となるものである。これまで専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門演習・卒業研究	卒業研究	<p>現代生活を科学的に探究するために、少子高齢化やグローバル化、あるいは地球環境問題という社会的枠組みに対する深い認識と洞察力をもち、生活をとりにくく諸課題を自らの力で発見し、その解決の一助になることをめざし主体的に探求する。すなわち、これまで基礎科目や専門科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別的に設定した研究課題の解明に取り組み、卒業論文を完成することを目的とする。取り組みを通して、社会調査やインタビューの技法、論文執筆の方法や高度な統計処理の方法、データの分析・まとめ方などの技能もあわせて修得することを目指す。</p> <p>(1) 牛田 好美) 被服や化粧品など装いに関する諸課題、衣生活と福祉の関係などについてとりあげる。</p> <p>(2) 加藤 佐千子) 若者や高齢者の食と心身の健康や生活実態との関連、および家庭科教育の在り方についての探求を行う。</p> <p>(3) 小池 桂) 社会的排除と包摂という視点から、今日の社会福祉のあり方や、その形成過程についてとりあげる。</p> <p>(4) 竹原 広美) 快適な住環境について地球環境など社会を取り巻く諸問題との関連を含めてとりあげる。</p> <p>(5) 中村 久美) 住生活や住まいにおける諸課題とまちづくり、および住生活と福祉の関係等についてとりあげる。</p> <p>(6) 藤原 智子) 食生活の現状を知り、その改善や進展に繋がる食育プログラムや調理法の開発を目指す。</p> <p>(7) 三好 明夫) 要介護高齢者やその家族のニーズと各種サービス等の支援のあり方や課題をとりあげる。</p> <p>(2) 酒井 久美子) 地域で暮らす多様な人々の課題解決や地域福祉活動の現状、課題等をテーマとする。</p> <p>(3) 佐藤 純) こころの健康や精神の「障害」のある人、その家族の生活や生涯の支援についてとりあげる。</p> <p>(4) 矢島 雅子) 障害児者福祉に関する研究動向・方法についての理解を深め、個別の研究課題に取り組む。</p> <p>(13) 青木 加奈子) 家族および家族メンバー間で生じている現象や問題を、社会とのかかわりから考える。</p> <p>(14) 安川 涼子) 衣生活における材料、被服管理、染色及び機能加工等の諸課題について取り上げる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教師論	「教育」や「学校」については、誰でも何かしら語ることができる。それは、誰もが何らかの形で教育を経験してきたからだ。では、教師を教育の「専門家」たらしめるものはいったい何なのだろうか。この「何か」には、知識の蓄積では測りきれないもの関わっているのではないか。このような問いの下で、教職固有の使命や課題、現代的な困難や求められる素養などについて考え、教職を目指して学習する際に何が必要であるのかを理解していく。	
	教育学	「教育と人間」について原理的に問う態度と視点を養い、学校教育が抱える現代的課題を理解することで教職に就いた時に、自らの実践を反省し深めていくための原理的視座を形成する。 教育の基礎理論に関わる科目として、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を扱う。私たちの教育の見方や考え方は、それぞれがもつ教育観や子ども観に規定されている。この授業では、教育について原理的、歴史的に考察することで、受講生自身がもつ教育観や子ども観を省察する視点を養っていく。	
	発達と学習の教育心理	この科目では、幼児、児童及び生徒のよりよい学びを考える上で必要な、心身の発達や学習過程について解説するとともに、発達障害等の障害に対する個別的な学習支援のあり方についても理解を深める。以下の内容が中心になる。 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程について理解する。 ・幼児、児童及び生徒の学習の過程について理解する。 ・発達障害等の障害について理解するとともに、発達障害等に見合った学習支援について理解する。	
	教育社会学	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。 本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」などである。	
	中等教育課程論	本授業では、教育課程の編成に関する基本的な概念・原理を検討するとともに、日本における教育課程の歴史の変遷や諸外国のカリキュラム改革の遺産に学びつつ、近年の教育課程改革（学習指導要領改訂など）をめぐる課題について考察する。具体的には、次の3点を主な内容として取り上げる。 1. 教育課程とは何か、教育課程の編成原理と類型、領域論 2. 日本における教育課程の歴史の変遷・現状と課題 3. 教育課程改革に関する近年の動向	
	道徳の指導法（中等）	道徳教育に関する基礎理論や歴史を学ぶとともに、中等学校における道徳教育の基本的な指導力を培う。 道徳教育の理論や歴史を含む理論的側面と、具体的な授業の実践例や指導案の作成法を含む実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な知識を身につけることを目指す。時に「当たり前」や「あるべき姿」を一方向的に押し付けるものとして疎まれることもある道徳教育について、「道徳」とは何かという根本的な問いにまで遡りながら学んでいく。	
	特別活動の指導法（中等）	これからの児童生徒にどのような資質・能力を育てていくことが必要であるかをふまえ、特別活動の特質や教育的意義について理解することができる。特に、教科以外の学習活動の中心となるものであることや、部活動との関係など理解を深める。 特別活動の内容、指導法等について理解を深めることができる。特に、学級活動と生徒会活動と学校行事との関係性について理解を深める。 理論と実践の融合を図るために、講義以外に実習や発表の機会を取り入れる。また、パソコンによる視聴も取り入れ講義を進める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育の方法及び技術	授業内で理論習得と実践を繰り返しながら、段階的に、「学び」を促進する授業提案を含めた教育問題を解決する「理想の学校」を構想する。 まずテキストを輪読しながら、「教える」と「学ぶ」の違いに関する理論を学ぶ。その後、現在の教育問題を調査し、それらを解決する「理想の学校」を構想し、地域住民や保護者候補に説明会を開くという設定で、ポスター発表を行い、質疑応答を通して、より具体性のある構想に近づける。最後に、「学び」を促進させる授業案を作成し、実際に教師役、生徒役、記録役を交代しながら、記録をとり、実践を振り返り、授業修正へ導く方法を習得する。	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	本授業では、すべての生徒の健全な発達を促す生徒指導の視点から、思春期・青年期の心理に触れながら、生徒指導・進路指導上の諸問題に関する知識の獲得、演習を織り混ぜてのスキルの獲得、感受性の開発をキーワードに進める。生徒指導・進路指導に関して以下の視点からの的確に対応できる基礎能力の育成を目指す。 1. 生徒指導・進路指導の意義と課題 2. 思春期・青年期の心理と多様な生徒理解の方法 3. 学校での生徒指導・進路指導上の諸問題への対応と方法 4. 生徒指導・進路指導における教育相談の意義と方法	集中
	教育相談の理論及び方法	不登校、いじめ問題等、学校教育現場には児童生徒が抱える様々な課題が山積している。そこであらためて教育相談の重要性を認識し、その理論や技法を学ぶことを通じてこれらの問題行動や抱える発達課題についての理解を深めることを目指す。また、児童生徒への関わり方が多様になってきており、学年の学級担任団、生徒指導部、教職員全体、地域の施設、保護者やスクールカウンセラー等との連携を踏まえた関わり方の在り方について学ぶことをねらいとする。	
	中等教育実習事前事後指導	「事前指導」では、教育実習の意義、心構え、特別支援教育、人権教育について理解するとともに、記録や参観の意義、方法など、教育実習に不可欠な基礎的・基本的な事柄を確実に身につけ、大学での教育と教育実習との間の距離を可能な限り埋め、意欲的に抵抗なく教育実習に臨めるようにする。「事後指導」では、教育実習での学び、体験、反省をもとに、実習前の個々の教育観、学校観、生徒観との比較や整理を行い、教職への意義を高める。また、今後の学校教育や教師の課題を認識し、自らの学習や研究課題に役立てることをめざす。 (オムニバス方式／全15回) (② 加藤 佐千子／2回) 家庭科に関わる指導法、学習計画、教室内における生徒指導などの直前指導を行う。 (40 辻 敦子／13回) 教育実習への手ほどき、教員に求められる資質、文書の作成、特別支援教育、学級経営・道徳・特別活動・生徒指導、人権教育、教室内における心理面からの生徒指導、教育実習直前の指導を行う。	集中・オムニバス方式
	中等教育実習 I	学校現場において教育活動全般にわたり、実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深める。また、様々な学校教育活動に係ることで、職業人としての教師の在り方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことをめざす。とりわけ、教職の在り方への認識を深め、教師の働きかけに対する生徒の思考や行動状況の把握、学校という組織の一員としての職責・義務の自覚、指導案作成や教壇実習の経験を通して基礎的な実践的指導力の確認を行う。	集中
	中等教育実習 II	中等教育実習 I での学びに加えて、教育活動の実態や教員としての使命感にふれることにより、教職の在り方への認識を深め、教職についての自覚をもつ。教員としての自分の長所と短所に気づき、資質向上に向け努力目標を設定する。指導の下で具体的な学習活動の計画を行い、教科指導がさらに良くなるよう工夫し実践する。学校という組織の一員としての職責・義務を自覚し、教師の働きかけで生徒がどのように思考し、行動するか把握できるようにする。これらを通して教師としての職務を遂行する能力を養う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教職実践演習（中・高）	<p>「使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項（A領域）」 「社会性や対人関係能力に関する事項（B領域）」 「生徒理解や学級経営に関する事項（C領域）」 「教科内容などの指導力に関する事項（D領域）」の4つの事項を中心に、講義、演習（グループ討議）、模擬授業、ロールプレイング、アクティブラーニングなどを用いて授業を進め、教師として求められる実践的指導力を体得し、また、教職課程での学びにおける実践的指導力の体得過程を可視化する。これらを通して、教員としての適格性を最終確認することを目的とする。</p>	共同
	介護等体験	<p>特別支援学校や社会福祉施設における介護等体験を通じて、個人の尊厳や社会の連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図り、義務教育の充実を期することを目的としている。事前指導では、介護等体験で何を学ぶのか目的意識を持つことを目指す。そのために、特別支援学校や社会福祉施設の法制度や事業内容、子供や利用者との関わりについて学ぶ。事後指導では、介護等体験で学んだことを振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。</p>	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(現代人間学部 心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人間と文化	日本文学	講義形式で行う授業である。日本文学の表現と文化背景に対する理解を深めることを目標とする。はじめに文学というジャンルの特徴について考察する。特に言語表現としての特徴を理解するために、絵画や音楽など、他ジャンルの表現と比較していく。続いて、国際的交流の中で形成されてきた日本文化の特徴をふまえながら、具体的な作品の分析をとおして、日本文学の特徴に対する理解を深める。これら2つの視点を前提としながら、日本文学に対する概説的な知識を身につけると共に、文学理念や文学表現理論のテキストと結びつけ、言語表現としての文学を意識的に読解できるような分析力を育てる。	
	外国文学	アラブ文学とはアラビア語で表現された文学をさす。その起源はイスラームが興る以前の西暦6世紀に遡る。それ以来、アラブ文学は現代に至るまで豊かで固有の文学伝統を築いてきた。本科目では代表的ジャンル（聖典、詩、物語など）の各作品（和訳）を注意深く読むことによって、その文学伝統を理解し、内容の考察及び解釈の仕方を学ぶ。具体的には、アラブ文学に大きな影響を与えてきたイスラームの聖典「コーラン」、もっとも長い歴史をもつアラブ古典詩、そして今や世界文学となった「アラビアンナイト」を扱う。	
	日本近現代史	幕末の開国につき、第二大戦終了後、時の重光外務大臣が無条件降伏は初めてではなく、幕末の開国はとりもなおさず無条件降伏であった、と語ったという。開国から急速にヨーロッパ化を断行し、法制を整え、条約改正を成功させ、富国強兵・殖産興業のローガンの下、近代国家として出発した。その後大正デモクラシーを経て一五年戦争に突入し、第二大戦を迎えた。戦後は、講和条約の下で、非軍事化、政治・経済体制の民主化をはかり、平和憲法を制定し、軽武装・貿易立国の道を進み、経済大国となった。この間、猛烈なアメリカ化が進み、その後、国際化の大波、さらにグローバリゼーションが来た。	
	日本の宗教	日本の基層文化にある易と陰陽五行の概念をキーワードにとして、日本の宗教である陰陽道と神道論を考える。中国で生まれた陰陽五行説は、儒学のみならず、道教、仏教、天文学、暦学、医学、薬学、民間信仰にも浸透し、朝鮮半島や日本にも伝わった。講義では、易と陰陽五行説の基本概念を明らかにしたうえで、日本の陰陽道、神道論説、とくに仏教に反論した反本地垂迹（ほんじすいじゃく）説における展開を検討する。また、日本のカミ、信仰の在り方、死生観や価値についても考える。	
	東アジア近現代史	現在、世界の成長センターとされている東アジア地域の多くが欧米列強や日本の植民地支配もしくは、その強い影響下にあった。脱植民地化や近代化の過程において、この地域は大きな政治的・社会的な変動を経験した。今日の東アジア地域の社会と国家を考えるには、この地域が当時、どのような状況におかれていたか、そして、その中でどのように国民国家形成を成し遂げようとしたかを理解することが不可欠である。本講義は、そうした歴史学的な視座を受講生に学習してもらうことを目的とする。	
	ヨーロッパ近現代史	第二次世界大戦以降、東西に分断されてきたヨーロッパは、冷戦後はアメリカの一極集中に対抗するかたちで多様性のなかの統合を強めつつある。前半では、EUの歴史や課題、「旧東欧」諸国の近年の変化など概観し、グローバル化した現在のヨーロッパを理解する。後半では、民族、文化、宗教、政治経済、芸術などさまざまな分野から、現代ヨーロッパの複数国の過去20年の歴史を、グループごとの資料収集と報告も交えながら議論する。同時に、それらと日本のかかわりを考察ことも視野に入れた講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 教養科目	人間と文化	歴史の中の女性	男性中心とされる歴史において女性は社会とどのように係わりいかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を歴史的に考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会や、修道女の社会的使命などについての考察も行なう。具体的には、映画や書籍に登場する人物をとりあげ、その女性の職業や家庭など生涯について考察する。	
		身近な心理学	心理学は人間の行動・心理を科学的な手法で理解しようとする学問であるが、心理学で取り扱う問題意識は、そのほとんどが日常生活で感じることや疑問に内在される。たとえば、①血液型の違いが人の性格は決まるのか？②どのような時、目の錯覚は起こるのか？③思春期、親に反抗するのはなぜ？④記憶力がアップして成績がよくなる方法はあるか？など、さまざまな観点から、心理学的問題意識が挙げられる。本授業では、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、心理学について、このような日常生活での問題意識を例に挙げながら、心理学で行う基礎的な研究方法について解説する。	
		文化人類学	「文化」は人と人が結びつくところに生まれるが、文化には様々な違いがあり、異なる文化同士が対立することもある。グローバル化が進み、異文化間の交流が盛んになる現在、そうした対立が様々な形で現れ、それらを解消することがますます重要になっている。本講義では、一見近寄りたく感じるような「異文化」や当たり前になっている「自文化」を見つめ直すことにより、「異文化」と「自文化」との関わりや「伝統文化」と「近代文明」との関係、自己と社会との関わりについて理解を深め、文化的な対立の解消を図る道筋を探る。	
	生活と社会	暮らしの法律学	日常生活で起こりがちなトラブル（注文した商品が届かない、賃貸物件の敷金を返してもらえない、交通事故に遭ってケガをした等）を素材とし、法律学の基礎、とりわけ、民法や民事特別法（借地借家法、消費者契約法など）の基本的な問題を扱う。授業時における講師と受講者あるいは受講者どうしのやりとりを通して、知識の習得とともに、「法律の条文や判例を手がかりにしなが、他人を説得できるような結論を導き出す」という法的思考を身につけることを目標とする。	
		憲法と人権	その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書であり、国の基本法である「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方があるのかを学ぶ。 ①憲法とは何か ②権力分立の意義 ③人権保障の意義 ④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考える） ⑤国際社会における日本国憲法（特に人権の視点から） テキストから具体例を取り上げ、それに関連する憲法の条文の意味や内容などを考える。	
		暮らしの経済学	近年、経済のグローバル化やさまざまな分野における規制緩和によって社会や経済の構造が大きく変革し、市場メカニズムの役割はますます重要になっている。本講義の目標は、市場経済のしくみとその特徴について学ぶと同時に、その限界についても理解することである。いま日本社会が直面している問題は、雇用問題、格差問題、財政赤字、少子高齢化、年金問題などさまざまあるが、この講義で習得した理論的な知識をもとに、多様な社会・経済問題について議論できる力を養ってもらいたい。	
		国際関係論入門	急速なグローバル化の進行する21世紀の国際社会において、何が起きているか、そこで、生じる様々な課題に、私たちはどのように対処したらよいかを学生に考えさせる。経済面でのグローバル化の進展に伴い、宗教、地域主義、民族主義など根ざす、「アイデンティティの政治」が近年活発である。格差の拡大や「人間の安全保障」の課題に、国家や国際機関だけでなく、広く「市民社会」が、どのように対処すべきかについて具体的に考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 生活と社会	社会学概論	<p>本講義は社会学の基礎知識を習得することを主な目的とし、さまざまな社会問題や現象を取り上げ、一つひとつ検討しながら社会のメカニズムを明らかにしていく。「社会」とは個々の家庭・家族から日常的な社会生活の場、さらには国際社会に至るまでを指しており、そこに生じている社会現象や諸問題を学ぶことによって、物事に対する多角的な視点を獲得し、日常生活の中に隠された「ひと・自己」と「社会」の関係性に気づくことを目指す。最終的に、それぞれが「社会」に対する考え方や見方を養い、積極的に「社会」に対して関わっていけるような姿勢や態度、行動力を育成する。</p>	
	ジェンダー論	<p>人間は、人であると同時に、生まれながらにして、女か男である。そして、「女」「男」という身体的な相違、性別の相違＝性差が、多くの社会において、時として、「人」の普遍的な自由と平等の保障を阻んできた。性差を根拠として差別が存在するのはなぜか。女であり、男であるということと、女らしい、男らしいということとは別である。女らしさ・男らしさというのは、性差に基づく認識であり、社会的、文化的に形成されてきた。ある取り扱いについて、男女を区別して異なる取り扱いをしている場合、そこに「合理的説明」が必要である。本講義では、身体・性・生と個人の尊重の問題を扱う。</p>	
	ボランティア概論	<p>キリスト教に影響された西欧倫理を土台にもつボランティアの性格は、日本において変化がみられ、ボランティア理解はいまいである。ボランティアは、自由や正義のために、またよりよい社会のために、自ら進んでする活動であり、共に生きる社会の実現をめざし、相手の立場に立ってものを考え行動する心のはたらきが不可欠である。ここではまず基礎から、ボランティアの根本精神の理解と、多種のボランティア活動への認識に入ろうとするものである。</p>	
	子育てとワークライフバランス	<p>現代日本におけるワークライフバランスの現状や課題について、子育てに関する事項を中心に、幅広く学ぶ科目です。企業や教育現場、教育雑誌界や地域社会など、さまざまな分野で活躍している「母」「父」の立場の方や関連する仕事をしている方にお話をうかがい、ワークショップや討論をすることを通じて、受講生自身の生き方について考えます。7回半の授業のうち5回は外部講師をお招きして学ぶ科目であり、担当者はその授業のコーディネータをつとめます。</p>	
	子どもと子育ての生活環境学	<p>子どもの発達にとって、また子どもを育てる親や子育て世帯の暮らしにとって重要な生活環境のあり方を、「衣」「食」「住」それぞれの視点から考える。子どもや子育て世帯にとって安全、安心で健やかな生活の条件を、社会状況や政府の少子化対策、女性の生き方や家族の変化など、子どもと子育て世帯をめぐる諸情勢と関連付けて理解し、将来の自己の問題として主体的に考えていけるようにすることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全7.5回)</p> <p>(25 中村 久美／2.5回) 科目の趣旨概説子どもと家族の住空間-子ども室をめぐる問題、子育て世帯を支援する新しい居住の形、まとめ (15 牛田 好美／2回) 子どもと子育て期のファッション-子どものファッション、出産、子育てのファッション (27 藤原 智子／2回) 子どもと母親の食生活子どもの成長と食生活 (24 竹原 広実／1回) 子どもの遊びと住環境</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	生活と社会	海外研修（生活と社会） (35 酒井 久美子/隔年担当) デンマークが福祉先進国、生活大国といわれる理由について、国民の考え方、教育のあり方、福祉の現状について学ぶ。また、デンマークの暮らしと文化・教育、高齢者、児童、障害者と福祉サービスとの関わりについて実地に学ぶ。そのための方法として、各福祉分野の施設訪問、幼稚園や国民学校訪問、バリアフリーの商業施設や住環境の視察、デンマークの人々や留学中の外国人との交流や日常生活に触れ、ディスカッション等おこない、国際理解や国際的視野を広げる。 (27 藤原 智子/隔年担当) 美食大国として名高いフランスでは豊富な食材を用いた様々な加工食品が、また一方で冷涼な気候のドイツにおいては保存食が発達し、今なおそれぞれの風土に合わせた伝統的な技術の継承が行われ、今なおそれぞれの風土に基づいた新しい技術の導入も積極的に行われている。これらの加工保存技術を実地に体験し、合理的な食品の製造過程を学び、食文化への造詣を深める。	集中
		身近な自然科学	身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象の理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見ることができるようになることを目指したい。このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」へとつながるものである。 授業では講義とともに、観察・実験活動やものづくり活動を行う予定であるので積極的な参加が求められる。
	暮らしの統計学	統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野である。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを用いて統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。本科目で扱うトピックは、「統計データの種類や集計法」、「グラフの種類と特徴」、「統計データの代表的な指標」、「二変量データの表現」などである。授業の前半時間は主に講義形式によりそれぞれのトピックの解説を行い、後半は主に課題演習などを行う。	
	人間と自然	地球環境がどのように機能しているのかを学び、その科学的な理解を深めることを目標とする。具体的には、①地球内部の構造と大地の動きについて理解し、それに基づいて、地殻変動現象（地震・火山活動・造山運動）のしくみを説明できる、②大気と太陽エネルギーの性質について理解し、それに関連した地球環境問題（オゾン層の破壊・地球温暖化）を考えるための科学的基礎を養う、③地球形成時と現在の地球環境の比較を通じて、大気の進化と生命との関係性を概観できる、の3点を個別課題とする。	
	情報科学入門	『あなたはコンピュータを理解していますか？～10年後、20年後まで必ず役立つ根っこ部分がきっちりわかる！～』（梅津信幸著）を教科書に使い、我々が毎日使うコンピュータ（PC、スマホ、タブレットなど）の基盤になっている理論や原理の第一歩を学ぶ。 理解を容易にするために、講義に加えて演習としての実験も取り入れる。その一つとして、まず、センサーからの入力に対応する、音や光や動きを出力させる実験を行い、その後、ハードウェアだけでは実現できない動きをソフトウェアの助けを得て実現させる実験を行う。これらの実験を通して、なぜコンピュータがプログラム通りの動作しかできないのかを理解する。	講義10時間 演習20時間
	環境学概論	授業を通じて、深刻さを増す環境問題と現代社会のライフスタイルが直結していることに気づくことを目指す。生身の自分を取りまく環境がどのようなものであるかを考える機会にし、その上で、受講者および授業者が同時代、同社会に生きる「人」として共に生きていく姿について考えていきたい。具体的な課題は以下のとおりである。①「環境」、「環境問題」について理解する②環境問題とライフスタイル（および自分）との関連に気づく③今後の社会（および自分）のビジョンについて考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と自然	身近な医学	<p>医療の基礎的知識・医療用語の習得と生活習慣病をはじめとする代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解していく。すなわち、医療における基礎的な用語の使用、代表的な疾患について概念、診断・検査法、治療方法そして予防法が説明できることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(26 萩原 暢子／7回) 糖尿病、血液疾患、呼吸器疾患（炎症性疾患、ぜんそくなど）、腎臓疾患、膠原病、甲状腺そのた内分泌疾患、婦人科疾患、小児科疾患などを担当</p> <p>(① 河瀬 雅紀／8回) 高血圧、心臓疾患、脳卒中、消化器がん、肺がん、肝臓・胆のう・膵臓疾患、精神疾患、頭痛・めまい・腰痛などを担当</p>	オムニバス方式
	生命倫理	<p>「臓器移植」「葉害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらおう。具体的な個別課題は、現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし、などである。</p>	
	子どもと自然	<p>本授業では、こどもが自然と触れ合える活動を、企画・開発することを通して、こどもの心理・教育と自然科学について、それぞれ実践的に学ぶ機会を提供する。具体的には、地域の子ども（主に幼児と小学生）と大学生が関わり、自然素材を活用して造形活動を行ったり、自然観察や理科実験を行ったりする、地域貢献プログラムの企画・実施を行う。複数の担当教員が、理科教育、図工科教育、発達心理学の学際的な立場から関わり、こどもの自然に対する関心をどのように育てるかという観点から、教育的指導を行う。</p>	集中・共同
	英語基礎Ⅰ	<p>本講義の目的は、プレースメントテストによって示された英語力によって、それぞれの段階に応じて、簡単な英語文を効率よく読むことができる能力を開発し、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を養うことである。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけさまざまな主題や表現を経験しながら、読解スキルの習得を図る。さらに、読む練習を通して、基礎的な文法の事項の復習と定着、語彙ビルディングも同時に行う。</p>	
	英語総合Ⅰ	<p>本講義の目的は、プレースメントテストによって示された英語力によって、それぞれの段階に応じて、簡単な英語文を効率よく書き、英語で発信することができる能力を開発することである。さまざまな主題で、平明な英語の文を書く演習を行う。この書く練習を通して、初級基本英文法の復習や確認、総合的なライティング・スキルの習得を図るとともに、語彙ビルディングも行う。最終的に、「段落」を組み立てる能力とともに、自信を持って「書く」ことができるようになることを目指す。</p>	
外国語科目	英語基礎Ⅱ	<p>本講義の目的は、英語基礎Ⅰに引き続き、英語力に応じて、簡単な英語文をさらに効率よく読むことができる能力を開発し、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を獲得することである。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけさまざまな主題や表現を経験しながら、読解スキルの習得を図る。さらに、読む練習を通して、基礎的な文法の事項の復習と定着、語彙ビルディングも同時に行う。受講者は、一年の学習成果を確認するために、年度末に実施する客観テストを受験する必要がある。</p>	
	英語総合Ⅱ	<p>本講義の目的は、英語総合Ⅰに引き続き、英語力に応じて、簡単な英語文をさらに効率よく書き、英語で発信することができる能力を獲得することである。さまざまな主題で、より長く平明な英語の文を書く演習を行う。この書く練習を通して、初級基本英文法のさらなる復習や確認、総合的なライティング・スキルの習得を図るとともに、語彙ビルディングも進める。受講者は、一年の学習成果を確認するために、年度末に実施する客観テストを受験する必要がある。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	日常の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、日常的な内容に関するリスニング力を鍛える。同時に、ペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられた身近なトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	旅行の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、海外旅行に必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	留学の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、留学やホームステイに必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	おもてなしの英会話	授業中、学生は旅行代理店、ホテル、レストランなど観光産業で行われる会話や路上で旅行者を助けるための会話に必要なリスニング力および会話力を、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまでペアおよびグループワークを通して英語のみで鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	やさしいビジネス英会話	授業中、学生は教師、学習者同士の活動を通して、ビジネスシーンに必要なと思われるリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、ビジネスに関する話題について、応対したり、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関する読解力、リスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	歌って覚える英語表現	英語がうまくなりたいと思いつつながら、手段がわからないという学習者に対して、英語を身近に感じながら、自然に英語表現の習得を目指す実践的授業である。歌を唄うという演習を通して、英語独特のリズムやイントネーションが無理なく矯正されることに加え、歌詞の聞き取りにより、音声独特の連結などを積極的に聞き取ろうとする態度を涵養する。さらに、歌詞理解を図ることによって、異文化理解を促進することが可能となる。また、歌詞を覚えることで、より多くの日常的な英語表現を習得することを目指す。	
	英語リスニング初級	本授業は英語リスニング初級レベルの授業である。国際社会において「相手の言っていることを理解する」ためには総合的な英語力を向上させる必要がある。英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点を絞って練習を行う。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用して習得することを目指す。	
	英語リスニング中級	本授業は英語リスニング中級レベルの授業である。さらなるリスニング力強化を目指した授業を行う。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指す。どこでも誰にでも手に入る映画や歌やラジオ劇などを利用して、単なるリスニングの練習だけではなく、身の回りにおける機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	読むための英語	本講義の目的は、英語で小説・ニュース記事などを読むことによって、英語学習を楽しみながら英語の学力を全体的にのび出すことである。このクラスの受講生は、指定する文献またはEnglish graded readersの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持つ。受講生は、いろいろな英語文献を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになることを目指す。	
	実用英語基礎	本授業の目的は、実用的に英語を使えるようになるための、最低限必要な基礎知識の習得することである。本授業では、辞書の使い方や英語の基本文法を初歩から学習しなおしたり、音読や筆写という基礎的な訓練なども取り入れる。同時に、教材を通してTOEIC (R)に出題される基本的なビジネス英語を理解できるように、演習を進める。最終的には実際のTOEIC (R)にチャレンジできるように、上記の目標達成を目指す。	
	身近な英文法	英語学習は読み・書き・対話いずれの練習においても時間をかけて積み重ねることが大切であり、初歩の練習段階でこの積み重ねにつまずくとそれ以降の練習の成果がなかなか得られなくなる。英語学習の成果が得られない学習者の中でこのつまずきを経験している学習者は多い。本コースはこれまでの英語学習において初歩の積み重ねが不十分であった学生諸君のために英語の基礎学習再チャレンジを応援する。15レッスン修了時は、基礎的文法事項の習得、確実な語彙として1200語程度獲得、そしてgraded readers (語彙1200語程度) が強いストレスなしに読解できるようになること、さらにこれらの積み重ねを基礎に英語で初歩的対話ができるようになることを具体的目標とする。	
	アカデミック英語	本講義の目標は大学院進学を目指している学生に高度の「英語読解能力」を養成することである。大学院の入試などで評価される英語能力は専門性の高い英文を正確に読解できる能力である。このことを念頭において、本授業では、受講生が興味をもつ専門的な題材について読み、議論することに重きをおく。また、研究の進め方を学び、研究内容を短いリサーチペーパーとしてまとめ、口頭で発表をするプレゼンテーションの練習も行う。	
	ドイツ語	会話を中心にドイツ語の基礎運用能力を身につける。具体的にはドイツ語の話しことば・書きことばの基本的な用例をとりあげ、ヒアリングや対話などの練習を通じて、ドイツ語を聞いたり発音したりすることに慣れ、日常の日本語を簡単なドイツ語で表現できるようになることを目指す。また、教科書で扱われている題材をもとに、ドイツ語圏の文化や諸事情に触れ、異文化への関心と理解も深めていく。	
	フランス語	基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。基礎的なフランス語の発音・聴き取り・文法・語彙の規則を学ぶ。基礎的なフランス語の表現・成句・文法を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す。また、フランス語特有の文構造に慣れ親しみ、文全体を理解する。文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シュミレーション」など、コミュニケーションのための言語使用や文法能力を身につける。	
	スペイン語	本科目では、基礎的な文法事項を学ぶと同時に、様々な生活場面を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。具体的には、自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった初歩段階から実践段階の練習をする。また、同時にスペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化にも触れていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	アラビア語	「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。	
	中国語Ⅰ	本授業は演習形式の中国語初級授業である。1年間の学習を通して、受講生に正確な発音、簡単な会話を習得させると同時に中国文化、現代中国事情も把握してもらうのが本授業の目標である。また、1年の学習を終えた時点で、多くの受講生が中国語検定試験準4級に挑戦できるように指導することも目標の一つである。授業計画として、簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。	
	中国語Ⅱ	本授業は演習形式の中国語中級授業である。1年間の学習を通して、初級で学習した中国語文法と単語をしっかりと消化した上で、日常会話をさらにグレードアップし、中国語検定試験準4級合格を目指すことを目標としている。授業計画として、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。	
	中国語Ⅲ	本授業は演習形式の中国語上級レベルの授業である。初級と中級で学習した内容をベースにし、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すのではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指すことも本授業の目標の一つである。授業計画として、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。	
	韓国語Ⅰ	日本と朝鮮半島は長い交流の歴史を共有してきた。とりわけ近年、文化的交流が急進展する中で、お互いの言語を学ぶ人が急増している。ハングル（韓国文字）は非常に科学的かつ合理的な文字である。また韓国語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語でもある。具体的には、ハングルの特徴・構成を理解し、読み書きを学び、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることをめざす。	
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだことをより発展させ、中級レベルの語学力を習得する。ヒアリング、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力を高め、多様な表現力を学んでいく。具体的には、グループによる参加型の学習法を活用し、中級レベルの日常会話に必要な文法と会話力のレベルアップをはかる。また、韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいく。	
	韓国語Ⅲ	韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだことを再確認し、重要な全ての文法をマスターする。辞書さえあれば、新聞、雑誌を読んだり、インターネットでハングルのネットサーフィンを楽しめるほどの読解力を持つとともに、ハングルで日記やメールを書いたり、会話をなめらかに行うことができるようにする。韓国のウェブに載っている情報や雑誌のコラム、新聞のニュース、Kポップの歌詞など多彩な資料を活用しながら、社会生活や仕事にも役立つようなより実践的な語学力、会話力を獲得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	海外研修（語学）Ⅰ	韓国語の語彙、文型、会話、聴解、読解等の学習を通して運用能力（初級～中級）を高め、韓国語でコミュニケーションができる語学力を身につけること目標とする。夏期休暇期間中の約3週間（授業は計60時間）、韓国の協定大学にて実施する。語学のみならず、韓国の歴史、文化、生活様式や社会事情への理解を深めるとともに、韓国人学生との交流活動を行い、実践的に学ぶ。初日に語学レベルを測るプレースメントテストを行い、授業は、韓国語演習（48時間）、韓国語特別講義（6時間）、韓国文化講義（2時間）、韓国文化の実習又は見学（4時間）で構成される。	集中
	海外研修（語学）Ⅱ a	春期休暇中にオーストラリア又はアメリカの協定大学において英語の集中授業を受講する。英語のスピーキング、リスニングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得すると同時に、訪問国の歴史、文化、自然、社会等への理解を深め、異文化への適応力や国際性を身につけることを目標とする。オーストラリアではSpoken English, Oral Presentation, Australian Studies等、アメリカではEnglish Conversation, Presentation, Discussion, American Culture等の授業で構成される。	集中
	海外研修（語学）Ⅱ b	夏期休暇中に英国又はカナダの協定大学において英語の集中授業を受講する。英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させることを目標とする。さらに、訪問国の歴史、文化、生活、社会事情等の理解を深め、異文化の中で積極的に行動できる力と国際的な視野を身につける。英国ではCommunication Skills, British Culture, Presentation等、カナダではOral and Written English Communicaton, Conversational Idioms, Canadian Culture等の授業で構成される。	集中
	日本語講読Ⅰ	日本語を母語としない外国人留学生在が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけることをめざす。	
	日本語講読Ⅱ	日本語を母語としない外国人留学生在が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を確実に身につける。	
	日本語表現Ⅰ	日本語を母語としない留学生在が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを既習の日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	外国語科目	日本語表現Ⅱ	日本語を母語としない留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。		
		日本語特講Ⅰ	日本における様々な文化や社会問題について、毎回様々な資料を読み現状を理解させる。その後、インタビュー、アンケート調査や文献調査を行い、そのテーマについて発表させる。授業内でのディスカッション、ディベートなどの自主的な協同学習活動を通してそれぞれのテーマについての認識を深めさせる。これらの言語活動を通じて日本語コミュニケーション能力、運用能力も身につけられるようにする。また、文法・語彙などのタスク、クイズを実施し、豊かな表現も身に付けられるように指導する。		
		日本語特講Ⅱ	日本における小説、論説文、俳句、詩などの多様な文章を読解したり、テレビ番組、ビデオ、落語などを視聴したりする。これらの活動を通して、日本で日常使われている多様な表現を学び、同時に現代日本社会の諸問題を考えさせ、タスクを行う。それを基に自分の意見をまとめ、わかりやすく相手に伝える演習を行う。論理的に文章にまとめることで書く力も養う。また、文法・語彙などのタスク。クイズを実施し、表現をさらに豊かにできるように指導する。		
	基礎科目	文章表現法	大学生に求められる論述の諸能力（語彙力、表現力、構成力、論理的思考力等）が総合的に向上し、また、様々な事柄に対して自ら明確な主張を持ち、それを「分かりやすい」日本語の文章で伝えることができることを目標とする。個別課題は次のとおり。①日本語文章作成のための基本的な語彙力、表現力、構成力を磨く。②様々な資料や文献等から必要な情報を適切に読み取り、文章作成に反映させる。③議論の基本を学び、論述の基本姿勢を身につける。④論述のスキルやテクニックについて、学術的な文章のみならず、他のタイプの文章においても適宜利用することができるような、より実用的なものとしていく。		
		リテラシー・スポーツ科目	情報演習Ⅰ	今日の情報化社会では、企業・組織において一人1台のコンピュータが付与され、コンピュータはビジネスや業務を遂行するツールとして利用されている。この科目では、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通してそれらの基本スキルを習得し、社会へ出る前のIT基礎力を養うことを目的とする。さらに、学内のコンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用方法など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念・操作（ファイル管理、印刷方法など）を習得する。	
			情報演習Ⅱ	この授業は、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通して応用スキルを習得し、社会へ出る前のIT応用力を養うことを目的とする。使用するソフト（Microsoft Office製品）の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。「情報演習Ⅰ」の内容をすでに学んでいることを前提に授業を進めるため、履修済みであることが望まれる。	
		情報処理	インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページであろう。この科目では、電子メールやWebページを中心とした、インターネットの各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、複数のOS（WindowsとLinux）を利用する実習、および、プログラミングの実習も行う。	講義10時間 演習20時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 基礎科目	リテラシー・スポーツ科目	体育講義	<p>「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の健康に関する問題について理解する。 ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。 ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。 ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。 	
		健康スポーツ演習	<p>スポーツの実践を通して、体を動かす楽しさや爽快感を知る。その上で、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <p>自分自身の健康や体力にも目をむけ、生活をより健康的に送る力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なスポーツを経験し、運動の楽しさを実感する。 ・スポーツを通して、他者と積極的に関わりを持つ。 ・スポーツテストにより、自分自身の健康と体力について考える機会とする。 	
		体育実技	<p>心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。 ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。 ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、仲間と強し切磋琢磨し合う能力の向上を図る。 	
	カトリック教育科目	キリスト教入門	<p>本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学ぶ。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、現代社会へのメッセージとして受け止める。</p>	
		キリスト教音楽入門	<p>授業形態は講義を主とするが、年間の大学行事で歌う聖歌等の練習も授業内で行う。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一の目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。教育・学習の個別課題は(1)キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。(2)さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。</p>	講義22時間 演習8時間
		聖書と文化	<p>聖書成立の背景には、ユダヤ、ギリシア、ローマ文化など様々な文化の影響があり、また、聖書の思想は西洋文化を始めとして、多くの文化の形成に影響を与えてきている。イエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、イエス時代の文化的、思想的背景との関係において聖書を探究する。また、聖書の思想が、キリスト教成立後の世界の文化にどのような影響を与えているかについても考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基盤科目 カトリック教育科目	キリスト教と日本文化	<p>キリスト教と日本文化の交流を、歴史と文学という二つの側面から理解することを目標とし、オムニバス形式の講義を行う。初めの5コマでは、「キリスト教と日本の歴史」をテーマとし、後の10コマでは、「キリスト教と日本文学」をテーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(109 John Breen/5回) 「キリスト教と日本の歴史」 キリスト教伝来に始まる日本におけるキリシタン史を概観し、日本社会のキリスト教受容と葛藤、キリスト教宣教師との交渉、キリスト教宣教師の視点による日本宗教論、昭和初期から戦後の日本のキリスト教と神道との関わり等を扱う。</p> <p>(62 郭 南燕/10回) 「キリスト教と日本文学」 日本近現代の文学者たちがどのようにキリスト教を受容し、いかなる文学を作ったのかを教える。さらに来日した外国人宣教師の執筆した日本語著書が日本人にいかによりキリスト教を伝え、日本社会にどのような影響を与えたかを検討する。授業の目的は、近代日本におけるキリスト教の浸透によって、日本語と日本文学が豊かになったことへの理解を助けることである。</p>	オムニバス方式
	キリスト教思想	<p>使徒の教えが受け継がれ、どのようにキリスト教思想として発展してきたかを理解することを目的として、主要なキリスト教教父や、聖トマス・アクィナス等のキリスト教神学の発展に寄与したキリスト教著作家の生涯と思想について講義する。彼らが生きた時代と文化の中で、いかにキリスト教神学を構築したかをその生涯とともに紹介し、キリスト教の教義の発展との関わりや、後のキリスト教に与えた影響についても考察する。</p>	
	キリスト教美術	<p>4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。本科目では、講義形式でその基本的な知識を習得する。主にゴシック時代から18世紀について、絵画を中心とした代表的な作例を鑑賞し分析することにより、主要な主題と基本的な図像を学べるようにする。旧約聖書・新約聖書・聖人についてまんべんなく触れる。また、キリスト教美術の歴史についても適宜解説し、基本的な流れを把握してもらおう。以上を通して、未知の作品に出会ったときにも、独力である程度主題を推測できる力を養うことを目指す。</p>	
	キリスト教音楽	<p>授業形態は講義を主とする。目標は「ミサ曲を学ぶ」。ミサ曲は古くから多くの作曲家によって手がけられ現代にまで続いている。この授業の計画としては、中世からバロック時代にかけてのミサ曲の変遷とJ.S. バッハ作曲の《ロ短調ミサ曲》、更にモーツァルト、ベートーベンなどの古典派のミサ曲までを範囲として学ぶ。ミサ曲と典礼との関わりやバッハの音楽の宗派を超えた普遍性などについても考えたい。教育・学習の個別課題は(1)ミサ曲のテキストと典礼との関連を理解するように努める。(2)J.S. バッハの音楽の特徴や他の時代の音楽との比較をする。(3)中世からロマン派までの音楽を味わう。</p>	
ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	<p>本学の設立母体であるノートルダム教育修道女会について学ぶ。修道女会の創立者であり、カトリック教会の中で「福者」として列福されているマザーテレジア・ゲルハルディンガーとその時代について学習し、どのようにして本学が設立されたかという創設の歴史と理念を知り、連綿と受け継がれてきたノートルダム女性教育の現代的意義を、キャリア教育(知育)と自校教育(徳育)、双方の観点から考える。ゲストスピーカーとしてシスター、卒業生等 را ぎ、その意味・意義について討論し、自ら考える授業とする。</p>	講義15時間 演習15時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基盤科目 ライフキャリア形成科目	女性とライフキャリア	本授業では、学生生活を終えたあとの長い人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身につけ、考える力を養成することを目的とする。特に職業キャリアと家庭生活の両立は、男性以上に女性にとって大きな人生の課題として立ちはだかるだろう。そのために、あらゆるライフキャリアの可能性を検討し、予測される課題にどのように対処できるのか検討することは重要である。また、生きる目的のひとつに社会活動に参加するというものがあることを知り、自分や自分の家族のためだけではなく、社会に貢献するために自分は何ができるのかを考える。	
	ホスピタリティ入門	「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。ホスピタリティの語源、ホスピタリティと文化、地域や文化・文明による差異などを考察する。パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回小レポートによりホスピタリティを考察する。	
	ホスピタリティ京都	講義形式である。京都の接遇の文化について理解を深めることを目標とする。はじめに、日本ならではの「もてなし」という概念を理解する。普遍的な概念としてのホスピタリティ、あるいはサービスと、どのような点で共通し、どのような点で異なるのか、華道、茶道、和食などの世界における具体的な事例をとおして、日本の接遇の独自性を理解する。特に日本の伝統文化を伝えてきた京都の、国内および国際的交流の歴史をふまえ、京都に受け継がれる、コミュニケーションの方法としての「もてなし」の独自性について考察する。各回毎に華道、茶道、和食などテーマを設け、具体的な事例から理解を深める構成である。	共同
	キャリア形成	大学生活の中盤を迎える2、3年次生を対象に、コミュニケーションスキルを向上させながら、大学生活の振り返りを行い、今後のキャリアプランについて考える科目である。そのために、基礎的なコミュニケーションスキルについての学修をした上で、自己の振り返りや職業社会の理解など、キャリアにかかわる学修を少人数のグループワークを中心に行い、コミュニケーションスキルを高めながら、キャリアに関する深い理解と、今後のキャリアプランの作成をする。	
	キャリア形成ゼミ	社会で必要とされる力を社会人基礎力と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動する「場」をゼミナールとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。	集中
	インターンシップ	職業現場での就業体験プログラムを通して、働くことの価値形成を図る実践授業である。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識を育成し、職業選択の明確な基準軸を養成するとともに、人間性（思いやり、公共心、倫理観）を高め、基本的な生活習慣（基礎的なマナー、時間管理）を身に付けることを目標とする。就業体験を有意義にするための事前、事後指導も併せて行う。さらに体験成果の発表を課すことで、社会人としての基礎能力をも養成する。	集中
	海外インターンシップ	海外の職場で実際に英語等を使って仕事をするを体験することにより、語学の応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、責任感、協調性、キャリア意識を身につけることを目標とする。研修先国は、ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ等複数の国から選択できるとし、夏期又は春期のいずれかの休暇期間中に、各自の希望等に応じて一般企業、教育機関、福祉施設等で実施する。就業体験中の海外生活を通して、異文化に対する理解、積極性、国際的な視野を広げる。研修終了後にレポートを提出することが求められる。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通 科目	現代社会と子ども	<p>現代社会における、こどもの生活世界の現状と課題について、こども教育の観点と、こどもの発達心理学の観点から、オムニバス方式で講義を行い、「今」を生きるこどもとそれを取り巻く人々や社会の在り方について考える力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(18 工藤 哲夫/3.75回)</p> <p>本講義の前半では、現代社会におけるこどもの教育の状況を概観する。小学校就学前のこどもたちの保育・教育の状況について、また小学校就学後のこどもたちの教育状況についても、国際的な比較することで日本の独特な状況を客観視し、保育・教育のあるべき姿を考える。また、待機児童ゼロとはどんな状況なのか、いじめはどのような教室で起こるのか、学びの場にこどもたちは何を期待しているのかなどの課題について討論、発表を行う。</p> <p>(4 高井 直美/3.75回)</p> <p>本講義の後半では、こどもの発達心理学の観点から、現代の子どもを取り巻くいくつかの課題について、問題意識を喚起し、受講生の意見を積極的に聞きながら、現代社会の課題について考える。取り扱う課題は、「早期教育はこどもを伸ばすのか?」「こどもへの虐待は増えているのか?」「昔のこどもと今のこどもの発達の違いは?」など、心理・福祉・教育全般に関係するもので、3つの学科の専門教育への導入の役割も担うものである。</p>	オムニバス方式
	現代社会と女性・家族	<p>性別や性差、性役割などの性をめぐるトピックについて、現代社会における女性、現代社会における家族の在り方や課題を関連づけながら講義する。講義の前半は家族関係学や女性学の観点から、後半は心理学の観点から性や家族に関して、オムニバス方式で講義を行い、この問題に関する受講生の興味や関心、知識の拡充を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(44 青木 加奈子/3.75回)</p> <p>本講義の前半では、女性のライフコースと社会的地位の歴史的变化を国際比較調査のデータを用いて、現代の日本社会のなかで女性の置かれている現状を理解する。また、現代に生きる私たちが家族に求めるものはなにかを、グループディスカッションをとおして受講生に考えさせる。</p> <p>(7 向山 泰代/3.75回)</p> <p>本講義の後半では、心理学の分野での性や家族に関するこれまでの研究を紹介しながら、この問題の現状や課題について講義する。授業中、受講生には簡単なアンケートや教材等に反応を求め、これらを講義の素材とすることによって、受講生自身が性や家族に関する自らの価値観や態度に気づき、問題意識や興味を深める。</p>	オムニバス方式
	現代社会と高齢者	<p>超高齢社会において人々がより良く生きるには、高齢者を正しく理解し、高齢者と上手にかかわることができるとともに、高齢者を支援できる人材が豊富であることであろう。本講義は、生活学や老年学および心理学の視点から現代社会における高齢者についての知識を身につけ、理解を深めるとともに、他者としての高齢者を学ぶだけでなく、受講者自身も老いゆく存在として自分のライフコースとも関連付けて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(1 伊藤 一美/3.75回)</p> <p>本講義の後半では、生涯発達心理学における高齢期の位置づけと、現代の多様な老いのプロセスや発達課題について、受講者自身のライフコースや時間的展望と関連付けながら学ぶ。また、高齢者における認知、パーソナリティ、家族を含む対人関係の特徴などについて、心理学的な理解を深める。</p> <p>(17 加藤 佐千子/3.75回)</p> <p>本講義の前半では、超高齢社会の現状を概観し、生活学や老年学の視点から、高齢者の健康、老化、コミュニケーション、生活、社会交流などについて講義や討論によって理解を深める。また、高齢者を正しく理解し、高齢者を支え、高齢者とともに生きるための基礎知識を講義、発表を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代社会と病者・障がい者	<p>現代社会における病を抱えた人、障がいのある成人やこどもの生活様態や生活困難性、教育や社会制度の課題について、主として社会福祉学、教育学の観点から、様々な事例を交えながら講述する。 (オムニバス方式／全7.5回)</p> <p>(28 三好 明夫／1.5回) 本科目のねらいと内容について概説したあと、病者や障がい者の非日常として、自然災害の被災時における彼らの生活困難とそれへの支援のための課題について、東日本大震災における事例を通して解説する。 (35 酒井 久美子／1回) 障がい者の地域生活移行が進む一方で、障がい者が地域で安心・安全に生活し、社会進出するには課題が山積している。このような現状を理解し、障がいがあるとなかろうと、地域でその人らしい生活を営むためにどのようなことが必要かについて学び、考える。 (④ 江川 正一／2回) 病や障がいを抱える幼児や学童の日常と、発達支援のしくみ、教育制度などについて、教育現場からの具体的課題をあげながら解説する。 (① 河瀬 雅紀／3回) 感染症、がん、精神障がいなどの主要疾患を取り上げ現代社会が抱える問題を検討する。すなわち、過去と現在、発展途上国と先進国、都市部と過疎地、貧困と格差など複数の軸から病や治療・ケアに伴うさまざまな社会的問題を検討し、現代社会に生きる病者の心理と苦悩への理解を深める。</p>	オムニバス方式
学部共通科目	病児の発達と支援	<p>病を抱える子どもたちの苦しみを理解し、発達を支援する方法を学ぶ。即ち、小児科病棟でのボランティア活動をモデルとして、病児のサポートのあり方を理解していく。まず小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師等の立場から概説し、子どもたちの疾患の基本的な知識や心のケアについても学ぶ。また、子どもたちの発達に沿った遊びの役割や手技などの実践を学習する。院内学級での支援についても現場を見学し、担当の講師からその実際を学ぶ。さらに、ボランティアをする学生自身のケアについても学ぶ。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 河瀬 雅紀・26 萩原 暢子・39 畠山 寛・30 石井 浩子・31 植田 恵理子・1 伊藤 一美・9 薦田 未央・④ 江川 正一・32 太田 容次・14 岩崎 れい／2回) (共同) 初回にオリエンテーションを行い、15回目に振り返り、グループワークと発表を行う。 (① 河瀬 雅紀／3回) 病児の精神的な発達と、心の葛藤や周囲の人たちとの関わりを解説する。 (26 萩原 暢子／3回) 子どもの疾患について、基本的な知識を画像を多く用いて解説する。 (39 畠山 寛・30 石井 浩子・31 植田 恵理子・1 伊藤 一美・9 薦田 未央／3回) (共同) 子どもの発達的特徴や、心の安定に関わる遊びの役割を学び、年齢にあった遊びの手技、小集団で行う遊びなどを体験する。病児の遊びサポートの実践、グループでの遊びの工夫について解説する。 (14 岩崎 れい・1回) 絵本の種類と読み聞かせの方法について解説する。 (④ 江川 正一・32 太田 容次／3回) (共同) 院内学級の現状と支援学校の取り組み、病児の学びのサポート、病棟での病児を想定した学びサポートについて解説する。</p>	集中・オムニバス方式・共同(一部)
	情報科学	<p>情報とコンピュータ及び情報通信に関する基本的な項目を広く学習し、さらに進んだ知識を習得するために必要な基礎力を身につけ、コンピュータの基礎—ハードウェア、ソフトウェアのあらし (OS の概要を含む)、情報通信ネットワークとインターネットの仕組みと活用のあらし、データ構造、アルゴリズムと情報システム開発、知的財産権、個人情報保護、情報倫理、セキュリティ、ビジネスと情報技術などについて学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基礎科目	心理学概論	心理学の対象は、我々が日常生活で経験している行動である。本科目では、人間のさまざまな行動をよりよく理解し、その精神活動の内面をうかがい知るために、人間の心理や行動の基礎にある原理について概説する。特に、知覚、学習、記憶、発達、パーソナリティ、社会的行動について、そのしくみを概観し、心理学の基本的な考え方を学ぶ。これらの講義を通して、人間の日常的な行動が示す心理現象を理解すること、および心理学の基礎用語や知識を習得することを目指す。	
	心理統計法Ⅰ	多くの心理学の実証的研究では、量的なデータを扱うため、心理統計の基礎知識を身につけることが、研究を行う基本となるだけでなく、今までに得られた研究成果を正しく理解する上でも不可欠となる。本授業では、心理統計法の基本的な考え方を理解し、記述統計の基礎知識を身につけることを目標とする。そのために、まずは統計的考え方を日常生活での具体例から理解し、尺度水準、データの代表値、図表化、散布度などに関しては、練習問題を解くことを繰り返すことによって理解を促す。	
	心理統計法Ⅱ	記述統計と推測統計の違いについて理解し、母集団からサンプルを抽出する具体的な方法について学ぶ。統計的仮説検定の基礎的な用語や考え方については、適宜、具体例を示し、理解を促す。データの標準化および正規分布を利用した基礎統計、相関および連関に関する分析についても練習問題を通して、実践的な力を身につけていく。最後に心理統計法全体のまとめを行い、2年次以上で履修する、より高度な統計的知識や方法の学びの基盤を確かなものとする。	
	心理学基礎演習Ⅰ	学生は小グループに分かれ、複数の心理学科教員から、大学での学びに必要な基本的スキル（読むこと、計算すること、ディスカッションすること、発表すること）について、演習形式で教育的指導を受ける。共に学ぶ友人や心理学部教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。特に、大学教育に必要な基礎的な日本語能力やデータ活用の基礎を学びながら、同時に心理学的な問題意識を喚起し、心理学の専門的学習へ導入することを目的とする。	共同
	心理学基礎演習Ⅱ	心理学基礎演習Ⅰに引き続き、心理学の専門教育入門のための演習を行う。心理学の基礎的な文献やデータを教材にして、「読むこと」「理解すること」「（文章や図表に）まとめること」「発表すること」等の基礎的なアカデミックリテラシーの構築を図る。学生は小グループに分かれて、4種類の心理学のテーマに関して、アカデミックリテラシーについての指導を受ける。演習形式により、学生間の学問的交流を促しながら、心理学の専門領域に導入することを目的とする。具体的には、新聞記事を読む、心理学の文献を読む、グラフの作成、データ集計の4課題から構成される。	共同
	初級実験演習Ⅰ	心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を学習するための演習を行う。自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習し、レポートの作成を行うことで、適切な方法・内容で報告するための基礎を身につけることを目指す。初回の授業は合同で行うが、2回目以降は3つのグループに分かれ、3課題の演習を行う。 (2 上田 恵津子) 社会的認知 (8 尾崎 仁美) 語の記銘 (88 中村 千珠) 鏡映描写	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基礎科目	初級実験演習Ⅱ	<p>初級実験演習Ⅰで学んだ心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等をベースとして、さらに実証科学的方法の基盤となる実験・演習を行う。自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習、レポートの作成を行い、初級実験演習Ⅰで身につけた、適切な様式で報告するための力を定着させることを目指す。初回の授業は合同で行うが、2回目以降は3つのグループに分かれ、3課題の演習を行う。</p> <p>(4 高井 直美) 信号検出 (6 松島 るみ) 重さの弁別閾 (88 中村 千珠) 大きさの恒常性</p>	共同
	現代社会調査入門	<p>社会調査は、学術的な関心によって行われるだけでなく、官公庁やマスメディア、一般企業におけるマーケティング（市場調査）、実態調査など幅広い領域で利用される方法である。本科目では、社会調査の目的、意義、倫理、量的調査や質的調査の方法を中心に説明を進める。さらに、新聞やテレビ等のマスメディアで取り上げられる様々な調査について、実例を挙げ、適切な社会調査の実施や結果の見方を学ぶことを目的とする。そして、調査データを正しく読み取る力、リサーチ・リテラシーを身につけることを目指したい。</p>	
	行動科学概論	<p>行動科学とは、人間や動物の行動を科学的に分析し、行動の諸現象を理解し、行動の諸問題を解決することを目指した科学である。本科目は、人間および動物の行動についての（心理学を含む）様々な分野の研究を紹介し、行動の基礎にある原理の科学的な理解を深めることを目的とする。本科目で扱うトピックは、「知覚と認知」、「記憶と学習」、「行動の神経基盤」、「運動制御」、「遺伝と行動」などである。授業の前半時間は主に講義形式によりそれぞれのトピックの解説を行い、後半は主にグループでの演習などを行う。</p>	
	心理学研究法	<p>心理学は新しい科学であり、研究の基盤となる隣接科学として、物理学、生物学、生理学の他、哲学、社会学、経済学などの人文科学とも深い関係を持っている。講義では隣接諸科学の研究法も参考にしながら、心理学の基本的な研究方法について学ぶ。そして、①サイエンスとしての基本的な研究方法として、実験、観察、調査についての基礎理解、②質的量的研究手法の違い、③心理学の黎明期の研究法、戦前と戦後の心理学、そして現在の心理学が用いる研究法の違いとその変遷、④最近のサイエンスが用いる研究手法などについて、それぞれ学習する。</p>	
	推測統計学Ⅰ	<p>心理学を学ぶ上で、科学的な方法論を修得することは必須であり、様々な諸問題に対し、数量的なデータを得、統計解析を行い、意味のある情報を得ることが求められる。推測統計学Ⅰでは、「心理統計法」で修得した記述統計を復習しながら、推測統計における統計的仮説検定の考え方および具体的な手順について概説する。後半には、代表値や散布度の算出および図表の作成方法を学び、さらに二つの変数の関係（相関係数、χ^2乗検定）について統計的仮説検定を実際に進め、各手法の意味や使い方について理解することを目指す。</p>	
	推測統計学Ⅱ	<p>心理学を学ぶ上で、科学的な方法論を修得することは必須であり、様々な諸問題に対し、数量的なデータを得、統計解析を行い、意味のある情報を得ることが求められる。推測統計学Ⅱでは、統計的仮説検定の復習を行いつつ、心理統計の中でも基本的な分析となる、2平均値の差の検定（独立した2群のt検定・対応のあるt検定）、分散分析（一要因分散分析・二要因分散分析）を概説し、各手法の意味や使い方について理解することを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基礎科目	心理テスト演習	<p>代表的な心理検査について、実習を通じて体験的に学ぶことを目的とする。受講生は小グループに分かれて被検者あるいは検査者となって実習し、被検者の体験、検査者の姿勢や役割、検査の倫理等について学ぶ。また、実習体験をレポートにまとめ、心理検査への理解を深める。全15回のうち、第1回と第2回はオリエンテーションと心理検査の基礎的事項の解説、第3回から第14回は4種類の心理検査を3回ずつ実習、第15回は実習のまとめと振り返りを行う。</p> <p>(7 向山 泰代) 質問紙調査法 (11 田中 蒼樹) 作業検査法 (83 鶴田 薫) 投影法 (96 福山 幸子) 描画法</p>	共同
	質問紙調査法	<p>質問紙調査法は、人間の内面についての情報を幅広く収集できることから、様々な場面で使用され、心理学でも主要な研究方法となっている。授業では、利点や限界を含めた質問紙調査法の特徴や、調査計画から質問紙の作成、データ収集、結果の処理や表現法といった調査の過程、さらに倫理などの調査における留意点について講述する。また、講義に加え、データ処理や図表の作成などの課題を通して、卒業論文等に活用できる実践的な知識と技術の習得を目指す。</p>	
	心理学英文講読（基礎）	<p>最新の心理学の知見に触れるためには、英語の文献を読み解く力が必要とされる。そして、英語の文献を読むようになるためには、心理英語の基礎知識および読解力を養うことが求められる。そのために、この授業では、心理学の入門書を用いて、発達心理、学習心理、認知心理、人格心理、社会心理、臨床心理など主要分野から、いくつかのトピックスを選び、そこでの専門用語、基本的概念を英語により確認し、修得することを目的とする。そして、その後の心理学英文講読（応用）や心理学演習における英文読解の基盤を形成する。</p>	
	心理学英文講読（応用）	<p>学生が、心理学演習、卒業研究、卒業論文において、自らの研究テーマを追求していく際には、特定の研究テーマについて、内外の文献を幅広く読解することが大変重要となる。本授業では、英語で書かれた文献を正確に深く理解し、自身の研究構築の基盤を形成する応用力を身につけることを目的とする。そのために、英語で書かれた概論書や雑誌論文を各自の興味・関心をもとに読んでいき、発表、ディスカッションを通して、応用力のある英語読解能力を身につけていく。</p>	
	上級実験演習	<p>初級実験演習で学んだ基礎知識に基づき、より発展的な実証科学的研究法について演習を行う。初回の授業は合同で行うが、2回目以降は2つのグループに分かれ、2種類の研究方法を用いて、自ら研究計画の立案し、データの採取、処理、解析を行い、レポートの作成をするまでの実証的研究プロセスを身につけることを目指す。</p> <p>(5 廣瀬 直哉) パソコンを用いて、視覚刺激を提示し、反応時間を測定する知覚・認知の実験を自ら作成・実施し、得られたデータを統計分析してレポートにまとめる一連の過程について演習を行う。</p> <p>(9 薦田 未央) 観察法により、人間の行動について理解する方法を学習する。観察対象や観察状況を検討し、観察を行う。また、観察データの（質的・量的）分析結果に基づき、レポートを作成する。</p>	共同
心理学情報処理	<p>情報処理とは入力されたデータに何らかの加工を施して情報をあらわにすることである。したがって、本科目では、心理学の実験・調査において得られた数量的なデータを、コンピュータを利用して解析することによって、心理学的事実を見つけ出す技法に習熟することを目的とする。統計学の基礎的な知識の上に、統計解析に関わる知識の獲得と統計解析ソフトの活用技法について修得する。授業では、データの入力方法から、実際の論文作成に必要な、応用的な統計手法まで幅広く学ぶことを目的とする。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基礎心理領域 展開科目	基礎科目	心理臨床の代表的な面接技法を小グループで体験的に学ぶ。演習形式。合同での演習前指導の後、受講者を4グループに分け、臨床心理面接の技法A（基本的な聴き方）・B（認知療法に基づく面接技法）、臨床心理査定技法、集団療法の4実習を順に行う。終了後は、合同で演習後指導を行う。 (12 三好 智子) 演習前後の指導・臨床心理査定技法 (13 空間 美智子) 演習前後の指導・臨床心理面接の技法B（認知療法に基づく面接技法） (83 鶴田 薫) 演習前後の指導・臨床心理面接の技法A（基本的な聴き方） (96 福山 幸子) 演習前後の指導・集団療法	共同
	知覚心理学	知覚を通して、私たちは周りの環境について知ることができる。本科目では、人間の知識獲得にとって欠くことのできない知覚過程の役割を理解することを目指す。また、知覚と運動・行為と関連についても生態心理学の観点から取り上げる。本科目で扱うトピックは、「感覚・知覚の基礎過程」、「視覚」、「聴覚」、「体性感覚」、「知覚と行為のカップリング」などである。授業の前半時間は主に講義形式によりそれぞれのトピックの解説を行い、後半は演習などを取り入れる。	
	学習の心理学	人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習心理学である。まず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、洞察説、社会的学習理論などの学習理論について説明し、学習成立の基礎過程を理解させる。次に、記憶や思考などの人間の認知過程について述べる。さらに、何をいかに教えるかという教授・学習の問題や、どのようにすれば主体的に学習に取り組ませることができるかという学習意欲の問題に関する教授・学習過程について講述する。これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、教育と学習との関わりについて考察することを目指す。	
	認知心理学	「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味する。人が日常でおこなう様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれる。具体的には、顔や表情を認識すること、心の中に物体のイメージやある空間の地図を思い浮かべること、何かに注意を向けたり記憶したりすること、言葉を理解し、推理をしたり判断をしたりすることなどである。講義では、このような人の認知に関する基礎的な理論を身につけ、自分の日常生活の中の様々な行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようになるように方向づける。	
	神経心理学	話す、理解する、想像する、道具を使うなど日常生活のさまざまな行為を可能にしているメカニズムを脳の働きから理解する。すなわち、「脳の主な構造と機能を神経心理学の専門用語を用いて説明することができる」「人間の心理・行動を脳のメカニズムから説明することができる」「発達障害に関連する症状を脳のメカニズムから説明することができる」ことを目標とする。そのため、各種失語症、概念運動失行などの失行、視覚失認などの失認の理解から始め、ブレインイメージングを用いた人間の行動に関する最新の研究を紹介する。授業は視聴覚教材を多く用いた講義形式で実施する。	
生涯発達心理領域	教育心理学概論	教育過程における人間の心の働きや、学校教育現場における課題について、心理学的な知識、方法、視点から理解することを目指す。具体的な課題として、効果的な学習を援助する教授法や認知の働きを学ぶこと、子どもの身体的、心理的諸側面の発達とその特徴を理解し、年齢・発達に応じた教育について考察すること、知能や学力、性格における個人差の測定・評価方法を学ぶこと、学級集団における児童・生徒について学ぶこと、が挙げられる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 生涯発達心理領域 社会・産業心理学領域	発達心理学概論	子どもの発達のメカニズムについて理解すること、乳児期、幼児期、児童期の発達の特徴をとらえるようになること、子どもとのより良い関わり方の基本を身につけることを目標とする。そのために発達の要因となる遺伝と環境の問題を取り上げ、次にピアジェやヴィゴツキーの理論を中心とした基本的な発達心理学の理論や基礎的な研究を紹介する。また、認知発達、社会性の発達、言語発達、自我形成など、幅広く発達の基礎を捉え、それぞれのテーマで重要な内容を解説する。さらに認知と社会性の発達がどのように関係するかについても考察する。	
	現代青年の心理学	青年期とは、人生の発達段階の1ステージである。この時期は子どもから大人への移行期であるが、第二の誕生と言われるように、心身ともに重要な変容の段階でもある。青年にまつわる問題は古くから存在するが、同時に青年の行動や思考とは時代を如実に反映するものであり、常に新しい問題を含んでいる。本科目では、青年期がどのように捉えられてきたかに始まり、青年期に特有な身体と心の問題、自己意識、対人関係（友人関係、親子関係、異性との関係）、進路選択等の観点から、現代青年の心理について理解を深めることを目標とする。	
	高齢者の心理学	成人期から高齢期の心理・社会的変化と特徴を学ぶ講義形式の科目である。生涯発達心理学の理論を踏まえ、成人期・中年期・高齢期への段階ごとの変化、高齢者の生理・認知・パーソナリティ・対人関係と適応の特徴や個人差についての知見を、ワークシートで受講者の体験や社会現象を結びつけながら学ぶ。後半では、高齢者を対象とした心理テスト・援助などの方法論、認知症など精神疾患、死の問題も取り上げる。受講者にとって、エイジング・エデュケーションの機会として自身のライフコースや他者との関わり方の理解にもつなげていく。	
	現代社会の心理学	人間は社会の一員として生活している。いいかえれば、他者との関わりの中で、互いに影響を与え合いながら日常生活を送っている。そのような人と人との関わりや相互作用のあり方を研究するのが、社会心理学である。本科目では、社会的相互作用における様々な心理過程のメカニズムを論じる。特に、他者との関わりの中で生じる認知や行動のしくみ、個人と集団との関わり、集団の中で人間行動、集団間関係などについて詳述する。主要なトピックスに関する具体的な研究例とそこから見出された知見を解説しながら、社会心理学の代表的な理論や概念を理解することを目指す。	
	対人関係論	本科目では、対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸事象を、社会心理学の立場から論じる。友人関係や恋愛関係をはじめとする対人関係の形成、維持・進展、崩壊の過程、他者との関係を築く上で基礎となる自己認知のしくみ、対人関係と対人行動、日本人の対人関係などについて詳述する。具体的な研究例とそこから見出された知見を解説することを通して、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。	
	生活環境の心理学	本科目では、私たちが生活している環境が私たちの行動にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目指す。環境心理学・生態心理学の観点から研究を紹介し、人間と環境の関わりについて考察する。本科目で扱うトピックは、「環境の知覚・認知」、「自然・都市環境の心理的影響」、「ギブソンの生態学的視覚論」、「環境のアフォーダンス」などである。授業の前半時間は主に講義形式によりそれぞれのトピックの解説を行い、後半は主にグループでの演習などを行う。	
	消費者行動の心理学	消費者行動とは、消費行動、購買行動、買い物行動を総称する概念であり、私たちの日常生活にとって大変身近なものである。本授業では、消費者側の購買行動が促進される要因を消費者の心理や特性という観点から明らかにするとともに、集団や社会の観点からも考察し、私たちの消費者行動について心理学的に解明する。また、消費者行動を理解するにあたり、消費者自身の行動を理解するだけでなく、売り手側の理解、例えば、マーケティング戦略に対する理解も必須である。本授業では消費者行動に関する理論や概念の理解を第一の目的とし、さらに現代社会で起こっている消費者行動や心理について具体的に説明できるようになることを第二の目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目	社会・産業心理学領域	家族心理学 本科目では、家族とは何かを心理学の立場から考え、夫婦・親子・きょうだい・祖父母といった家族間の関係がどのように働いているのか、家族成員の発達やライフステージに応じて家族はどのように変化してゆくのか等、家族の心理学的意味や家族関係の成り立ち、変化について学ぶ。また、家族が抱えるさまざまな今日的課題についても取り上げ、それら課題について社会的背景を踏まえて理解できるようになることを目指す。そして、家族の問題の発生について理解を深めるとともに、どのように解決すべきかについて、心理学援助の実際を学んでいく。	
		社会・ビジネス心理フィールド研修 社会調査に関する知識を背景に、企業や店舗が行うマーケティング・リサーチや商品企画開発に関する一連の調査過程について体験することを目標とする。企業や店舗の現状を把握した上で、課題設定・調査・分析を行い、最終的には協力企業や店舗に対して、分析結果を踏まえた具体的な提案を行うという一連の過程を学ぶ。主な教育課題は以下の通りである。①社会調査の一連の過程を学ぶ、②マーケティング・リサーチの基礎を学ぶ、③分析結果について発信する力、課題を設定したり、問題解決する能力を養う。	集中・共同
		服飾心理学 人間が被服や装飾品を用いるには、「身体・生理的目的」と「社会・心理的目的」の2つがある。その中でも、社会・心理的目的に焦点をあて、その目的を実現するためのさまざまな被服や化粧など装いに関する行動を究明する。特に装いの社会・心理的機能については、「自己の確認・強化・変容」「情報伝達」「社会的相互作用の促進・抑制」の3つの機能があることが明らかにされているが、その機能について、現代のさまざまな現象を取り上げ解説する。	
		産業心理学 産業心理学は、組織の経営や生産性の維持・向上を効率よく行うこと、また働く者の精神的健康を増進することを目的に、心理学の知見を応用する分野といえる。本科目では、特に職場集団の特徴や生産性を高める条件、働く者の心と行動特性、動機づけ、リーダーシップ等の観点を中心に講義を行う。本科目は、産業分野で応用されている心理学の知見を修得し、産業心理学の専門用語および方法について理解し、さらに現代の産業が抱える課題を理解した上で、心理学がその課題に対してどのように貢献できるかを考えることを目標とする。	
	臨床心理・精神医学領域	心理カウンセリング概論 カウンセリング・心理療法には、様々な理論や技法があり、そのもととなる考え方や背景にある人間観もまた様々である。他方、どんな理論や技法にも共通する、基本的な考え方や姿勢、話を聴くスキルなども存在する。本科目では専門的学習への基礎作りとして、カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴くスキルについて学ぶとともに、代表的な理論や技法について理解することを目標とする。授業は、レジュメに基づき進める。随時、確認のための小テストを行うとともに、体験的内容の際には、小レポートの提出を求める。	
		心理テスト論 心理テストの成り立ちと有効に活用するための基礎知識を得ることを目的とする、一連の心理アセスメント関連授業の入門編である。講義形式で行う。心の「個人差」を捉えようとしてきた心理学の歴史をたどり、知能・発達・パーソナリティなどを測る代表的心理テストの理論・特徴・実施方法について、ワークシートやビデオなどを活用しながら体験的・概観的に学ぶ。また、テストの信頼性と妥当性、心理テストを使用する際の倫理的配慮についても学び、人の心を対象として測定・把握することの限界と検査者としての心構えについても習得する。	
		臨床心理学概論 本科目は、臨床心理学を初めて学ぶ受講生を対象に、臨床心理学の基礎的な理論・研究法・臨床心理学史などについて学び、臨床心理学による支援の実際について、知識や関心を広げることを目指す。臨床心理学は心理学の一つの研究分野であると共に、ここに問題や悩みを抱えた人々を理解し、支援するという実践的な活動を行う際の基礎となる学問でもある。基礎的な心理学の知見をもとに臨床心理学がこれまでどのように発展し、現代の生活の中で活用されているかを、具体的かつ実践的に学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 臨床心理・精神医学領域	パーソナリティ心理学	<p>本科目では、パーソナリティ形成や変化における個体内要因と環境要因の影響、パーソナリティと対人行動等のトピックについて、具体的かつ日常的な例を通して学習する。また、パーソナリティに関する代表的アプローチである精神分析学、現象学、特性論、学習理論、認知理論等について講述し、各理論が基礎とする人間観について学ぶ。この他、パーソナリティの測定と査定についての基礎知識を習得するため、代表的な検査や測定法を紹介し、各方法の特徴について論じる。また測定や査定にあたっての心構えや倫理の問題にも言及する。</p>	
	障害児・者の心理学	<p>障害という言葉の持つ意味は多様であり、それを定義する概念も難しい。当然、障害を持つ子どもといってもその様相は多様である。それらの障害の内容と特徴を理解する。具体的には、障害の要因やその生理的、身体的問題について考え、行動特徴や精神機能、心理的特徴の理解を深めていく。更に、障害を持つ子どもの親の心理、社会的資源を含めた環境の問題、また、生涯発達過程における社会・心理的問題などにも触れる。特に、学校教育における特別支援や就労や地域生活の問題についても取り上げる。</p>	
	臨床心理アセスメント	<p>心理学や精神医学の理論を背景に、心理臨床の実践場面を想定し対象となる患者やクライアントについて、症状・問題行動を巡る個人的要因と環境要因とを、面接・観察・検査といった技法により情報収集し、多面的・統合的に見立て、援助方針を立てていくプロセスを段階的に学ぶ。講義ではグループワークなども適宜取り入れ体験的な学びを促進し、知識や技法の習熟に加えて、対人援助における心構えや配慮を学び、主観的バイアスの扱いなど受講者の自己理解も促す。</p>	
	無意識の心理学	<p>初期の深層心理諸学派による「無意識」の理論を概観し、その後の心理臨床の発展に大きな影響を与えたフロイトの精神分析学における「無意識」の概念の概要を理解することを目的とする。パワーポイントやDVDなどの教材も用いて、その成り立ち、構造、働き、そして心理臨床場面における分析・解釈などについて、フロイトの事例もまじえながら概説する。また、フロイト以後の精神分析の発展と「無意識」概念の変遷と多様性についても言及し、いじめや引きこもり、うつ、自殺など、現代人の無意識の葛藤も取りあげ、それを分析する視点を養う。講義形式で行う。</p>	
	スクールカウンセリング論	<p>スクールカウンセリングにおける実践経験を通じて、事例を提示する。ただし、倫理上相談内容そのものを提示しておらず、適宜事例を組み合わせた仮想事例を作成している。この事例を通じて、受講する学生がその対応と理解に関して少人数での相互討論を行い、発表し結果を共有する。その後、事例についての臨床心理学的な講義を行い、質疑応答する。少人数での相互討論と講義・質疑応答によって得られた事例に対する自己理解をレポートとして残していく方法により、より実践的に相談者を理解することを目指している。</p>	
	心理療法論	<p>心理療法には様々な技法があり、理論、アプローチの仕方、何を重要と考えるかなどの点で異なっている。その一方で共通点も多く、異なる技法を組み合わせる折衷派・統合派のセラピストも多い。本科目では、1・2年次の基礎的学習を踏まえて、様々な心理療法の技法を、より専門的観点から学び、その特徴を理解するとともに、心理療法全般に共通する点、普遍的に重要である点についても理解することを目指す。またそうした学びから、なぜ人の心は変わるのかについて考えていく。</p>	
	精神保健学 I	<p>精神保健福祉士として、「こころの健康」を広く個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学ぶ。そのために、「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 臨床心理・精神医学領域	心理関係法規論	教育、医療、福祉、司法、産業などの領域で心理学的立場から専門家として援助を行うためには、社会のなかで実務を行なうための規範（ルール）を習得し、遵守することが重要である。対人援助の専門家としての心理臨床家は、心理アセスメントや心理療法を実施する際に倫理を遵守することに加えて、それぞれの領域や職場、職種の立脚基盤となる法律や関連のある各種の法律を理解することが必要となる。本科目では、心理臨床家が社会で実務を行なう際に必要となる法律等の知識について学ぶ。特に、児童福祉領域での心理臨床と法律の関係について具体的な事例もまじえながら紹介し、児童福祉領域の心理臨床実務について理解を深める。	
	精神医学Ⅰ	精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学Ⅰでは、統合失調症、躁うつ病、神経症性障害（パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害）、摂食障害など代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解していく。授業は、視聴覚教材を使用した講義形式で実施する。	
	精神医学Ⅱ	精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学Ⅱでは、PTSD、適応障害、人格障害、発達障害、アルコール・薬物依存、心身症、睡眠障害、認知症、てんかんなど各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解し、また地域精神保健の展開についても理解を深めていく。ていく。授業は、視聴覚教材を使用した講義形式で実施する。	
	精神保健学Ⅱ	精神保健学Ⅰの基本的知識をふまえて、「こころの健康」の個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している精神保健の課題に対する具体的な解決方法について、精神保健福祉士の視点や姿勢、そして求められる技術について学ぶ。さらに、現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることととも、必要な支援の視点や技術が説明できることを目的とする。	
	犯罪心理学	裁判員制度により司法は身近なものとなったが、法の仕組みを知るだけでなく、加害者の心理さらに被害者の心理を学ぶ必要性は高い。また、犯罪・非行は心理的要因のみでなく、環境的・状況的・社会的な要因や生物学的要因などが複雑に絡み合って生じる。そこで、なぜ加害者となったのか、あるいはなぜ被害者となったのか、を多くの事例を参照しながら、生物-心理-社会的な視点から解明する手法を知る。一方で、冤罪防止のために司法面接（事実を明らかにするための面接）の需要が子ども、青少年、障害者を扱う領域で高まっており、誘導のない面接の基本的スキルを学ぶ。	
	認知行動療法概論	認知行動療法は、精神医療や教育などの様々な領域でその有効性が実証され、近年、心理療法における中心的な役割を担いつつある。本講では、まず、認知行動療法の基盤となる理論と基本的技法について概観する。その上で、認知行動療法が適用された事例を取り上げ、認知行動療法が臨床の各領域でどのように活かされているのかを明らかにする。認知行動療法の理論と基本的技法を習得し、実践的活用とのつながりを理解することを目標とする。	
	心理カウンセリング実践（アートセラピー）	心理カウンセリング実践（面接技法）を踏まえ、より専門教育科目性の高い技法を体験的に学ぶ実践科目である。演習形式。演習内容に関するアートセラピー理論に関する合同講義の後、受講者を3グループに分け、それぞれのグループ、アートセラピーA（箱庭療法他）、アートセラピーB（コラージュ療法他）アートセラピーC（描画療法他）、の3演習を順に行う。3演習終了後は、演習を振り返っての合同講義を行う。 (12 三好 智子) アートセラピーA (10 佐藤 睦子) アートセラピーB (96 福山 幸子) アートセラピーC	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 臨床心理・精神医学領域 社会・ビジネス領域 関連科目	心理カウンセリング フィールド研修	臨床心理学が必要とされる実践現場は、医療・教育・産業・保健福祉・司法領域などの様々な分野に広がっている。そこで、本研修では、それぞれの教員が経験を重ねてきたフィールドの現場に赴き、臨床心理学が実際にどのように役に立っているのかを学ぶことを目標とする。授業では医療・教育・保健福祉の各領域における施設で、臨床心理学が現場でどのように役立っているのかについて学ぶ。受講者を4グループに分け、合同でのオリエンテーション、そしてディスカッションを中心とした各分野での事前事後指導を行う。	集中・共同
	現代ジャーナリズム論	時事問題を学び、報道のあり方について考える授業。ニュースに対する読解力とさまざまな事象を総合的にみる感覚を養うことを目的とする。さまざまなテーマを取り上げ、新聞や雑誌など関連する活字メディア、テレビニュースをはじめ電波・映像メディアなどを読んだり見たりすることを習慣づけ、また自らテーマを選び資料を収集、基本文献の探索の方法も身につける。普段からニュースへのリテラシーや話すことを意識し、有権者として社会人として必要な時事感覚を身につけることは、将来の仕事にも生かすことができるだろう。	
	福祉住環境デザイン	科学技術の進歩は住宅においても目覚ましいものがあり、技術を導入するべく住まいの造りは変わり、新しい設備器具が次々と開発されている。一方、人間の営みは長い年月の間に営々と築きあげられてきたものである。そのため、人がモノと均衡がとれない事態も生じ、この場合多くは人側に障害が表れ安全性が脅かされる。講義では人間工学の視点から身体的、動作的、心理的、生理的特性に沿った建築環境及び住環境と設備のあり方について理解する。	
	食品流通論	食品が消費者に届くまでに迎える実態が見えにくい複雑な仕組みと、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動（マーケティング活動など）について理解する。また食生活の変容とその背景、さらにその変化がフードシステムに与える影響について学び、フードビジネス（小売業、卸売業、外食産業、中食産業）の対応や業界全体が抱える構造的な問題、環境問題、食品の安全性の問題など、現在の食品消費の課題について考える。	
	消費者教育	消費者を取り巻く環境は年々変化し、消費者被害が増加の一途をたどっている。同時に消費者被害の対象は広範囲に及び、問題が複雑化・多様化し、その結果、国民生活に不安をもたらしている。本講義では、消費者問題の歴史、消費者被害の実際、消費者行政・制度等について講義やDVDの視聴を通して理解する。また、消費者としての意思決定プロセスにおけるバイアスや情報の影響に気づくとともに、一人一人が適切な「選ぶ目、決める力」を身につけるための方策を考え、消費者としての態度を身につけることを目的とする。	
	衣生活情報論	現代社会において、ファッションは人々にさまざまな情報を送り、人々は受けとった情報を利用し、さらに自らが情報の送り手となる。本授業では、ファッションビジネスの仕組みやファッション業界の仕事についての知識を得るとともに、ファッションマーケティングやファッションマーチャライジングの実践的な内容について学ぶ。さらに、ファッションコーディネイトの基礎知識や日常生活において実践する能力を養う。	
	ビジネスの基礎	少子化高齢化、育児・教育問題、引きこもり・ニート支援、障がい者支援、環境保護、貧困問題、まちづくりなど、解決されなければならない社会的課題をビジネスの手法で解決していくソーシャルビジネスの考え方や手法を理解したうえで、実際にビジネスに従事するために必要とする「書く」「考える」「伝える」「話し合う」といった能力の養成、ビジネス場面で必要な一般教養やコミュニケーション力を高めるための意識啓発などを行う。最終的には具体的な課題を与え解決のための「企画」「発表」を「協働」することを体験する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会・ビジネス領域	マーケティング論	感覚的なことを上手に数値化することが現在のマーケティングに求められる。本授業ではまず、データの見方、集め方など数値を読みとる基礎能力を身に付ける訓練をする。つづいて企業の商品開発の進め方や商品イメージの数値化、ビジネスチャンスの発見の仕方などを概説したのち、需要調査の調査票作成やビジネス資金の運用などの演習を通じ、マーケティング能力を養う。そのうえで、現代において注目される企業の社会的責任（CSR）に言及し、自社の利益中心ではなく、社会全体との関わりを考えながらマーケティングを行うソーシャルマーケティングの考え方についても解説する。	
	女性起業論	女性が会社や組織を設立する動きが活発化している。こうした女性による企業の動機や背景、経営手法などをみると、男性とは異なる特徴が多くみられる。この科目では、生活・福祉の分野を中心に女性起業家の実像に迫っていく。主な内容は、女性のライフスタイルと雇用環境の変化、女性起業家の事業の特徴や企業の多様な形態や企業支援策を把握し、新たなニーズに対応した商品・サービスに注目し、事業計画、経営計画をたて、効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	
専門教育科目 関連科目 精神保健福祉領域	現代社会と福祉Ⅰ	「現代社会と福祉」の主たる目的は、社会福祉の政策及び原理と哲学を学ぶことにあるが、本講義はこれらと併せて社会福祉の入門的性格をもっていることから、社会福祉の全体像を理解することに重きを置いている。具体的には政策を中心にしながら、①諸外国も含む社会福祉の歴史について学び、②現代社会における社会福祉の意義を考え、最後に社会福祉の今日的課題について、様々な社会問題との関わりで理解する。	
	現代社会と福祉Ⅱ	本講義では「現代社会と福祉Ⅰ」で得た社会福祉の基礎的理解に立ち、政策と原理・哲学を中心に学ぶ。まずは、福祉政策のニーズと資源、構成要素（福祉政策における政府、市場、家族の役割等）を学び、加えて福祉政策に関わる諸政策（教育政策、住宅政策など）を概観する。これら政策への理解を深めた上で、それらと相談援助活動との関係を理解する。最後に、福祉原理と哲学について欧米における理論動向も踏まえながら理解を深める。	
	地域福祉論Ⅰ	子どもから高齢者、障がい者、生活困窮者など様々な人の生活基盤である地域で起きている現代社会の多様な生活問題、福祉問題について理解したうえで、それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安心・安全に暮らしていける地域社会を構築していくために、どのような支援や活動が必要なのかを学ぶ。そのために地域福祉の概念や理論の歴史的展開・社会的背景、地域福祉の推進機関、活動の現状や課題を学び、地域に根差した福祉について理解する。	
	地域福祉論Ⅱ	地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。しかし、現代社会では地域住民同士の連帯意識の低下やつながりの希薄化などが原因となり、地域のニーズは多様化、複雑化、高度化し多くの問題が浮上している。そこで、地域住民の主体的な取り組みを推進していくためには、住民の主体形成、地域の組織化、地域への働きかけを進めていく必要がある。住民主体が原則である地域福祉の推進のために、どのような支援が必要なのか、小地域の取り組みをどのように進めていく必要があるのか、地域で暮らす一人ひとりの住民が安心安全に暮らしていくために必要な支援が何かについて理解することを目的とする。	
	医学一般	近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目を見張るものがある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 精神保健福祉領域	社会保障論Ⅰ	20世紀以降、社会保障は人々の生活に欠かせないものとなった。本講義では現代社会における社会保障の存在意義、理念、歴史など社会保障の基礎を学ぶ。具体的には少子高齢化が急速に進むが国における社会保障制度の概要と課題を確認した上で、社会保障の理念、対象、そしてイギリス、アメリカも含む社会保障の展開過程を学ぶ。かかる基礎知識を身につけた上で、社会保障の財源及び社会保障を構成する制度群を社会保険と社会扶助の二つに分け、それぞれについて理解を深める。	
	社会保障論Ⅱ	本講義では社会保障Ⅰで学んだ社会保障の基礎的理解に立って、社会保障を構成する各制度を具体的に学ぶことを主たる目的とする。まずは複雑に分立したわが国の社会保障制度を鳥瞰しながらその全体像を把握する。そして社会保障の支柱である社会保険の原理を理解した上で、年金保険と医療保険等の各社会保険の詳細を学ぶ。さらに公的扶助、福祉サービスを概観し、最後に欧米の社会保障と比較しながら、わが国の社会保障の特質について理解する。	
	障害者福祉論	授業の目標は、障害のある人の生活実態と福祉・介護ニーズ（障害のある人の地域移行や就労の実態を含む）について理解することである。そして、障害のある人を取り巻く社会情勢と障害者福祉法制度の発展過程について学び、理解を深める。具体的には、相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や他の法制度について学ぶ。また、障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際、専門職の役割と実際、他職種連携やネットワークングの実際についても理解する。	
	保健医療サービス	本講義では、保健医療サービス領域の施策や制度、近年の動向を理解し、患者・家族の相談に応じることができる知識を身につけ、患者・家族のQOLの向上に向けて保健医療サービスにおける専門職が果たすべき役割や実際について理解する。さらに、様々な事例等を用いて、保健・医療機関や地域における保健医療と福祉の連携・協働のあり方を学び、今後の包括的な地域ケアの推進に貢献できるソーシャルワーカーの基礎能力を修得することを目指す。	
	公的扶助論	公的扶助（生活保護）制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。まずは貧困・低所得層の生活実態と政策動向について学ぶ。その上でわが国及びイギリスにおける公的扶助制度の歴史を概観し、そして生活保護の原理及び原則について具体的事例を交えながら理解を深める。最後に昨今の政策課題ともいえる、自立支援プログラムの意義とその実際とホームレス支援の課題について学ぶ。	
	福祉行財政と福祉計画	福祉行財政の基礎的な知識をふまえた上で、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。具体的には、①福祉行政の実施体制について、国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係を学び、②国と地方双方の社会保障財政を把握する。その際、地方自治体の民生費については詳しく説明する。最後に①と②をふまえ、各種福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例検討を通して学ぶ。また実際に地域福祉計画を策定することを通して福祉計画に対する理解を深める。	
	権利擁護と成年後見制度	多重債務、消費者被害、虐待、生活保護など、高齢者・障がい者を取りまく諸問題と、ソーシャルワークに必要とされる基本的な法律知識を学ぶ。成年後見制度と地域福祉権利擁護事業はもとより、契約、親族、相続、消費者法（悪徳商法対策）などの一般的な法律知識も対象とする。ただし、法律については、日常生活で関わる可能性の高い初歩的なものにとどめる。 抽象的な法律学習ではなく、現実の社会でどのような問題が起きており、どのような支援が行われ、また必要とされているか、現場の具体例を多く示しながら、権利擁護支援の全体像を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 精神保健福祉領域	精神科リハビリテーション学Ⅰ	精神障害を疾患や生活、そして環境といった観点からとらえる力を身につけ、精神障害のある人の人生を支援していくリハビリテーション理念とその構成について理解する。さらに精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。これらを講義、視聴覚教材、グループワークなどを通して、生物・心理・社会のトータルな視点からその支援の必要性和方法について深く理解する。Ⅰでは、精神科リハビリテーションの歴史、リハビリテーションのプロセス、精神科医療におけるリハビリテーションを中心に学ぶ。	
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	精神障害を疾患や生活、そして環境といった観点からとらえる力を身につけ、精神障害のある人の人生を支援していくリハビリテーション理念とその構成について理解する。さらに精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。これらを講義、視聴覚教材、グループワークなどを通して、生物・心理・社会のトータルな視点からその支援の必要性和方法について深く理解する。Ⅱでは、相談援助からケアマネジメント、ネットワーキングを中心に学ぶ。	
	精神保健福祉論Ⅰ	精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステムづくりを可能とする知識と技術を習得し、より実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。特に、精神障害という言葉が指す事態を、総合的に理解するとともに、精神障害のある人が置かれている現状を学び、地域で生活を支える方向性と視点を培い、精神障害のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解する。	
	精神保健福祉論Ⅱ	精神障害のある人の置かれてきた歴史を踏まえた上で、精神保健福祉法やその施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、精神障害のある人の直面している課題を踏まえ、今後求められる精神保健福祉士の視点を学ぶ。特に精神保健福祉論Ⅰを踏まえ、精神保健福祉法の意義と内容を詳しく理解し、利用者の必要に応じて説明や活用が可能になるとともに、今後の精神保健福祉の課題について述べられるようになることを目的とする。	
	精神保健福祉論Ⅲ	精神保健福祉法等の法や施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援関連の法や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士のあり方について検討する。特に、精神保健福祉論Ⅰ、Ⅱを踏まえ、精神保健福祉の関連施策である社会保険（医療、年金、介護、雇用、労災）や生活保護、社会手当などの社会保障に関する制度（なかでも特に精神障害者が直面する課題等を重点的に）、医療観察法、社会調査について理解する。	
	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	さまざまな福祉課題に直面している人やその家族に対してソーシャルワーカーが行う相談援助の定義、理念、形成過程、体系、権利擁護、他の専門職種概念と範囲、多職種連携の基本を理解する。そのために生活支援のための基本的視点、必要とされる技術を学び理解を深めるとともに、ソーシャルワークの目的や価値について基本的理解を深め、その中でも特に精神保健福祉士がおこなうソーシャルワークの特徴や留意点について理解する。	
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）の内容を踏まえ、より専門的に精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士による相談援助の定義・理念、精神保健福祉士と他の専門職概念と範囲、精神保健福祉士と多職種連携などについて学習する。特に精神障害者の置かれている歴史的背景、偏見や差別、不足している生活支援と職員の理解等直面する様々な課題を踏まえながら、精神保健福祉士の行う相談援助の基盤となる理念・業務・役割などを習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 精神保健福祉領域	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としている。精神保健福祉士がまずは人として「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを考えていく。具体的には(1)精神障害者の長期入院患者等の地域移行支援について、(2)精神障害者と家族の理解と支援について、(3)精神障害者本人や家族に対する個別支援について等を具体的事例に基づきながら理解を深める。	
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としている。精神保健福祉士がまずは人として人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ことについて考えていく。具体的には、(1)精神障害者の地域生活支援について、(2)精神障害者ケアマネジメントについて、(3)障害者が地域で生活すること等について、「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」での学びをさらに展開させ、生活者支援の視点から具体的事例に基づき理解を深める。	
	精神保健福祉援助演習(基礎)	広く社会福祉全般における相談援助についての視点とその支援技術を養うために、ロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客体視する力、主観的に行動する力、福祉課題に直面する人の生活や人生を深く理解する力を養う。この後に学ぶことになる精神保健福祉援助実習に向けた基礎となる内容について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。	
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	精神障害のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を養うために、ロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客体視する力、主観的に行動する力、そして精神障害のある人の生活や人生を深く理解する力を養う。具体的には、精神保健福祉援助実習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。	
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	精神障害のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を養うために、ロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客体視する力、主体的に行動する力、そして精神障害のある人の生活や人生を深く理解し支援する力を養う。さらに精神保健福祉援助実習での経験を踏まえての振り返りや実習での学びを深め、自己覚知を深めるとともに、精神障害のある人の支援に必要な精神保健福祉士の視点と専門的な支援技術を習得する。	
	精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉現場における実習の意義を理解するとともに、実習を通して精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶことができるよう、精神障害のある人の現状やその生活実態と困難を理解し、精神保健福祉士として求められる資質、知識、技術等を総合的に発揮できるような能力を涵養する。そのために、精神保健福祉現場における実習に望むに当たり必要な資質、技能、倫理、自己に求める課題などを個別指導、ロールプレイや集団指導を通じて習得する。また、感染予防に関する指導を行う。	
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。具体的には、精神保健福祉現場における指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習において、指導教員・施設における実習指導者のスーパービジョンにもとづき、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶ。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目 精神保健福祉領域	精神保健福祉援助実習Ⅱ	精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての専門的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。具体的には、精神保健福祉援助実習指導Ⅰを踏まえ、精神保健福祉現場における指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習において、指導教員・施設における実習指導者のスーパービジョンにもとづき、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶ。	集中
	精神保健福祉援助実習Ⅲ	精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての専門的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。具体的には、精神保健福祉現場における指定された精神科医療機関での90時間(13日)以上の現場実習において、指導教員・施設における実習指導者のスーパービジョンにもとづき、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶ。	集中
	社会福祉特講Ⅱ	精神保健福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、精神保健福祉士として相談援助や生活支援、リハビリテーションや就労支援、そして家族支援やケアマネジメントなど、地域における精神障害のある人に対する適切な役割を果たせる力を身につけるために、4年間での学んだ事項を十分理解し、相談者に理解してもらえるように説明できることを目指す。そのために、精神保健福祉に関する歴史や現状の知識を背景に、支援に必要な専門的技術とともに制度や支援システム、そしてさまざまな支援サービスを体系的に整理して理解させる。	
卒業研究 専門演習	心理学演習	基礎科目や展開科目で得られた知識を踏まえ、心理学の専門分野をより深く学ぶために少人数のゼミ別に研究法を習得する。すなわち、基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、研究テーマの設定の仕方、研究論文の読み方・書き方、研究計画の立て方などを習得する。またそれらの学びの過程で、ゼミ別に共同研究を行うこともある。心理学演習の最後には4年次に行う研究テーマを定めることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門演習・卒業研究	卒業研究	<p>心理学演習で学習した内容を踏まえ、個人で、あるいはゼミ内で構成されるグループで、卒業研究に取り組む。心理学の研究テーマに関する関連文献を探索・精読し理解を深める、実験法・調査法・観察法の基礎事項を理解し、研究テーマを追求するのに適切な心理学研究方法を計画し実施し、収集したデータを分析する、研究結果を先行研究と比較し論理的に考察するなど、その分野の特徴を活かした教育指導を受け、卒業研究を完成させる。最後に、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。</p> <p>(1 伊藤 一美) 生涯発達の視点から臨床心理学関連のテーマを質問紙法・面接法等の研究法で探究する。</p> <p>(2 上田 恵津子) 自己に関わる諸事象と対人関係・対人行動について研究する。</p> <p>(① 河瀬 雅紀) うつ・不安障害・ひきこもりの理解と対処、喪失体験の克服と支援を対象とする。</p> <p>(4 高井 直美) 乳幼児期から青年期までの言語・認知発達および対人関係の発達を対象とする。</p> <p>(5 廣瀬 直哉) 生態心理学、環境心理学、認知心理学について研究する。</p> <p>(6 松島 るみ) 大学生を中心とした青年期の心理に関する調査研究を行う。</p> <p>(7 向山 泰代) 性格や対人認知に関連する事柄について学び、個性や個人差について研究する。</p> <p>(8 尾崎 仁美) 青年期の心理（友人関係、親子関係、恋愛、自己意識、進路選択等）について研究する。</p> <p>(9 薦田 未央) 子どもの認知・社会性の発達、障がいに関する発達の・教育的支援及び保護者の心理支援について研究する。</p> <p>(10 佐藤 睦子) 臨床心理学的アプローチを通じた研究を行う。</p> <p>(11 田中 誉樹) 実存的心理学、境界例などのパーソナリティ障害の理解と支援を対象とする。</p> <p>(12 三好 智子) 臨床心理面接の過程、思春期・青年期の心理、描画療法について研究する。</p> <p>(13 空間 美智子) 行動分析、認知行動療法、こどもの自己制御、心理教育について研究する。</p>	
	卒業論文	<p>心理学科における4年間の学習の集大成として、興味をもった心理学の専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。すなわち、①研究テーマの妥当性について説明できる、②倫理的問題への対処も含めて研究テーマにそって研究を適切に遂行できる、③研究結果を適切に考察することができる、④決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる、⑤図や表を適切に使用することができる、⑥卒業論文の内容について適切に議論ができることを目標とし、卒業論文を完成させる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代人間学部 こども教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人間と文化	日本文学	講義形式で行う授業である。日本文学の表現と文化背景に対する理解を深めることを目標とする。はじめに文学というジャンルの特徴について考察する。特に言語表現としての特徴を理解するために、絵画や音楽など、他ジャンルの表現と比較していく。続いて、国際的交流の中で形成されてきた日本文化の特徴をふまえながら、具体的な作品の分析をとおして、日本文学の特徴に対する理解を深める。これら2つの視点を前提としながら、日本文学に対する概説的な知識を身につけると共に、文学理念や文学表現理論のテキストと結びつけ、言語表現としての文学を意識的に読解できるような分析力を育てる。	
	外国文学	アラブ文学とはアラビア語で表現された文学をさす。その起源はイスラームが興る以前の西暦6世紀に遡る。それ以来、アラブ文学は現代に至るまで豊かで固有の文学伝統を築いてきた。本科目では代表的ジャンル（聖典、詩、物語など）の各作品（和訳）を注意深く読むことによって、その文学伝統を理解し、内容の考察及び解釈の仕方を学ぶ。具体的には、アラブ文学に大きな影響を与えてきたイスラームの聖典「コーラン」、もっとも長い歴史をもつアラブ古典詩、そして今や世界文学となった「アラビアンナイト」を扱う。	
	日本近現代史	幕末の開国につき、第二大戦終了後、時の重光外務大臣が無条件降伏は初めてではなく、幕末の開国はとりもなおさず無条件降伏であった、と語ったという。開国から急速にヨーロッパ化を断行し、法制を整え、条約改正を成功させ、富国強兵・殖産興業のスローガンの下、近代国家として出発した。その後大正デモクラシーを経て一五年戦争に突入し、第二大戦を迎えた。戦後は、講和条約の下で、非軍事化、政治・経済体制の民主化をはかり、平和憲法を制定し、軽武装・貿易立国の道を進み、経済大国となった。この間、猛烈なアメリカ化が進み、その後、国際化の大波、さらにグローバル化が来た。	
	日本の宗教	日本の基層文化にある易と陰陽五行の概念をキーワードにとして、日本の宗教である陰陽道と神道論を考える。中国で生まれた陰陽五行説は、儒学のみならず、道教、仏教、天文学、暦学、医学、薬学、民間信仰にも浸透し、朝鮮半島や日本にも伝わった。講義では、易と陰陽五行説の基本概念を明らかにしたうえで、日本の陰陽道、神道論説、とくに仏教に反論した反本地垂迹（ほんじすいじゃく）説においての展開を検討する。また、日本のカミ、信仰の在り方、死生観や価値についても考える。	
	東アジア近現代史	現在、世界の成長センターとされている東アジア地域の多くが欧米列強や日本の植民地支配もしくは、その強い影響下にあった。脱植民地化や近代化の過程において、この地域は大きな政治的・社会的な変動を経験した。今日の東アジア地域の社会と国家を考えるには、この地域が当時、どのような状況におかれていたか、そして、その中でどのように国民国家形成を成し遂げようとしたかを理解することが不可欠である。本講義は、そうした歴史学的な視座を受講生に学習してもらうことを目的とする。	
	ヨーロッパ近現代史	第二次世界大戦以降、東西に分断されてきたヨーロッパは、冷戦後はアメリカの一極集中に対抗するかたちで多様性のなかの統合を強めつつある。前半では、EUの歴史や課題、「旧東欧」諸国の近年の変化など概観し、グローバル化した現在のヨーロッパを理解する。後半では、民族、文化、宗教、政治経済、芸術などさまざまな分野から、現代ヨーロッパの複数国の過去20年の歴史を、グループごとの資料収集と報告も交えながら議論する。同時に、それらと日本のかかわりを考察ことも視野に入れた講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 教養科目	人間と文化	歴史の中の女性	男性中心とされる歴史において女性は社会とどのように係わりいかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を歴史的に考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会や、修道女の社会的使命などについての考察も行なう。具体的には、映画や書籍に登場する人物をとりあげ、その女性の職業や家庭など生涯について考察する。	
		身近な心理学	心理学は人間の行動・心理を科学的な手法で理解しようとする学問であるが、心理学で取り扱う問題意識は、そのほとんどが日常生活で感じることや疑問に内在される。たとえば、①血液型の違いで人の性格は決まるのか？②どのような時、目の錯覚は起こるのか？③思春期、親に反抗するのはなぜ？④記憶力がアップして成績がよくなる方法はあるか？など、さまざまな観点から、心理学的問題意識が挙げられる。本授業では、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、心理学について、このような日常生活での問題意識を例に挙げながら、心理学で行う基礎的な研究方法について解説する。	
		文化人類学	「文化」は人と人が結びつくところに生まれるが、文化には様々な違いがあり、異なる文化同士が対立することもある。グローバル化が進み、異文化間の交流が盛んになる現在、そうした対立が様々な形で現れ、それらを解消することがますます重要になっている。本講義では、一見近寄りたく感じるような「異文化」や当たり前になっている「自文化」を見つめ直すことにより、「異文化」と「自文化」との関わりや「伝統文化」と「近代文明」との関係、自己と社会との関わりについて理解を深め、文化的な対立の解消を図る道筋を探る。	
	生活と社会	暮らしの法学	日常生活で起こりがちなトラブル（注文した商品が届かない、賃貸物件の敷金を返してもらえない、交通事故に遭ってケガをした等）を素材とし、法学の基礎、とりわけ、民法や民事特別法（借地借家法、消費者契約法など）の基本的な問題を扱う。授業時における講師と受講者あるいは受講者どうしのやりとりを通して、知識の習得とともに、「法律の条文や判例を手がかりにしなが、他人を説得できるような結論を導き出す」という法的思考を身につけることを目標とする。	
		憲法と人権	その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書であり、国の基本法である「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方があるのかを学ぶ。 ①憲法とは何か ②権力分立の意義 ③人権保障の意義 ④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考える） ⑤国際社会における日本国憲法（特に人権の視点から） テキストから具体例を取り上げ、それに関連する憲法の条文の意味や内容などを考える。	
		暮らしの経済学	近年、経済のグローバル化やさまざまな分野における規制緩和によって社会や経済の構造が大きく変革し、市場メカニズムの役割はますます重要になっている。本講義の目標は、市場経済のしくみとその特徴について学ぶと同時に、その限界についても理解することである。いま日本社会が直面している問題は、雇用問題、格差問題、財政赤字、少子高齢化、年金問題などさまざまあるが、この講義で習得した理論的な知識をもとに、多様な社会・経済問題について議論できる力を養ってもらいたい。	
		国際関係論入門	急速なグローバル化の進行する21世紀の国際社会において、何が起きているか、そこで、生じる様々な課題に、私たちはどのように対処したらよいかを学生に考えさせる。経済面でのグローバル化の進展に伴い、宗教、地域主義、民族主義など根ざす、「アイデンティティの政治」が近年活発である。格差の拡大や「人間の安全保障」の課題に、国家や国際機関だけでなく、広く「市民社会」が、どのように対処すべきかについて具体的に考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 生活と社会	社会学概論	<p>本講義は社会学の基礎知識を習得することを主な目的とし、さまざまな社会問題や現象を取り上げ、一つひとつ検討しながら社会のメカニズムを明らかにしていく。「社会」とは個々の家庭・家族から日常的な社会生活の場、さらには国際社会に至るまでを指しており、そこに生じている社会現象や諸問題を学ぶことによって、物事に対する多角的な視点を獲得し、日常生活の中に隠された「ひと・自己」と「社会」の関係性に気づくことを目指す。最終的に、それぞれが「社会」に対する考え方や見方を養い、積極的に「社会」に対して関わっていけるような姿勢や態度、行動力を育成する。</p>	
	ジェンダー論	<p>人間は、人であると同時に、生まれながらにして、女か男である。そして、「女」「男」という身体的な相違、性別の相違＝性差が、多くの社会において、時として、「人」の普遍的な自由と平等の保障を阻んできた。性差を根拠として差別が存在するのはなぜか。女であり、男であるということと、女らしい、男らしいということとは別である。女らしさ・男らしさというのは、性差に基づく認識であり、社会的、文化的に形成されてきた。ある取り扱いについて、男女を区別して異なる取り扱いをしている場合、そこに「合理的説明」が必要である。本講義では、身体・性・生と個人の尊重の問題を扱う。</p>	
	ボランティア概論	<p>キリスト教に影響された西欧倫理を土台にもつボランティアの性格は、日本において変化がみられ、ボランティア理解はいまいである。ボランティアは、自由や正義のために、またよりよい社会のために、自ら進んでする活動であり、共に生きる社会の実現をめざし、相手の立場に立つてものを考え行動する心のはたらきが不可欠である。ここではまず基礎から、ボランティアの根本精神の理解と、多種のボランティア活動への認識に入ろうとするものである。</p>	
	子育てとワークライフバランス	<p>現代日本におけるワークライフバランスの現状や課題について、子育てに関する事項を中心に、幅広く学ぶ科目です。企業や教育現場、教育雑誌界や地域社会など、さまざまな分野で活躍している「母」「父」の立場の方や関連する仕事をしている方にお話をうかがい、ワークショップや討論をすることを通じて、受講生自身の生き方について考えます。7回半の授業のうち5回は外部講師をお招きして学ぶ科目であり、担当者はその授業のコーディネータをつとめます。</p>	
	こどもと子育ての生活環境学	<p>こどもの発達にとって、またこどもを育てる親や子育て世帯の暮らしにとって重要な生活環境のあり方を、「衣」「食」「住」それぞれの視点から考える。こどもや子育て世帯にとって安全、安心で健やかな生活の条件を、社会状況や政府の少子化対策、女性の生き方や家族の変化など、こどもと子育て世帯をめぐる諸情勢と関連付けて理解し、将来の自己の問題として主体的に考えていけるようにすることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全7.5回)</p> <p>(28 中村 久美／2.5回) 科目の趣旨概説こどもと家族の住空間-こども室をめぐる問題、子育て世帯を支援する新しい居住の形、まとめ (19 牛田 好美／2回) こどもと子育て期のファッション-こどものファッション、出産、子育てのファッション (30 藤原 智子／2回) こどもと母親の食生活こどもの成長と食生活 (27 竹原 広美／1回) こどもの遊びと住環境</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	生活と社会	海外研修（生活と社会） (37 酒井 久美子/隔年担当) デンマークが福祉先進国、生活大国といわれる理由について、国民の考え方、教育のあり方、福祉の現状について学ぶ。また、デンマークの暮らしと文化・教育、高齢者、児童、障害者と福祉サービスとの関わりについて実地に学ぶ。そのための方法として、各福祉分野の施設訪問、幼稚園や国民学校訪問、バリアフリーの商業施設や住環境の視察、デンマークの人々や留学中の外国人との交流や日常生活に触れ、ディスカッション等おこない、国際理解や国際的視野を広げる。 (30 藤原 智子/隔年担当) 美食大国として名高いフランスでは豊富な食材を用いた様々な加工食品が、また一方で冷涼な気候のドイツにおいては保存食が発達し、今なおそれぞれの風土に合わせた伝統的な技術の継承が行われ、今なおそれぞれの風土に基づいた新しい技術の導入も積極的に行われている。これらの加工保存技術を実地に体験し、合理的な食品の製造過程を学び、食文化への造詣を深める。	集中
		身近な自然科学	身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象の理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見ることができるようになることを目指したい。このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」へとつながるものである。 授業では講義とともに、観察・実験活動やものづくり活動を行う予定であるので積極的な参加が求められる。
	暮らしの統計学	統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野である。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを用いて統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。本科目で扱うトピックは、「統計データの種類や集計法」、「グラフの種類と特徴」、「統計データの代表的な指標」、「二変量データの表現」などである。授業の前半時間は主に講義形式によりそれぞれのトピックの解説を行い、後半は主に課題演習などを行う。	
	人間と自然	地球環境がどのように機能しているのかを学び、その科学的な理解を深めることを目標とする。具体的には、①地球内部の構造と大地の動きについて理解し、それに基づいて、地殻変動現象（地震・火山活動・造山運動）のしくみを説明できる、②大気と太陽エネルギーの性質について理解し、それに関連した地球環境問題（オゾン層の破壊・地球温暖化）を考えるための科学的基礎を養う、③地球形成時と現在の地球環境の比較を通じて、大気の進化と生命との関係性を概観できる、の3点を個別課題とする。	
	情報科学入門	『あなたはコンピュータを理解していますか？～10年後、20年後まで必ず役立つ根っこの部分がきっちりわかる！～』（梅津信幸著）を教科書に使い、我々が毎日使うコンピュータ（PC、スマホ、タブレットなど）の基盤になっている理論や原理の第一歩を学ぶ。 理解を容易にするために、講義に加えて演習としての実験も取り入れる。その一つとして、まず、センサーからの入力に対応する、音や光や動きを出力させる実験を行い、その後、ハードウェアだけでは実現できない動きをソフトウェアの助けを得て実現させる実験を行う。これらの実験を通して、なぜコンピュータがプログラム通りの動作しかできないのかを理解する。	講義10時間 演習20時間
	環境学概論	授業を通じて、深刻さを増す環境問題と現代社会のライフスタイルが直結していることに気づくことを目指す。生身の自分をとりまく環境がどのようなものであるかを考える機会にし、その上で、受講者および授業者が同時代、同社会に生きる「人」として共に生きていく姿について考えていきたい。具体的な課題は以下のとおりである。①「環境」、「環境問題」について理解する②環境問題とライフスタイル（および自分）との関連に気づく③今後の社会（および自分）のビジョンについて考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と自然	身近な医学	<p>医療の基礎的知識・医療用語の習得と生活習慣病をはじめとする代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解してく。すなわち、医療における基礎的な用語の使用、代表的な疾患について概念、診断・検査法、治療方法そして予防法が説明できることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 萩原 暢子/7回) 糖尿病、血液疾患、呼吸器疾患(炎症性疾患、ぜんそくなど)、腎臓疾患、膠原病、甲状腺そのた内分泌疾患、婦人科疾患、小児科疾患などを担当</p> <p>(⑧ 河瀬 雅紀/8回) 高血圧、心臓疾患、脳卒中、消化器がん、肺がん、肝臓・胆のう・膵臓疾患、精神疾患、頭痛・めまい・腰痛などを担当</p>	オムニバス方式
	生命倫理	<p>「臓器移植」「葉害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらおう。具体的な個別課題は、現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし、などである。</p>	
	子どもと自然	<p>本授業では、こどもが自然と触れ合える活動を、企画・開発することを通して、こどもの心理・教育と自然科学について、それぞれ実践的に学ぶ機会を提供する。具体的には、地域の子ども(主に幼児と小学生)と大学生が関わり、自然素材を活用して造形活動を行ったり、自然観察や理科実験を行ったりする、地域貢献プログラムの企画・実施を行う。複数の担当教員が、理科教育、図工科教育、発達心理学の学際的な立場から関わり、こどもの自然に対する関心をどのように育てるかという観点から、教育的指導を行う。</p>	集中・共同
	英語基礎Ⅰ	<p>本講義の目的は、プレースメントテストによって示された英語力によって、それぞれの段階に応じて、簡単な英語文を効率よく読むことができる能力を開発し、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を養うことである。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけさまざまな主題や表現を経験しながら、読解スキルの習得を図る。さらに、読む練習を通して、基礎的な文法の事項の復習と定着、語彙ビルディングも同時に行う。</p>	
	英語総合Ⅰ	<p>本講義の目的は、プレースメントテストによって示された英語力によって、それぞれの段階に応じて、簡単な英語文を効率よく書き、英語で発信することができる能力を開発することである。さまざまな主題で、平明な英語の文を書く演習を行う。この書く練習を通して、初級基本英文法の復習や確認、総合的なライティング・スキルの習得を図るとともに、語彙ビルディングも行う。最終的に、「段落」を組み立てる能力とともに、自信を持って「書く」ことができるようになることを目指す。</p>	
外国語科目	英語基礎Ⅱ	<p>本講義の目的は、英語基礎Ⅰに引き続き、英語力に応じて、簡単な英語文をさらに効率よく読むことができる能力を開発し、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を獲得することである。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけさまざまな主題や表現を経験しながら、読解スキルの習得を図る。さらに、読む練習を通して、基礎的な文法の事項の復習と定着、語彙ビルディングも同時に行う。受講者は、一年の学習成果を確認するために、年度末に実施する客観テストを受験する必要がある。</p>	
	英語総合Ⅱ	<p>本講義の目的は、英語総合Ⅰに引き続き、英語力に応じて、簡単な英語文をさらに効率よく書き、英語で発信することができる能力を獲得することである。さまざまな主題で、より長く平明な英語の文を書く演習を行う。この書く練習を通して、初級基本英文法のさらなる復習や確認、総合的なライティング・スキルの習得を図るとともに、語彙ビルディングも進める。受講者は、一年の学習成果を確認するために、年度末に実施する客観テストを受験する必要がある。</p>	
共通教育科目	教養科目		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	日常の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、日常的な内容に関するリスニング力を鍛える。同時に、ペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられた身近なトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	旅行の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、海外旅行に必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	留学の英会話	授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、留学やホームステイに必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	おもてなしの英会話	授業中、学生は旅行代理店、ホテル、レストランなど観光産業で行われる会話や路上で旅行者を助けるための会話に必要なリスニング力および会話力を、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまでペアおよびグループワークを通して英語のみで鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	やさしいビジネス英会話	授業中、学生は教師、学習者同士の活動を通して、ビジネスシーンに必要なと思われるリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、ビジネスに関する話題について、応対したり、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するように、トピックに関する語彙力、リスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
	歌って覚える英語表現	英語がうまくなりたいと思いつつながら、手段がわからないという学習者に対して、英語を身近に感じながら、自然に英語表現の習得を目指す実践的授業である。歌を唄うという演習を通して、英語独特のリズムやイントネーションが無理なく矯正されることに加え、歌詞の聞き取りにより、音声独特の連結などを積極的に聞き取ろうとする態度を涵養する。さらに、歌詞理解を図ることによって、異文化理解を促進することが可能となる。また、歌詞を覚えることで、より多くの日常的な英語表現を習得することを目指す。	
	英語リスニング初級	本授業は英語リスニング初級レベルの授業である。国際社会において「相手の言っていることを理解する」ためには総合的な英語力を向上させる必要がある。英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点を絞って練習を行う。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用して習得することを目指す。	
	英語リスニング中級	本授業は英語リスニング中級レベルの授業である。さらなるリスニング力強化を目指した授業を行う。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指す。どこでも誰にでも手に入る映画や歌やラジオ劇などを利用して、単なるリスニングの練習だけではなく、身の回りにある機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	読むための英語	本講義の目的は、英語で小説・ニュース記事などを読むことによって、英語学習を楽しみながら英語の学力を全体的にのばすことである。このクラスの受講生は、指定する文献またはEnglish graded readersの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持つ。受講生は、いろいろな英語文献を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになることを目指す。	
	実用英語基礎	本授業の目的は、実用的に英語を使えるようになるための、最低限必要な基礎知識の習得することである。本授業では、辞書の使い方や英語の基本文法を初歩から学習しなおしたり、音読や筆写という基礎的な訓練なども取り入れる。同時に、教材を通してTOEIC (R)に出題される基本的なビジネス英語を理解できるように、演習を進める。最終的には実際のTOEIC (R)にチャレンジできるように、上記の目標達成を目指す。	
	身近な英文法	英語学習は読み・書き・対話いずれの練習においても時間をかけて積み重ねることが大切であり、初歩の練習段階でこの積み重ねにつまずくとそれ以降の練習の成果がなかなか得られなくなる。英語学習の成果が得られない学習者の中でこのつまずきを経験している学習者は多い。本コースはこれまでの英語学習において初歩の積み重ねが不十分であった学生諸君のために英語の基礎学習再チャレンジを応援する。15レッスン修了時は、基礎的文法事項の習得、確実な語彙として1200語程度獲得、そしてgraded readers (語彙1200語程度) が強いストレスなしに読解できるようになること、さらにこれらの積み重ねを基礎に英語で初歩的対話ができるようになることを具体的目標とする。	
	アカデミック英語	本講義の目標は大学院進学を目指している学生に高度の「英語読解能力」を養成することである。大学院の入試などで評価される英語能力は専門性の高い英文を正確に読解できる能力である。このことを念頭において、本授業では、受講生が興味をもつ専門的な題材について読み、議論することに重きをおく。また、研究の進め方を学び、研究内容を短いリサーチペーパーとしてまとめ、口頭で発表をするプレゼンテーションの練習も行う。	
	ドイツ語	会話を中心にドイツ語の基礎運用能力を身につける。具体的にはドイツ語の話しことば・書きことばの基本的な用例をとりあげ、ヒアリングや対話などの練習を通じて、ドイツ語を聞いたり発音したりすることに慣れ、日常の日本語を簡単なドイツ語で表現できるようになることを目指す。また、教科書で扱われている題材をもとに、ドイツ語圏の文化や諸事情に触れ、異文化への関心と理解も深めていく。	
	フランス語	基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。基礎的なフランス語の発音・聴き取り・文法・語彙の規則を学ぶ。基礎的なフランス語の表現・成句・文法を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す。また、フランス語特有の文構造に慣れ親しみ、文全体を理解する。文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シュミレーション」など、コミュニケーションのための言語使用や文法能力を身につける。	
	スペイン語	本科目では、基礎的な文法事項を学ぶと同時に、様々な生活場面を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。具体的には、自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった初歩段階から実践段階の練習をする。また、同時にスペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化にも触れていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	アラビア語	「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。	
	中国語Ⅰ	本授業は演習形式の中国語初級授業である。1年間の学習を通して、受講生に正確な発音、簡単な会話を習得させると同時に中国文化、現代中国事情も把握してもらうのが本授業の目標である。また、1年の学習を終えた時点で、多くの受講生が中国語検定試験準4級に挑戦できるように指導することも目標の一つである。授業計画として、簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。	
	中国語Ⅱ	本授業は演習形式の中国語中級授業である。1年間の学習を通して、初級で学習した中国語文法と単語をしっかりと消化した上で、日常会話をさらにグレードアップし、中国語検定試験準4級合格を目指すことを目標としている。授業計画として、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。	
	中国語Ⅲ	本授業は演習形式の中国語上級レベルの授業である。初級と中級で学習した内容をベースにし、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すのではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指すことも本授業の目標の一つである。授業計画として、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。	
	韓国語Ⅰ	日本と朝鮮半島は長い交流の歴史を共有してきた。とりわけ近年、文化的交流が急進展する中で、お互いの言語を学ぶ人が急増している。ハングル（韓国文字）は非常に科学的かつ合理的な文字である。また韓国語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語でもある。具体的には、ハングルの特徴・構成を理解し、読み書きを学び、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることをめざす。	
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだことをより発展させ、中級レベルの語学力を習得する。ヒアリング、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力を高め、多様な表現力を学んでいく。具体的には、グループによる参加型の学習法を活用し、中級レベルの日常会話に必要な文法と会話力のレベルアップをはかる。また、韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいく。	
	韓国語Ⅲ	韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだことを再確認し、重要な全ての文法をマスターする。辞書さえあれば、新聞、雑誌を読んだり、インターネットでハングルのネットサーフィンを楽しめるほどの読解力を持つとともに、ハングルで日記やメールを書いたり、会話をなめらかに行うことができるようにする。韓国のウェブに載っている情報や雑誌のコラム、新聞のニュース、Kポップの歌詞など多彩な資料を活用しながら、社会生活や仕事にも役立つようなより実践的な語学力、会話力を獲得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	海外研修（語学）Ⅰ	韓国語の語彙、文型、会話、聴解、読解等の学習を通して運用能力（初級～中級）を高め、韓国語でコミュニケーションができる語学力を身につけること目標とする。夏期休暇期間中の約3週間（授業は計60時間）、韓国の協定大学にて実施する。語学のみならず、韓国の歴史、文化、生活様式や社会事情への理解を深めるとともに、韓国人学生との交流活動を行い、実践的に学ぶ。初日に語学レベルを測るプレースメントテストを行い、授業は、韓国語演習（48時間）、韓国語特別講義（6時間）、韓国文化講義（2時間）、韓国文化の実習又は見学（4時間）で構成される。	集中
	海外研修（語学）Ⅱ a	春期休暇中にオーストラリア又はアメリカの協定大学において英語の集中授業を受講する。英語のスピーキング、リスニングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得すると同時に、訪問国の歴史、文化、自然、社会等への理解を深め、異文化への適応力や国際性を身につけることを目標とする。オーストラリアではSpoken English, Oral Presentation, Australian Studies等、アメリカではEnglish Conversation, Presentation, Discussion, American Culture等の授業で構成される。	集中
	海外研修（語学）Ⅱ b	夏期休暇中に英国又はカナダの協定大学において英語の集中授業を受講する。英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させることを目標とする。さらに、訪問国の歴史、文化、生活、社会事情等の理解を深め、異文化の中で積極的に行動できる力と国際的な視野を身につける。英国ではCommunication Skills, British Culture, Presentation等、カナダではOral and Written English Communicaton, Conversational Idioms, Canadian Culture等の授業で構成される。	集中
	日本語講読Ⅰ	日本語を母語としない外国人留学生在が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけることをめざす。	
	日本語講読Ⅱ	日本語を母語としない外国人留学生在が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を確実に身につける。	
	日本語表現Ⅰ	日本語を母語としない留学生在が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを既習の日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	外国語科目	日本語表現Ⅱ	日本語を母語としない留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。		
		日本語特講Ⅰ	日本における様々な文化や社会問題について、毎回様々な資料を読み現状を理解させる。その後、インタビュー、アンケート調査や文献調査を行い、そのテーマについて発表させる。授業内でのディスカッション、ディベートなどの自主的な協同学習活動を通してそれぞれのテーマについての認識を深めさせる。これらの言語活動を通じて日本語コミュニケーション能力、運用能力も身につけられるようにする。また、文法・語彙などのタスク、クイズを実施し、豊かな表現も身に付けられるように指導する。		
		日本語特講Ⅱ	日本における小説、論説文、俳句、詩などの多様な文章を読解したり、テレビ番組、ビデオ、落語などを視聴したりする。これらの活動を通して、日本で日常使われている多様な表現を学び、同時に現代日本社会の諸問題を考えさせ、タスクを行う。それを基に自分の意見をまとめ、わかりやすく相手に伝える演習を行う。論理的に文章にまとめることで書く力も養う。また、文法・語彙などのタスク。クイズを実施し、表現をさらに豊かにできるように指導する。		
	基礎科目	文章表現法	大学生に求められる論述の諸能力（語彙力、表現力、構成力、論理的思考力等）が総合的に向上し、また、様々な事柄に対して自ら明確な主張を持ち、それを「分かりやすい」日本語の文章で伝えることができることを目標とする。個別課題は次のとおり。①日本語文章作成のための基本的な語彙力、表現力、構成力を磨く。②様々な資料や文献等から必要な情報を適切に読み取り、文章作成に反映させる。③議論の基本を学び、論述の基本姿勢を身につける。④論述のスキルやテクニックについて、学術的な文章のみならず、他のタイプの文章においても適宜利用することができるような、より実用的なものとしていく。		
		リテラシー・スポーツ科目	情報演習Ⅰ	今日の情報化社会では、企業・組織において一人1台のコンピュータが付与され、コンピュータはビジネスや業務を遂行するツールとして利用されている。この科目では、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通してそれらの基本スキルを習得し、社会へ出る前のIT基礎力を養うことを目的とする。さらに、学内のコンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用方法など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念・操作（ファイル管理、印刷方法など）を習得する。	
			情報演習Ⅱ	この授業は、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通して応用スキルを習得し、社会へ出る前のIT応用力を養うことを目的とする。使用するソフト（Microsoft Office製品）の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。「情報演習Ⅰ」の内容をすでに学んでいることを前提に授業を進めるため、履修済みであることが望まれる。	
		情報処理	インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページであろう。この科目では、電子メールやWebページを中心とした、インターネットの各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、複数のOS（WindowsとLinux）を利用する実習、および、プログラミングの実習も行う。	講義10時間 演習20時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 基礎科目	リテラシー・スポーツ科目	体育講義	<p>「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の健康に関する問題について理解する。 ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。 ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。 ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。 	
		健康スポーツ演習	<p>スポーツの実践を通して、体を動かす楽しさや爽快感を知る。その上で、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <p>自分自身の健康や体力にも目をむけ、生活をより健康的に送る力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なスポーツを経験し、運動の楽しさを実感する。 ・スポーツを通して、他者と積極的に関わりを持つ。 ・スポーツテストにより、自分自身の健康と体力について考える機会とする。 	
		体育実技	<p>心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。 ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。 ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、仲間と強し切磋琢磨し合う能力の向上を図る。 	
	カトリック教育科目	キリスト教入門	<p>本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学ぶ。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、現代社会へのメッセージとして受け止める。</p>	
		キリスト教音楽入門	<p>授業形態は講義を主とするが、年間の大学行事で歌う聖歌等の練習も授業内で行う。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一の目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。教育・学習の個別課題は(1)キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。(2)さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。</p>	講義22時間 演習8時間
		聖書と文化	<p>聖書成立の背景には、ユダヤ、ギリシア、ローマ文化など様々な文化の影響があり、また、聖書の思想は西洋文化を始めとして、多くの文化の形成に影響を与えてきている。イエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、イエス時代の文化的、思想的背景との関係において聖書を探究する。また、聖書の思想が、キリスト教成立後の世界の文化にどのような影響を与えているかについても考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 基盤科目	カトリック教育科目	キリスト教と日本文化	<p>キリスト教と日本文化の交流を、歴史と文学という二つの側面から理解することを目標とし、オムニバス形式の講義を行う。初めの5コマでは、「キリスト教と日本の歴史」をテーマとし、後の10コマでは、「キリスト教と日本文学」をテーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(106 John Breen/5回) 「キリスト教と日本の歴史」 キリスト教伝来に始まる日本におけるキリシタン史を概観し、日本社会のキリスト教受容と葛藤、キリスト教宣教師との交渉、キリスト教宣教師の視点による日本宗教論、昭和初期から戦後の日本のキリスト教と神道との関わり等を扱う。</p> <p>(60 郭 南燕/10回) 「キリスト教と日本文学」 日本近現代の文学者たちがどのようにキリスト教を受容し、いかなる文学を作ったのかを教える。さらに来日した外国人宣教師の執筆した日本語著書が日本人にいかによりキリスト教を伝え、日本社会にどのような影響を与えたかを検討する。授業の目的は、近代日本におけるキリスト教の浸透によって、日本語と日本文学が豊かになったことへの理解を助けることである。</p>	オムニバス方式
		キリスト教思想	<p>使徒の教えが受け継がれ、どのようにキリスト教思想として発展してきたかを理解することを目的として、主要なキリスト教教父や、聖トマス・アクィナス等のキリスト教神学の発展に寄与したキリスト教著作家の生涯と思想について講義する。彼らが生きた時代と文化の中で、いかにキリスト教神学を構築したかをその生涯とともに紹介し、キリスト教の教義の発展との関わりや、後のキリスト教に与えた影響についても考察する。</p>	
		キリスト教美術	<p>4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。本科目では、講義形式でその基本的な知識を習得する。主にゴシック時代から18世紀について、絵画を中心とした代表的な作例を鑑賞し分析することにより、主要な主題と基本的な図像を学べるようにする。旧約聖書・新約聖書・聖人についてまんべんなく触れる。また、キリスト教美術の歴史についても適宜解説し、基本的な流れを把握してもらおう。以上を通して、未知の作品に出会ったときにも、独力である程度主題を推測できる力を養うことを目指す。</p>	
		キリスト教音楽	<p>授業形態は講義を主とする。目標は「ミサ曲を学ぶ」。ミサ曲は古くから多くの作曲家によって手がけられ現代にまで続いている。この授業の計画としては、中世からバロック時代にかけてのミサ曲の変遷とJ.S. バッハ作曲の《ロ短調ミサ曲》、更にモーツァルト、ベートーベンなどの古典派のミサ曲までを範囲として学ぶ。ミサ曲と典礼との関わりやバッハの音楽の宗派を超えた普遍性などについても考えたい。教育・学習の個別課題は(1)ミサ曲のテキストと典礼との関連を理解するように努める。(2)J.S. バッハの音楽の特徴や他の時代の音楽との比較をする。(3)中世からロマン派までの音楽を味わう。</p>	
		ノートルダム学	<p>本学の設立母体であるノートルダム教育修道女会について学ぶ。修道女会の創立者であり、カトリック教会の中で「福者」として列福されているマザーテレジア・ゲルハルディンガーとその時代について学習し、どのようにして本学が設立されたかという創設の歴史と理念を知り、連綿と受け継がれてきたノートルダム女性教育の現代的意義を、キャリア教育(知育)と自校教育(徳育)、双方の観点から考える。ゲストスピーカーとしてシスター、卒業生等を招き、その意味・意義について討論し、自ら考える授業とする。</p>	講義15時間 演習15時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基盤科目 ライフキャリア形成科目	女性とライフキャリア	本授業では、学生生活を終えたあとの長い人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身につけ、考える力を養成することを目的とする。特に職業キャリアと家庭生活の両立は、男性以上に女性にとって大きな人生の課題として立ちはだかるだろう。そのために、あらゆるライフキャリアの可能性を検討し、予測される課題にどのように対処できるのか検討することは重要である。また、生きる目的のひとつに社会活動に参加するというものがあることを知り、自分や自分の家族のためだけではなく、社会に貢献するために自分は何ができるのかを考える。	
	ホスピタリティ入門	「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。ホスピタリティの語源、ホスピタリティと文化、地域や文化・文明による差異などを考察する。パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回小レポートによりホスピタリティを考察する。	
	ホスピタリティ京都	講義形式である。京都の接遇の文化について理解を深めることを目標とする。はじめに、日本ならではの「もてなし」という概念を理解する。普遍的な概念としてのホスピタリティ、あるいはサービスと、どのような点で共通し、どのような点で異なるのか、華道、茶道、和食などの世界における具体的な事例をとおして、日本の接遇の独自性を理解する。特に日本の伝統文化を伝えてきた京都の、国内および国際的交流の歴史をふまえ、京都に受け継がれる、コミュニケーションの方法としての「もてなし」の独自性について考察する。各回毎に華道、茶道、和食などテーマを設け、具体的事例から理解を深める構成である。	共同
	キャリア形成	大学生活の中盤を迎える2、3年次生を対象に、コミュニケーションスキルを向上させながら、大学生活の振り返りを行い、今後のキャリアプランについて考える科目である。そのために、基礎的なコミュニケーションスキルについての学修をした上で、自己の振り返りや職業社会の理解など、キャリアにかかわる学修を少人数のグループワークを中心に行い、コミュニケーションスキルを高めながら、キャリアに関する深い理解と、今後のキャリアプランの作成をする。	
	キャリア形成ゼミ	社会で必要とされる力を社会人基礎力と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動する「場」をゼミナールとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。	集中
	インターンシップ	職業現場での就業体験プログラムを通して、働くことの価値形成を図る実践授業である。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識を育成し、職業選択の明確な基準軸を養成するとともに、人間性（思いやり、公共心、倫理観）を高め、基本的な生活習慣（基礎的なマナー、時間管理）を身に付けることを目標とする。就業体験を有意義にするための事前、事後指導も併せて行う。さらに体験成果の発表を課すことで、社会人としての基礎能力をも養成する。	集中
	海外インターンシップ	海外の職場で実際に英語等を使って仕事をするを体験することにより、語学の応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、責任感、協調性、キャリア意識を身につけることを目標とする。研修先国は、ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ等複数の国から選択できるとし、夏期又は春期のいずれかの休暇期間中に、各自の希望等に応じて一般企業、教育機関、福祉施設等で実施する。就業体験中の海外生活を通して、異文化に対する理解、積極性、国際的な視野を広げる。研修終了後にレポートを提出することが求められる。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通 科目	現代社会と子ども	<p>現代社会における、こどもの生活世界の現状と課題について、こども教育の観点と、こどもの発達心理学の観点から、オムニバス方式で講義を行い、「今」を生きるこどもとそれを取り巻く人々や社会の在り方について考える力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(① 工藤 哲夫/3.75回) 本講義の前半では、現代社会におけるこどもの教育の状況を概観する。小学校就学前のこどもたちの保育・教育の状況について、また小学校就学後のこどもたちの教育状況についても、国際的な比較することで日本の独特な状況を客観視し、保育・教育のあるべき姿を考える。また、待機児童ゼロとはどんな状況なのか、いじめはどのような教室で起こるのか、学びの場にこどもたちは何を期待しているのかなどの課題について討論、発表を行う。</p> <p>(26 高井 直美/3.75回) 本講義の後半では、こどもの発達心理学の観点から、現代の子どもを取り巻くいくつかの課題について、問題意識を喚起し、受講生の意見を積極的に聞きながら、現代社会の課題について考える。取り扱う課題は、「早期教育はこどもを伸ばすのか?」「こどもへの虐待は増えているのか?」「昔のこどもと今のこどもの発達の違いは?」など、心理・福祉・教育全般に関係するもので、3つの学科の専門教育への導入の役割も担うものである。</p>	オムニバス方式
	現代社会と女性・家族	<p>性別や性差、性役割などの性をめぐるトピックについて、現代社会における女性、現代社会における家族の在り方や課題を関連づけながら講義する。講義の前半は家族関係学や女性学の観点から、後半は心理学の観点から性や家族に関して、オムニバス方式で講義を行い、この問題に関する受講生の興味や関心、知識の拡充を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(44 青木 加奈子/3.75回) 本講義の前半では、女性のライフコースと社会的地位の歴史的变化を国際比較調査のデータを用いて、現代の日本社会のなかで女性の置かれている現状を理解する。また、現代に生きる私たちが家族に求めるものはなにかを、グループディスカッションをとおして受講生に考えさせる。</p> <p>(32 向山 泰代/3.75回) 本講義の後半では、心理学の分野での性や家族に関するこれまでの研究を紹介しながら、この問題の現状や課題について講義する。授業中、受講生には簡単なアンケートや教材等に反応を求め、これらを講義の素材とすることによって、受講生自身が性や家族に関する自らの価値観や態度に気づき、問題意識や興味を深める。</p>	オムニバス方式
	現代社会と高齢者	<p>超高齢社会において人々がより良く生きるには、高齢者を正しく理解し、高齢者と上手にかかわることができるとともに、高齢者を支援できる人材が豊富であることであろう。本講義は、生活学や老年学および心理学の視点から現代社会における高齢者についての知識を身につけ、理解を深めるとともに、他者としての高齢者を学ぶだけでなく、受講者自身もおいゆく存在として自分のライフコースとも関連付けて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(16 伊藤 一美/3.75回) 本講義の後半では、生涯発達心理学における高齢期の位置づけと、現代の多様な老いのプロセスや発達課題について、受講者自身のライフコースや時間的展望と関連付けながら学ぶ。また、高齢者における認知、パーソナリティ、家族を含む対人関係の特徴などについて、心理学的な理解を深める。</p> <p>(20 加藤 佐千子/3.75回) 本講義の前半では、超高齢社会の現状を概観し、生活学や老年学の視点から、高齢者の健康、老化、コミュニケーション、生活、社会交流などについて講義や討論によって理解を深める。また、高齢者を正しく理解し、高齢者を支え、高齢者とともに生きるための基礎知識を講義、発表を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通科目	現代社会と病者・障がい者	<p>現代社会における病を抱えた人、障がいのある成人やこどもの生活様態や生活困難性、教育や社会制度の課題について、主として社会福祉学、教育学の観点から、様々な事例を交えながら講述する。</p> <p>(オムニバス方式/全7.5回)</p> <p>(31 三好 明夫/1.5回)</p> <p>本科目のねらいと内容について概説したあと、病者や障がい者の非日常として、自然災害の被災時における彼らの生活困難とそれへの支援のための課題について、東日本大震災における事例を通して解説する。</p> <p>(37 酒井 久美子/1回)</p> <p>障がい者の地域生活移行が進む一方で、障がい者が地域で安心・安全に生活し、社会進出するには課題が山積している。このような現状を理解し、障がいがあるとなかろうと、地域でその人らしい生活を営むためにどのようなことが必要かについて学び、考える。</p> <p>(5 江川 正一/2回)</p> <p>病や障がいを抱える幼児や学童の日常と、発達支援のしくみ、教育制度などについて、教育現場からの具体的課題をあげながら解説する。</p> <p>(8 河瀬 雅紀/3回)</p> <p>感染症、がん、精神障がいなどの主要疾患を取り上げ現代社会が抱える問題を検討する。すなわち、過去と現在、発展途上国と先進国、都市部と過疎地、貧困と格差など複数の軸から病や治療・ケアに伴うさまざまな社会的問題を検討し、現代社会に生きる病者の心理と苦悩への理解を深める。</p>	オムニバス方式
	病児の発達と支援	<p>病を抱える子どもたちの苦しみを理解し、発達を支援する方法を学ぶ。即ち、小児科病棟でのボランティア活動をモデルとして、病児のサポートのあり方を理解していく。まず小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師等の立場から概説し、子どもたちの疾患の基本的な知識や心のケアについても学ぶ。また、子どもたちの発達に沿った遊びの役割や手技などの実践を学習する。院内学級での支援についても現場を見学し、担当の講師からその実際を学ぶ。さらに、ボランティアをする学生自身のケアについても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 河瀬 雅紀・② 萩原 暢子・11 畠山 寛・7 石井 浩子・⑦ 植田 恵理子・16 伊藤 一美・36 薦田 未央・⑤ 江川 正一・13 太田 容次・17 岩崎 れい/2回) (共同)</p> <p>初回にオリエンテーションを行い、15回目に振り返り、グループワークと発表を行う。</p> <p>(8 河瀬 雅紀/3回)</p> <p>病児の精神的な発達と、心の葛藤や周囲の人たちとの関わりを解説する。</p> <p>(② 萩原 暢子/3回)</p> <p>子どもの疾患について、基本的な知識を画像を多く用いて解説する。</p> <p>(11 畠山 寛・7 石井 浩子・⑦ 植田 恵理子・16 伊藤 一美・36 薦田 未央/3回) (共同)</p> <p>子どもの発達的特徴や、心の安定に関わる遊びの役割を学び、年齢にあった遊びの手技、小集団で行う遊びなどを体験する。病児の遊びサポートの実践、グループでの遊びの工夫について解説する。</p> <p>(17 岩崎 れい・1回)</p> <p>絵本の種類と読み聞かせの方法について解説する。</p> <p>(⑤ 江川 正一・13 太田 容次/3回) (共同)</p> <p>院内学級の現状と支援学校の取り組み、病児の学びのサポート、病棟での病児を想定した学びサポートについて解説する。</p>	集中・ オムニバス方式 ・共同 (一部)
	情報科学	<p>情報とコンピュータ及び情報通信に関する基本的な項目を広く学習し、さらに進んだ知識を習得するために必要な基礎力を身につけ、コンピュータの基礎—ハードウェア、ソフトウェアのあらまし</p> <p>(OS の概要を含む)、情報通信ネットワークとインターネットの仕組みと活用のあらまし、データ構造、アルゴリズムと情報システム開発、知的財産権、個人情報保護、情報倫理、セキュリティ、ビジネスと情報技術などについて学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基礎科目	こども教育基礎演習	本演習は、こども教育学科の入門科目として1年次前期の基礎科目として位置付けられる。現在の保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校の実情や諸問題について知り、それについて主体的・自律的に学ぶ力を身につけることを目標とする。また、少人数に分かれて、同一のシラバスに基づき演習を行い、その中で、「読むこと」「書くこと」「伝えること」等、大学での学びの基盤を形成する。さらに、共に学ぶ友人や教員との関わりを通して、人間関係の構築をめざす。	共同
	こども教育フィールド研修	1年次生全員が、保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校において観察実習を行い、日々の保育、教育活動にふれる。それぞれの実習にむけて事前指導、事後指導の充実を図り、明確な視点をもっての観察実習を行い、自分自身の目標を明確にする振り返りを行えるようにする。 観察実習をふまえ、1年生後期からのコース選択の視点を獲得する。また保育、教育現場をとりまく実態や教員の意義についても理解を深め、今後専門的な学びが増加するカリキュラムに対応できる基礎・基本を習得し、教職への意欲へとつなげる。	集中・共同
	教職論	本科目は、教職課程の中でも重要な入門の科目として位置付けられている。教員に対する社会的要請(教員の資質、能力)をとらえ、教職の意義、教員の役割、職務内容などに関する知識の教授、あるいは教職を進路として選択することが適切かどうかを自ら判断する機会を提供するものである。教職における現状の理解を深めると同時に、教師というキャリアを受講生自身が再構築する手掛かりを提供し、受講者とともに教師を魅力的な仕事としていく方策を学んでいく。	
	教育原理	本科目は、教育の理念、教育に関する歴史や思想を学ぶことを目的とする。教育は何のためにあるのか、これまで教育はどのようになされてきたのか、それはどのような思想に支えられていたのか、これからの社会において教育はいかにあるべきなのかを多様な視点から探究する。このことを通して、これまで自分が教育を受けてきた経験を相対化して捉え、自らの教師観、学校観を編み直し、これからの時代の教育に教師として携わる者に必要となる基本的態度と課題意識を養う。	
	教育史	教育の基礎理論に関わる科目として、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を扱う。「よりよい教育」とはどのようなものなのだろうか。新たなる教育を構想するには、これまでに行われてきた教育を批判的に考え、教育のよき側面とともにその悪しき側面も知らなければならぬ。この授業では教育を歴史的に捉える素地を身につけることで、未来の教育への想像力／創造力を養うことを目指す。	
	こどもの教育心理学	この科目では、教育にとって必要とされる心理学的知識について理解することを目的とする。具体的には、子どもの身体的・精神的発達の特徴、行動的・認知的な学習のプロセスについて解説するとともに、どういった授業や説明を行えば、児童生徒のよりよい学びと成長に結びつけられるのかについて説明する。さらには、教育現場において対応が求められる発達障害、学力低下や学級崩壊などについてもその原因と対処法について考えることとする。	
	こどもの発達心理学	この科目では、子どもの発達を中心に保育・幼児教育の実践との関連を踏まえて講義する。具体的には、発達とは何か、各領域(運動発達、身体発達、知覚・認知、言葉等)の発達の特徴やそれに関わる要因、人との関わりを通じた子どもの発達、生涯発達と初期経験の重要性等について講義する。また、保育者が身につけるべき保育実践の評価の方法や保育観、子ども観、発達観についても講義し、学生の理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	基礎科目	教育と社会	本科目は、教育事象や教育に関する言説を社会学的な視点から捉え直すことで、教育と社会のつながりについて考察する力を養うことを目的とする。講義では、家庭の教育力の低下、学力低下、いじめ、子どもの心の危機、青少年犯罪といった現代の具体的な教育事象をめぐる言説を取り上げて、それらが社会学的な観点からどのように解読できるのかを論じることを通して、教育についての実証主義的な理解を促すとともに、自らがそれらについて深く考察する力を養う。	
		教育経営論	本科目は、学校教育に関わる制度、行政、経営の基本的な原理についての理解を深め、社会における学校教育の位置付け、学校教育の役割、学校教育が抱える課題など、最新の教育経営をめぐる諸問題について考察していく。それらを通して教員の社会的役割や社会的・職業的倫理の重要性、マネジメント力やコミュニケーション力を身につける必要性などを理解し、「自律的学校経営」の構築に向けた様々な課題について自分の考えが明確に論じられるように認識を深めていく。	
	幼小共通科目	教育課程論	本科目は、カリキュラムの基本原則を理解するとともに、教師が授業を行う際に必要とされるカリキュラムの編成するための知識を習得することを目的とする。教師は授業をどのように計画し、展開して、評価し省察するのか、その一連の過程における原理と方法について講義するとともに、カリキュラムの多様性やカリキュラムの今日的な課題についても講義する。これらのことを通して、カリキュラムの意義を理解し、教師としてカリキュラムを編成するための力を養う。	
		教育の方法と技術	教育方法を一般的、概念的に理解するだけでなく、それが実際の教育の場面でどのように機能しているのかを理解し、子どもたちが主体的に学び目標を実現するためのカリキュラム、学習活動のまとめりとしての単元計画の作成の仕方、PDCAサイクルなどの教育実践方法、教材の準備や場の設定のしかた、情報機器や新たな話し合いの方法の効果的な活用による指導の展開、形成的評価を活用しての成果の評価、それに基づく臨機応変な授業の創造のあり方等について学ぶ。	
		教育評価	ペーパーテスト、ポートフォリオ、パフォーマンスなどの具体的な教育評価の事例にふれながら、教育評価のありかたや技法について習得する。また、各教科、領域における評価体験、指導要録や通知表の作成体験などを行い、実践的な力を習得する。さらに、目標と指導と評価の一体化を具現した教育評価の意義について理解する。そして、楽興教科の公開など、地域に開かれた学校運営に役立つ、これからの教育評価のあり方について考える。	
		教育相談の理論と方法	この授業では、幼児・児童の心理面、特に不応の面からの理解をめざすとともに、学校教育相談についての基礎知識を習得する。学校教育相談や学校カウンセリングの役割、その特殊性と限界などを学習し、教育相談やカウンセリングについての具体的かつ実践的な理解をめざす。具体的には①幼児・児童期の子どもにみられる心身両面での変化を理解する②子どもの精神的緊張や問題を人格発達の中で捉える視点を持つ③知的・情意的側面での個人差を知り、評価や理解の方法を学ぶ。	
		教育実習事前事後指導	教育実習を有効かつ円滑に行い、実りあるものにするため、事前指導においては、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄や、心構えを確実に身につけることをめざす。さらに事後指導においては、実習を通して学んだ成果や反省をもとに、今後の自己の学習の方向づけを援助することをめざす。具体的には実習の意義をよく理解すること、教育に関する知識や技能を教育の場で再構成できるよう準備すること、実習体験を、今後の自己の教育に活かすよう心掛けることに取り組む。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 幼小共通科目	初等教育実習Ⅰa	本学科において培ってきた知識や技能を基盤として、学校教育における幼児・児童との直接的な接触の過程を通して、これまでに学んだ知識や理論を現実の幼稚園教育に適用する能力や問題解決能力などを養うとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。この目的を達成するため、幼稚園・小学校という教育機関、幼児、児童、教職員とその職務、実習生としての立場・活動内容等について体験的に学ぶ。	集中
	初等教育実習Ⅱa	本学科において培ってきた知識や技能を基盤として、学校園における幼児・児童との直接的な接触の過程を通して、これまでに学んだ知識や理論を現実の学校教育に適用する能力や問題解決能力などを養うとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。この目的を達成するため、実習校園の沿革、教育理念、幼児・児童の実態、教職員とその職務等について体験的に知り、実習校園の職員としての実践力を身につける。	集中
	初等教育実習Ⅰb	本学科において培ってきた知識や技能を学校教育の場において適用していく過程を通して、これまでに学んだ知識や理論を現実の学校教育に適用する能力や問題解決能力などを養うとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。この目的を達成するため、これまでに各自が得てきた知見やスキルを実際の教育現場で展開しながら再構築し、教師としての使命、授業の進め方、学級経営などについて体験的に学ぶ。	集中
	初等教育実習Ⅱb	本学科において培ってきた知識や技能を学校教育の場において適用していく過程を通して、これまでに学んだ知識や理論を現実の学校教育に適用する能力や問題解決能力などを養うとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。この目的を達成するため、初等教育実習Ⅰでの学びを踏まえ、これまでに各自が得てきた知見やスキルを実際の教育現場で展開しながら再構築し、教師としての使命、授業の進め方、学級経営などについてさらに学びを深めていく。	集中
	教職実践演習（幼・小）	教員になる上で必要な知識・技能等に関して、自己の課題を自覚するとともに、必要に応じて不足している点を補うなどし、その定着を図る。授業は教職に関わるテーマに沿った講義を踏まえて、討論やロールプレイングなどの演習を行い、各人の教師の資質に関わる課題について、問題解決を図ることを目標とする。最終段階の授業では、教育実践における課題を各自が取り上げ、それを深化、研究し、その成果を模擬授業や授業研究を行うことにより、課題の共有化を図る。	共同
	国語	本科目は、まず、国語の基礎知識として、教育における国語の歴史を小学校を中心に明治期、大正期、昭和前期、戦後期、平成期を学ぶ。そして、国語における日本語の特色と日本語全般の特色、さらに児童の言語と思考と言語生活を学習する。次に、国語の研究の視点として、文学的な文章の読みの方法を代表的な文学的文章の読みの理論を学ぶことで修得し、説明的文章の読みの方法を思考力の育成という観点から学習する。さらに、対話の方法、作文の方法、読書の方法、メディア・リテラシーやワークショップ・デザインの意義を学ぶ。	
	算数	幼稚園保育内容「環境」における数の概念を理解したうえで、小学校段階での認知発達からの算数を概観する。算数の4分野である「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の生活で生かされている場面を考え、見通しを持ち、筋道を立て、考えたことを表現できるように学びを深めていく。決して、回答を求めることではなく、その課程を重んじるようにしていく。さらに、近代にいたるまでの数学の歴史も概観し、先人たちの教えを踏まえ学びを深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 幼小共通科目	生活	<p>生活科の目標や学習内容について、生活科に関わるさまざまな領域の事例や演習を通して、実践的に理解することを目的とする。また、理科や社会科、総合的な学習の時間との関連についても理解することを旨とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(9 小川 博士／7.5回) 生活科創設の経緯や生活科の目標等について概説する。また、主として自然とのかかわりに関する内容構成及び具体的な教材について演習を交えた指導を行う。理科との関連についても概説する。</p> <p>(14 大西 慎也／7.5回) 主として自分とのかかわり、社会とのかかわりに関する内容構成及び具体的な教材について演習を交えた指導を行う。また、社会科や総合的な学習の時間との関連についても概説する。</p>	オムニバス方式
	障害児・者の心理学	<p>「障害」とは何か、その概念や医学的な診断基準等に基づいた障害の内容と特徴を理解する。また、障害の要因を知り、精神機能・心理的特徴やその後の発達における特徴を学ぶ。さらに、障害児・者の親や家族の心理、支援に関する社会的資源についての知識を習得し、障害児・者をとりまく教育的、社会的環境に関しても理解を深める。</p>	
	学習の心理学	<p>人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習心理学である。まず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、洞察説、社会的学習理論などの学習理論について説明し、学習成立の基礎過程を理解させる。次に、記憶や思考などの人間の認知過程について述べる。さらに、何をいかに教えるかという教授・学習の問題や、どのようにすれば主体的に学習に取り組ませることができるかという学習意欲の問題に関する教授・学習過程について講述する。これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、教育と学習との関わりについて考察することを旨とする。</p>	
	スクールカウンセリング論	<p>スクールカウンセリングにおける実践経験を通じて、事例を提示する。ただし、倫理上相談内容そのものを提示しておらず、適宜事例を組み合わせた仮想事例を作成している。この事例を通じて、受講する学生がその対応と理解に関して少人数での相互討論を行い、発表し結果を共有する。その後、事例についての臨床心理学的な講義を行い、質疑応答する。少人数での相互討論と講義・質疑応答によって得られた事例に対する自己理解をレポートとして残していく方法により、より実践的に相談者を理解することを旨としている。</p>	
	教職専門ゼミナール	<p>教員としてその職務を遂行するために必要な資質や知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>前半は、教育六法をはじめとする教育に関わる主な法規について、通読と考察を通して理解する。さらに、西洋教育史、日本教育史の概要とその変遷について学ぶことにより、今日の教育の現状と課題について認識を深めるための礎をする。後半は、教育の今日的課題について文献、資料等を通して考察し、理解するとともに、その課題に対してどのように取り組むかについて小論文にまとめることを通じて、実践力の育成を図る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 幼保共通科目	保育課程論	<p>本科目は、幼稚園教育における教育課程の意義とその編成の方法について理解し、教師として指導計画を作成するために必要となる知識を習得することを目的とする。幼稚園教育は、環境を通しての教育とされ、遊びを通しての指導を中心とするものとされている。この点を十分に踏まえながら、幼稚園における教育課程と指導計画の意義や編成の方法について講義する。また、今日的課題となっている保育の質を高めるための教育課程と指導計画の評価や改善についても論じる。</p>	
	保育内容総論	<p>保育内容は、園において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。そして、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）別の学びとともに、それらの相互の関連性を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づき、子どもの理解や保育方法について学ぶ。</p> <p>総合的に指導、援助が行えるように、子ども、保護者、保育所を取り巻く環境・社会情勢の理解や発達過程に即した子どもの理解や活動、環境構成、保育の計画、保育内容の歴史の変遷、保育の課題などを学ぶ。</p>	
	保育内容（健康）	<p>保育内容の「健康」について理解させるとともに、他領域との関連を踏まえながら総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。</p> <p>また、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「健康」のねらいや内容について学び、子どもの「健やかな」育ちを実現するための幼児期の発育発達や内容との関連、子どもの生活習慣の実態把握、さらに保育計画と展開のさせ方、保育環境の設定と具体的な援助・指導のあり方や方法について理解させる。</p>	
	保育内容（人間関係）	<p>本科目は、幼児期における人間関係の発達の特徴と課題、その発達の援助に携わる教師の役割と方法を理解して、幼児の自立心と人とかかわる力を養うための指導法を学ぶことを目的とする。授業では、幼児が親や教師や友達といった身近な人々とのかかわりを通してどのように対人関係能力を培っていくか、教師は幼児の道徳性や協同性をいかにして培っていくか、さらには幼小接続や子育て支援といった現代的な課題に対してどのような役割を果たすべきかなどについて学んでいく。</p>	
	保育内容（環境）	<p>領域「環境」の意義や基本的な考え方を知り、幼児における環境の意味を学び、環境をどのように構成していくことが、子どもの育ちにとって必要であるかを理解する。また領域「環境」と他の領域との関連についても理解を深める。</p> <p>「前半では領域「環境」の基本的な考え方を学び、後半では保育実践例を通して学ぶことで、多角的な視点を養い、保育者に求められる役割や専門性についても学びを深めたい。後半の保育実践例では、映像を活用することで、より理解が深まるようにする。</p>	
	保育内容（言葉）	<p>領域「言葉」の意義や基本的な考え方を知り、幼児の言語発達のプロセスを理解する。また保育者が幼児に関わる上で、言語発達のプロセスを理解し保育実践をしていく重要性を実践事例から学ぶ。実践事例を通して学ぶことにより、領域「言葉」と他の領域との関連についても理解を深める。「前半では領域「言葉」の基本的な考え方を学び、後半では保育実践例を通して学ぶことで、多角的な視点を養い、保育者に求められる役割や専門性についても学びを深めたい。</p>	
	保育内容（表現）	<p>「学びにつながる表現遊びの活動」をテーマに、子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助を考え、具体的な指導方法を習得する。講義形式とアクティブラーニング形式の演習を組み合わせる授業を行う。幼児の表現を引き出す具体的な活動方法を個人、グループで企画し、実践することにより、表現活動における保育者の役割・援助について理解を深めるとともに、子どもの表現を引き出すための様々なアプローチ方法、具体的な活動を企画できる力を身に付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 幼保共通科目	幼児理解の理論と方法	乳幼児の健やかな心身の成長のためには、乳幼児に適した保育の計画を立て実践していくことが不可欠であり、そのためには、乳幼児の発達や乳幼児の生活実態をより正確に、また、客観的に把握することが必要であることを理解させる。 自分の保育観や幼児観、発達観などと向き合いながら、幼児の言動の捉え方や意味を理解しようとする事、また、幼児の内面を評価し、共感的に理解することなど、幼児理解のために必要な具体的方法とその評価や援助のあり方について学ぶ。	
	保育・教職実践演習	保育に関する現代的課題について考察し、テーマを定めてグループ研究に取り組む。また、課題についての援助の方法、技術等について、実践的に学ぶことにより、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技術を習得したことを確認する。模擬保育に関しては、担当教員が、それぞれの専門とする分野において助言し、実践的な演習を行う。グループ活動を基本とし、連携することを学びながら、課題に対して協同的に取り組み、成果を発表し、レポートを作成する。必要に応じ、現場の訪問、外部講師による講演を聴くことがある。	共同
	乳児保育	保育所や乳児院などにおける乳児保育の現状と課題について理解するとともに、乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割などについて学ぶ。 3歳未満児の発育・発達や健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びの理解を深め、保育所や乳児院の果たす保育のあり方、保育者の役割・専門性を学ぶ。さらに、乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶとともに、乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解させる。	
	障害児保育	この科目は、保育実践に携わる保育者にとって必要となる障害児保育の知識・技能を演習形式で習得させることを目的とするものである。具体的には、障害の概念、障害児保育の理念や歴史、障害保育の基本としての発達理解や発達の評価、知的障害、自閉症スペクトラム、ADHD、言語障害、聴覚障害、肢体不自由などの各障害、障害児保育における計画や個別の指導計画の作成方法、障害児を対象とする保育のあり方、家庭や関係機関との連携の在り方などが含まれる。	
	こどもの保健Ⅰ	生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、小児保健の意義を学ぶ。これにより、保育実践における保健活動の重要性を理解させる。また、小児の発育・発達の状況を把握し、発育の中心となる食生活や栄養の意義を学習する。さらに、小児が保育園で過ごす際の家庭との連携や、生活リズムに合わせた生活環境を提供し、小児の生活場面におけるそれぞれのケアの理論について、理解を深める。これには、緊急事態に遭遇した場合の対応の心得も含まれる。	
	こどもの保健Ⅱ	こどもの保健Ⅰでの知識を基礎として、まず小児の症状の見分け方を学ぶ。そして、保育園での早期発見のために、小児の個々の疾病の特徴および予防法を理解する。小児は感染症に罹患しやすいことから、予防接種についての正しい知識を学ぶ。また、事故に対する安全対策について、その実態と救急処置を含む対処法を理解するとともに、最も重要な事項である、事故を未然に防ぐ方策について詳述する。さらに、行政サービスの視点から、児童福祉と母子保健対策について学ぶ。	
	こどもの保健演習	小児の保健について、実際にモデルの赤ちゃん人形を用いて、演習を行う。まず、健康状態の観察などの保健対応を学ぶ。また、乳児の抱き方やおむつの替え方、ミルクのやり方など、実際の養護の手技を学ぶ。小児の清潔について、手洗いと沐浴を実際に体験する。歯の保健については、歯のモデルを用いて歯磨き演習を行う。保育園での小児の様々な症状の原因について言及し、さらに、応急処置については、乳児から幼児までの対応と心肺蘇生法の体験演習を行う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 幼保共通科目	こどもの食と栄養	小児期の栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であること、保育における食生活が心の健康にも影響することを理解させる。また、保育との関連のなかで、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義、小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる。さらに、食生活と家族・地域との関連性、特に家族で囲む食卓の意義やその重要性など、食育に関する知識を詳述するとともに、小児の生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。	
	家族援助論	現代社会は、女性の社会進出による共働き世帯の増加、ひとり親家庭の増加、少子化による子ども同士の遊ぶ機会の減少等、家族を取り巻く環境は変化している。核家族化や地域社会における人間関係の希薄化により、家族内や地域の子育て機能は低下し、子育てに不安を感じる家族も増加している。家族援助は、子どもの育ちへの支援をはじめ、親子関係への支援、家族と地域や社会資源を結びつけ、援助を行う。家族援助に関わる法制度と子どもと家族を支援するサービスを学び、実際の家族援助の現状と課題について理解する。	
	保育相談支援	本科目では保育実践を踏まえた、保護者に対する相談支援の意義と方法について、理解を深めさせることを目的としている。具体的には、ロールプレイングなどを用いた体験的な学習、実践事例の検討などを通して保護者に対する保育に関する指導の意義と原則について認識を深め、保育実践における保護者への相談・助言の具体的な援助方法について体得させ、保育所等児童福祉施設における保護者支援に関する実践的な援助能力の向上を図る。	
	保育表現演習Ⅰ	「子どもにとって必要な、表現活動の在り方を探る」をテーマに、保育現場で必要な表現技術を培うとともに、様々な立場の子どもにとって、無理なく行える表現活動の企画・立案・内容・方法を実践的に学ぶ。保育表現演習Ⅰ・Ⅱを通じて、生活発表会・季節の行事等、保育現場の表現活動に必要な技術と企画力を培い、現場に即応する力を身に着けるとともに、子どもの表現活動を援助する方法・子どもが共感し、協同して進める表現活動の在り方を学ぶ。必要に応じて、学外発表を行う。	共同
	保育表現演習Ⅱ	保育表現演習Ⅰに引き続き、「子どもにとって必要な、表現活動の在り方を探る」をテーマに、保育現場で必要な表現技術を更に深め、活動を展開するための方法を学ぶ。音楽・造形・身体表現を融合し、子どもたちが楽しみながら無理なく行える表現活動を考え、実際に演じてみることにより、活動をプロデュースする力を身に着け、子どもの反応を予測しながら、様々な立場の子どもが活動に参加できる方法を学ぶ。必要に応じて、学外発表を行う。	共同
	保育心理学演習	この科目は、子どもの心身の発達と保育実践、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程、保育における発達援助について学ぶことを目的としている。具体的に、子ども理解における発達の把握、個人差や発達過程に応じた保育、身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用、環境としての保育者と子どもの発達、子ども相互のかかわりと関係作り、自己主張と自己統制、子ども集団と保育の環境、子どもの生活や遊びと学び、生涯にわたる生きる力の基礎、また、これらと発達援助の考え方を演習形式で隔週する。	
	保育原理	社会の変化により、幼稚園・保育所に求められる役割も多様化している中で、健全な子どもたちの育ちを担うため、保育者として、まず、保育の意義や目的、保育の歴史と現状、幼稚園教育・保育所保育の原理と内容について理解する。さらに、子どもの発達とその過程に応じた保育の内容について学ぶ。また、乳幼児の生活実態を把握し、保育所保育の計画の基本、保育士と幼稚園教諭としての資質とその役割・任務および園と家庭や地域との連携のあり方について習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 幼保共通科目	保育者論	<p>本科目は、現代社会における保育者の仕事と役割、それを遂行するための専門性について理解し、保育者になるための見通しや課題意識を持つことを目的とする。子育てにかかわる社会的文化的環境が大きく変容した今日、保育者の仕事は、一般に考えられているよりもはるかに高度な専門性を必要とする仕事となっている。そのことを、幼稚園や保育所の実際に即して学んでいくことを通して、保育者になろうとしている自分が具体的に何をなすべきかを意識化できるようにする。</p>	
	保育実習指導Ⅰ－１	<p>実習の事前指導として、保育所実習の意義・目的を理解させ、保育所実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、実習における学習内容や自らの課題を明確にさせる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、さらに、実習における観察、記録、計画、実践、評価の方法や内容、保育士の職務について、具体的に理解させる。</p> <p>実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行うことにより、個々の課題や今後の学習目標を明確にさせる。</p>	
	保育実習指導Ⅰ－２	<p>この科目は、保育所以外の児童福祉施設実習にむけて、次の内容を学ぶことを目的としている。施設実習の意義・目的を理解する。児童福祉施設の実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。児童福祉施設の実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>	
	保育実習指導Ⅱ	<p>これまでの実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。保育所における保育を実際実践することを目指した保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、実習における学習内容・課題を明確にさせる。その上で、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して、実習における個々の課題を見出し、さらに、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識、今後の学習目標を明確にさせる。</p>	
	保育実習Ⅰ－１	<p>保育所の役割や機能を具体的に理解するとともに、子どもの観察や子どもとのかかわり、記録を通して、子どもの発達過程や子どもへの援助、かかわりの理解を深め、子どもの発達過程に応じた保育内容や子どもの生活や遊びと保育環境、子どもの健康と安全について学ぶ。さらに、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解するとともに、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。また、保育士の業務内容や職業倫理、職員間の役割分担や連携について具体的に学ぶ。</p>	集中
	保育実習Ⅰ－２	<p>この科目では、児童福祉施設実習（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、児童発達センター）を通して以下の内容を学ぶことを目的としている。児童福祉施設等の役割や機能の理解、観察や子どもとのかかわりを通じた子ども理解、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的な理解、保育の計画、観察、記録及び自己評価等についての具体的な理解、保育士の業務内容や職業倫理に関する具体的な理解である。</p>	集中
	保育実習Ⅱ	<p>保育所における保育を実際実践することを通して、保育所の役割や機能の理解、保育士としての必要な保育技術の習得、子どもの個人差についての理解とその対応、発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズの理解とその方法や対応、観察記録、指導計画の立案と実践能力、自己評価等を習得させる。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、支援者としての能力を養うとともに、保育士としての自己の課題を明確化する。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 幼保共通科目	児童福祉論	子どもが心身ともに健やかに生まれ、育っていくことができるために必要な子どもの福祉についての学びを行う。そのためには、子どもとその家族の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や子育て、ひとり親家庭、児童虐待およびDVなどせの福祉需要について理解する。さらに、子どもと家族の福祉制度の発展過程についての理解や子どもの権利について理解し、相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解を深める。	
	現代社会と福祉Ⅰ	「現代社会と福祉」の主たる目的は、社会福祉の政策及び原理と哲学を学ぶことにあるが、本講義はこれらと併せて社会福祉の入門的性格をもっていることから、社会福祉の全体像を理解することに重きを置いている。具体的には政策を中心にしながら、①諸外国も含む社会福祉の歴史について学び、②現代社会における社会福祉の意義を考え、最後に社会福祉の今日的課題について、様々な社会問題との関わりで理解する。	
	現代社会と福祉Ⅱ	本講義では「現代社会と福祉Ⅰ」で得た社会福祉の基礎的理解に立ち、政策と原理・哲学を中心に学ぶ。まずは、福祉政策のニーズと資源、構成要素（福祉政策における政府、市場、家族の役割等）を学び、加えて福祉政策に関わる諸政策（教育政策、住宅政策など）を概観する。これら政策への理解を深めた上で、それらと相談援助活動との関係を理解する。最後に、福祉原理と哲学について欧米における理論動向も踏まえながら理解を深める。	
	地域福祉論Ⅰ	子どもから高齢者、障がい者、生活困窮者など様々な人の生活基盤である地域で起きている現代社会の多様な生活問題、福祉問題について理解したうえで、それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安心・安全に暮らしていける地域社会を構築していくために、どのような支援や活動が必要なのかを学ぶ。そのために地域福祉の概念や理論の歴史的展開・社会的背景、地域福祉の推進機関、活動の現状や課題を学び、地域に根差した福祉について理解する。	
	相談援助演習Ⅰ	本演習は、相談援助にかかわる知識と技術を実践的に習得することを目指す。前期は、自己覚知、専門職としての価値・倫理、相談援助の過程を学ぶ、また、事例分析を行い、多様な専門職との連携、社会資源の活用・調整・開発について理解を深める。後期は、面接における基本的応答技法を習得し、人の心・気持ち・行動について理解を深めることを目標とする。そして、クライアントのニーズや課題を把握し、支援計画を作成できることを目標とする。演習の方法はグループワークを中心にロールプレイや事例検討等の体験学習を重視する。	
	社会的養護	児童の養護は家庭養護と社会的養護が連携されていることで、子どもの発達が保証される。そこで、社会的養護の施設養護のあり方を中心に、歴史・制度・実態、施設養護の児童処遇や施設の運営や管理、これからの課題について学ぶ。具体的には施設養護において、一人ひとりの児童の権利が守られ、その正常な成長・発達を保証し、援助することのできる知識、技術の理解と児童観、施設養護観の醸成を図るとともに、児童福祉施設の運営・管理、児童養護における今後の課題について理解する。	
	社会的養護内容	本科目では演習を通して、児童養護施設をはじめとする保育所以外の児童福祉施設において児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を修得させるほか児童観や施設養護観を養う。具体的には、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理、施設養護及び他の社会的養護の実際、支援計画作成、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の具体的内容、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術、社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めるといったことを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 学科共通科目	ピアノ実技	「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場に必要な童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法、音楽理論を習得する。童謡・手遊びうた・季節の歌・行事の歌・わらべうたを中心とした課題に取り組み、現場に即したピアノ技術（コード奏、リズム変奏）、現場に必要な音楽理論を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ちなどに取り組み、最終授業で、ピアノ実技テスト、講評、まとめを行う。	共同
	音楽Ⅰ	「ピアノ実技」で習得した技術をもとに、子どもに音楽の楽しさと、表現する喜びを伝えるために必要なピアノ技術・歌唱の技術を習得する。弾き歌いを中心とした課題を行う。音楽理論の理解度を確認するための小テストを適宜行う。具体的な方法・目標は、①ピアノ教則本を弾き進める。②弾き歌いのレパートリーを10曲以上にする。③リズム活動を経験する。④表現豊かに弾き歌いを行う。グループレッスンの形態で授業を進め、最終授業で、ピアノ実技テスト、講評、まとめを行う。	共同
	音楽Ⅱ	「音楽Ⅰ」で習得したピアノ技術の応用を図り、弾き歌いのレパートリーを増やす。複数の鍵盤楽器や、他の楽器を使用したアンサンブルを行うことで、他者とともに演奏する喜びを感じる。物語を音楽で演出するなどの方法で、表現の幅を広げ、楽しい音楽活動をプロデュースできる保育者・教育者を目指す。グループレッスンと個別レッスンを交互に行い、リズム活動・アンサンブルの経験を重ねる。音楽理論の理解を確実にするために小テストを行い、最終授業でピアノ実技テスト・講評・まとめを行う。	共同
	音楽Ⅲ	「音楽が子どもの成長発達において果たす役割を知る」をテーマに、現場に必要な歌唱技術やピアノの伴奏方法を習得し、深める。童謡・手遊びうたを、保育の様々な場面で演奏することを想定し、「子どもの成長段階を踏まえた演奏方法」を考える課題に取り組み、それに必要な歌唱・伴奏技術を習得する。また、弾き歌い、合奏、キーボードアンサンブルに取り組み、授業内発表を行う。最終授業でピアノ実技テスト・講評・まとめを行う。	共同
	図工Ⅰ	図画工作科が担うべき役割とその目指すところ、各領域の内容の概要について学習指導要領、教科書等から理解するとともに、その目標を具現化するための方法について、美術と教育の本質から考える。そして、各領域の内容に関する教材研究や学校教育現場での実践例等について、講義、討論、演習、実習を通して学び、子どもたちが感性を働かせながら、「つくりだす喜び」を味わい、一人一人がそのよさを発揮しながら自らの思いを具現化するために試行錯誤したり、自分らしい見方を試みたりしながら自己実現を図るための図画工作科教育のあるべき姿を考察する。	
	図工Ⅱ	「保育所保育指針」に示された「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の具現化を図るため、子どもの造形活動についての理解を深めるとともに、造形の指導を行ううえで必要となる基礎的・基本的な知識や技能を習得する。また活動を通して、受講者自身が造形の楽しさや喜びを体験しながら、幼児教育における遊びや造形活動に関する指導や支援の方法を学びつつ指導力の素地を形成する。	
	体育Ⅰ	児童にとって意味のある「よい体育授業」を計画、実践するための基礎知識（体育科の基本的性格や内容論）等を理解する。体育科教育・スポーツ教育を取り巻く基礎的・制度的条件について理解する。教育の個別課題は以下のとおり。 ・生涯スポーツと学校体育について考察する。 ・体育を取り巻く制度・性格を理解し、学校体育の現状を把握する。 ・各運動領域の構造特性とねらいについて理解する。 ・体育授業の指導者になるという意識を持ち、授業に取り組む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 学科共通科目	体育Ⅱ	<p>幼児期における運動遊びのねらいと内容について理解する。心と体の健康維持・増進を重点におき、発達段階や安全に配慮した運動遊びに必要な基礎的技能を習得する。子どもたちの自主性・主体性を核とした運動支援方法の知識を深める。。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期～児童期の運動遊びの意義と役割について、理解する。 ・運動遊びの指導方法を学ぶ。 ・発育発達の特性に応じた安全管理を理解する。 ・子どもたちが主体的に活動できる運動遊びを創作する。 	
	環境教育	<p>環境問題は、現在人類共通の最重要課題の1つとなっている。それに応じて、環境教育は世界的視野から見て、ますますその必要性が高まっている。本授業では、講義に加え、学外学習や調べ学習・発表等、参加・体験型の授業を通して、環境問題の認識や環境教育の目的、指導法について実践的に理解することを目的とする。また、様々な学習活動では「学習者の視点」と同時に「指導者の視点」に立って、考察し、実践現場を意識した授業を目指したい。</p>	
	情報教育	<p>本科目では、学校教育現場における情報教育の内容と意義について理解を深める。高度情報化社会における情報メディアの特性と選択の意義を把握した上で、まず、情報活用の実践力育成の観点から、学校教育における、情報を収集・判断・表現・処理・創造・発信する能力の育成の意義について理解する。また、情報の科学的な理解の教育方法や、情報社会に参画する態度育成の観点から、情報モラルの問題や情報に対する責任性の問題について理解する。</p>	
	食と健康の教育	<p>健康な生活における食生活の重要性、意義や栄養に関する基本的な知識を学ぶ。 子どもの発育発達と食生活の関連、食育の基本とその内容および環境をについて理解する。また子どもたちの食生活の現状と課題について理解し、食育を実践する力を養う。教育の個別課題は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の子どもの食生活の実態と問題を把握する。 ・発育発達に応じた食や栄養に関する基礎的知識を身につける。 ・食育の実践的方法について、知識を深める。 	
	こども英語教育Ⅰ	<p>本科目は幼児及び児童低学年を中心にその特徴と指導法を学ぶものである。子供たちの年齢は言語習得に最も適した時期であり、楽しい歌やチャンツ、動作、活動を通じて、英語表現を覚えていく。本講座では、楽しく英語を教えると同時に、こども英語教育を高校3年生までの英語教育の基礎段階ととらえ、英語の総合的な運用能力の習得を目的とした英語教育法を学ぶ。楽しいだけでは終わらない言語教育を実践できる素養を養う。学校教育の枠にとられない幼児・児童のための英語教育法である。</p>	
	こども英語教育Ⅱ	<p>こども英語教育Ⅰでは、幼児・児童低学年を中心にその特徴と指導法を習得したが、本講座では、外国語活動等のビデオ授業を観察し、そこから具体的な指導法を確認し、実際に教育の現場で指導できるように、授業過程、指導方法、評価のあり方等を学ぶ。こども英語Ⅰと同様に、学校教育の枠にとられないこども英語教育法であり、卒業後、様々な場面で子供に英語を教えたいと考えている学生にも、また教育者としてもこども英語指導を考えている学生にも、資質の向上を促す。</p>	
	国際理解教育	<p>本講義は、子どもに視点をあて、国際理解教育について考察を行う。学校教育のなかで取りあげる人権、多文化、自文化などの内容を子どもとの関わりから迫っていく。特に、乳幼児教育・初等教育が世界の主な国でどのように行われているのかを具体的に学び、日本の教育状況を相対化して理解できるようにする。そして、国際社会のなかで多様な価値観があり、それらを認識することをおして国際理解教育への関心を高め、受講者が国際社会に活躍するための基礎的な素地を養うことを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 小学校科目	国語科指導法	<p>本科目は、確かな国語科の学力を身につけさせるための国語科授業の構成、実施、評価にかかわる実践的な知識、能力を養成することを目的とする。講義においては、国語科の各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）における教育内容を明らかにし、各領域における指導の側が知るべき授業用語や子どもが知るべき学習用語を学ぶ。また、各領域における授業実践の記録を分析する。その上で、教材研究、学習指導案の作成を行い、模擬授業を通して実践的な力量を養う。</p>	
	社会科指導法	<p>社会科の目標と学習指導要領変遷、社会科で育てる子ども像、社会科の授業のあり方について理解する。先人が行ってきた授業事例に学びながら、教材研究、単元づくりを行い、社会科の授業づくりと学習指導案の作成方法を理解する。さらに、模擬授業を実践し、授業内容と共に発問、板書についても理解する。また、授業中のノートの記述や発言、授業後のペーパーテストなどを活用した評価方法についても理解する。より、実践的な力を身に付けることを目指す。</p>	
	算数科指導法	<p>算数の概念より、小学校段階の児童の算数科の指導をどのように行うかを学ぶ。アクティブラーニングなどの指導の方法や教材の研究、情報機器・黒板などの教育機器や教具を使った指導なども踏まえ、算数的活動を基礎とした授業の展開を研究し、実践できるようにする。また、観点別評価や自己評価など算数科における学習評価の方法も学ぶ。具体的には、教材研究により授業案の作成を行い、学生同士の模擬授業により実践力を高め、児童目線で授業評価を行い内省を促し、よりよい授業づくりを行えるように学びを深めていく。</p>	
	理科指導法	<p>小学校における理科の目標及び内容、教授・評価方法について実践的に理解することを目的とする。授業の前半は、理科の教授・学習論、学習評価論を踏まえ、実践的な力を養っていくことをめざして、授業の組み立て方や学習指導案の作成方法について、具体的な演習や事例の紹介を通して解説する。後半は、前半の基礎理論を踏まえ、学習指導案の作成及び模擬授業を中心として授業を構成する。</p>	
	生活科指導法	<p>生活科の変遷、育てる子ども像、授業のあり方について理解する。先人が行ってきた授業事例に学びながら、教材研究、単元づくりを行い、生活科の授業づくりと学習指導案の作成方法を理解する。さらに、模擬授業を実践し、授業内容と共に発問、板書、評価についても理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(9 小川博士／7.5回) 主として生活科の目標と学習指導要領の変遷や内容構成についての講義を行う。そして、自然との係わりに関しての、学習指導案の作成、教材の開発、模擬授業の実施についての指導を行う。</p> <p>(14 大西慎也／7.5回) 主として生活科で育む子ども像、生活科における「気付き」と評価についての講義を行う。そして、社会とのかかわりに関しての、学習指導案の作成、教材の開発、模擬授業の実施についての指導を行う。</p>	オムニバス方式
	音楽科指導法	<p>講義において、小学校学習指導要領の「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」という小学校音楽科の目標を理解する。そしてそれに基づく指導案の作成、模擬授業などを通して、音楽科教育の流れを実践的、体験的に学ぶことを目的とする。グループによる音楽づくりと発表を行い、音楽会の計画・運営を学ぶ。バロック式リコーダーの実践と手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。リコーダーと筆記試験を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 小学校科目	図工科指導法	子どもたちが表現や鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人がそのよさを発揮しながら、自らの思いを具現化するために試行錯誤したり、自分らしい見方を試みたりしながら自己実現を図るための図画工作科の実践的な指導力を習得する。そのために、小学校学習指導要領の内容や教科の特質を踏まえつつ、各領域の題材の教材研究、学習指導案の作成、模擬授業とその分析等についての講義、討論、演習及び実習を通して、授業づくりの基礎を身につけ、具体的な指導法を学ぶ。	
	家庭科指導法	今日の家庭科教育の特徴と小学校家庭科が果たす役割について知るとともに、児童の実態をふまえた家庭科学習のあり方を、具体的な学習指導計画の作成を通じて実践的に検討し提案することができるようにする。 小学校家庭科で行われる実習的活動を体験し、その活動を通して理解した家庭科の特質を生かして授業を構想し、指導案作成と検討を行う。そして、その指導案を用いて模擬授業を行い、グループディスカッション等を経てより良い学習指導案とは何かを検討する。	
	体育科指導法	体育科の目標、学習内容、運動の特性などに関する基本的な知識について理解する。児童が熱中して運動に取り組む体育授業を実践する能力(教材の工夫・指導方法・授業計画)を養うことを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。 ・学習指導案の作成、学習カードの作成、発問の仕方等について理解する。 ・運動の苦手な児童に対する支援や助言の仕方について理解する。 ・指導案を作成し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。 ・模擬授業を評価することで授業の改善点に気づき、改善方法を理解する。	
	道徳の指導法	本科目は、道徳教育についての基礎知識を身につけ、その重要性についての認識を深めるとともに、教育活動全体で行う道徳教育と道徳の時間(道徳科)の目標の関係についての理解を深めていく。また、子どもたちの発達段階を踏まえた体系的なものに改善した道徳教育ができるよう、指導内容と指導方法を研究し、子どもの心に響く教材開発や道徳の時間(道徳科)の学習指導案の作成を行い、さらに模擬授業を通して具体的なスキルを身につける。	
	特別活動の指導法	兄弟姉妹の減少、仲間集団の縮減等により、現代の子どもたちには社会性、自己抑制、主体性等を発達させる集団の刺激が希薄になっている。学校における特別活動の持つ教育的意味が一層重要視されるのである。また、学校における特別活動は生徒指導と密接に関連しており、特別活動の充実には学校生活における子どもの問題行動の抑制に期待ができる。本科目では、教育課程における特別活動の位置づけ、目標と意義を明らかにし、具体的な教育場面で創意工夫をもって運営していく技術と能力を養う。	
	生徒指導・進路指導	学生自身が、これまで経験してきた生徒指導及び進路指導を振り返り、それらに関する理論を踏まえ、課題について具体的な方法を考えるようにする。生徒指導については子どもの権利条約の趣旨に基づき、いじめ、不登校、体罰、虐待問題などを取り上げ、具体的に対応する方法を検討する。進路指導については、雇用関係など社会の変化を踏まえつつ、キャリア教育の政策動向や各学校での実践をとりあげ、キャリア教育の進め方について考えるようにする。	
	社会	小学校社会科で扱う内容である、地理的分野、歴史的分野、公民的分野に関する講義を行う。社会諸科学の最新の研究成果を組み込むことで、学生自身が習得している概念の修正を図る。また、社会認識が空間軸・時間軸・社会軸に応じて形成されることを、それぞれの分野の講義において事象を探究し理解する。そのことにより、社会の見方を身に付ける。さらに論争問題について考えることで、社会の考え方についても身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 小学校科目	理科	<p>小学校理科の学習内容は、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の4領域から構成されている。本授業では、それら学習内容についての基礎的な知識や教材・教具についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、講義とともに、観察・実験活動やものづくりを行う予定であるため、積極的な参加が求められる。また、理科指導法へつながるよう、学習内容に関わる具体的な指導場面の実際についても適宜紹介する。</p>	
	書写	<p>幼稚園・小学校教員免許状の取得を目指す者、書写能力の基礎を養うことを目標とする。硬筆と毛筆の両面にわたって、実技・技能とその理論、書写指導の能力をさらに高めるとともに、いろいろな立場から、さまざまな変化と調和に伝統的な言語文化と国語の特質を支える文字教育の一環としての書写教育、単に教員養成のためではなく、広く小学校教育現場における指導力強化のため、さらに、社会教育、あるいは自己学習としても活用できるように、新たな機軸を追求する。</p>	
	家庭	<p>小学校家庭科で取り扱われる学習内容の特徴を理解し、基本的に必要となる内容について知識を深めるとともに、基礎的な技能を使った実習にも取り組み、日常生活において生活の主体者として家庭科について考えることができるようにする。</p> <p>家庭科の構成について学んだあと、学習指導要領で定められる4つの領域について、それぞれ数回に分けて主な内容について指導者として知るべき内容について講義や実習を行う。</p>	
	小学校英語教育 I	<p>本科目では、小学校での英語教育必修化の背景、言語習得の基礎理論や教授法について理解し、小学生に適した指導法について基礎的な実践力を身につけることを目標とする。</p> <p>2011年度より小学5、6年で外国語活動が必修となった。2020年度からは5、6年で英語が教科になり、3、4年で外国語活動が必修となる。小学校英語、外国語活動を指導できる人材が今後益々必要となる状況の中、担任として、英語専科教員として、または地域人材として、小学校外国語活動を指導する素地を養う。</p>	
	小学校英語教育 II	<p>「小学校外国語活動の模擬授業に挑戦」をテーマとし、小学校現場で外国語活動の指導ができるために最低限必要な実践力の基礎を身につけることを目標とする。</p> <p>小学校英語教育 I で学んだ第2言語習得理論、小学校英語教育における効果的な教授法や指導法を基に、この科目では、年間計画の立て方や授業の進め方、学習指導案の作り方等実際に授業を行う為に必要な事柄を学び、模擬授業を行う。小学校英語教育 I と II の学びの積み上げにより、小学校現場で外国語活動の指導ができる基礎を身につける。</p>	
	総合的な学習の指導法	<p>「総合的な学習」導入の背景、ねらいについて、学習指導要領の変遷に基づいて学習する。その上で、以前から行われてきた、「総合的な学習」に近い取り組みについて検討する。代表例として明石女子師範附属小の及川平治の理論と奈良女高師附属小の木下竹次の「合科学習」の開発したカリキュラムを取り上げる。また、戦後新教育に取り組みされたコア・カリキュラム論についても取り上げ、「総合的な学習」の意義について考える機会を設ける。その後、現在の「総合的な学習」のカリキュラムについて理解し、それに基づいた、学習指導案の作成方法、評価の在り方について学習をすすめる。</p>	
	アクティブラーニングの指導法	<p>主体的に参加したメンバーが協働体験を通じて学習し創造を生み出す場を作るために提案された様々な手法を実際に体験する。受講生の学習歴などにもよるが、方法としては、アイスブレイク、チームビルディング、ワールド・カフェ、アクション・ラーニング、ファシリテーション・グラフィック、タブレットPC・ミーティング、ポスターセッション等を実際に行い、考えをより多く出す場合、多くの異なる考えの中から合意を形成する場合等、実体験の中からそれぞれの手法の特徴を知る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目	学習デザイン論	学習者が協働体験を通して学習し創造を生み出す場を作るために、いかにチームを作り、プログラムを作り、ファシリテーターを設定するのかを学ぶ。使用する手法としては、アイスブレイクの方法、チームビルディングの方法、ワールド・カフェの方法、アクション・ラーニングの方法、ファシリテーション・グラフィックの方法、タブレットPC・ミーティングの方法、ポスターセッションの方法等の中で、その中から適切な方法を用い、より楽しくて全員参加の学習活動のデザインの方法を学ぶ。	
	初等教材開発論	教育における教材の意味、教材開発のありかたを、戦後新教育のコア・カリキュラムにおける子どもの生活に根差した教材開発例を参考に、理解する。さらに、小学校教育においては、地域素材が重要であり、地域素材を活かした教材開発をフィールドワークに基づいて行う。その上で、地域素材を活かした、子どもの生活に根差した教材開発の重要性を理解する。実際に教材開発を行うことにより、理論だけでなく、実践を伴った力を育成することをねらいとする。	
	小学校表現活動論	子どもの様々な表現活動における援助・教師の役割を実践的に学ぶ。造形活動・音楽活動・身体表現などの企画・立案を行い、劇遊びやプロジェクト活動等を通し、総合的に表現する活動の方法を習得する。また、「児童が活動の中で課題を見つけ、自ら探究する力」「表現活動を他者と協同して行う際に必要な、問題を解決する力」を、活動の中で児童が身に付けていくための方法、支援の必要な子どもも含め、表現活動を協同して行うための方法、児童の主体的な表現活動を支える方法について学ぶ。	共同
	消費者教育	消費者を取り巻く環境は年々変化し、消費者被害が増加の一途をたどっている。同時に消費者被害の対象は広範囲に及び、問題が複雑化・多様化し、その結果、国民生活に不安をもたらしている。本講義では、消費者問題の歴史、消費者被害の実際、消費者行政・制度等について講義やDVDの視聴を通して理解する。また、消費者としての意思決定プロセスにおけるバイアスや情報の影響に気づくとともに、一人一人が適切な「選ぶ力、決める力」を身につけるための方策を考え、消費者としての態度を身につけることを目的とする。	
	子ども情報リテラシー	近年の子どもを取り巻く情報環境は大きく変化を遂げている。その現状に迫り、いま子どもたちがおかれている現状を概観し、教育・保育の場面でどのように情報に接していけばよいのかを考えていく。また、子どもをとりまく保護者や大人への対応も学んでおく必要がある、さらに情報に対する正しい知識も必要とされる。情報モラルや情報を活用する力の育成方法も検討し、これからの情報社会に資することの育成に必要な事柄を多面的に学び、アクティブラーニングなどに生かしていく。	
	子どもの読書とメディア	この科目では、現代の社会状況や文化的背景を踏まえて、日本国内外における子どもの読書の現状とその課題、読書推進のための取り組みやハンディキャップのある子どもたちへの読書支援の方策について学ぶ。また、子どものための本の出版状況についてその概要を知った上で、児童文学とその映像化作品を具体的に分析することを通して、子ども向けの文学作品について学ぶ。さらに、社会的な課題ともなっている、子どもとゲーム・SNSなどメディアの関わり方についても探り、主体的な問題意識を持つようにする。	
	特別支援教育基礎理論	平成19年4月に、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実するようになった。この特殊教育から特別支援教育への変換は、教育の歴史においても大きな意味を持っている。本講座では、特別支援教育の動向について、歴史的な視点も含めて捉えていくことで、特別支援教育の理念について理解を深める。特別支援教育を進めるにあたって必要な、制度、指導法についての基礎的な理解をする。	
特別支援科目			

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目 展 開 科 目 特 別 支 援 科 目	知的障害者の 心理・生理・病理	<p>知的障害のある子供の脳の構造と機能を学び、そこから知的障害児を理解するために、引き起こされる具体的な原因疾患について言及する。また、代表的な疾患に加えて、知的障害の定義と分類を概説する。知的障害児の発達は全般的な知的発達の遅れだけではなく、身体・運動、知覚、学習、情緒、言語コミュニケーションなどあらゆる領域において、生活上、学習上の困難がみられることから、その特性を概説し、指導や支援を考えるための基礎的な理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(③ 東道 伸二郎／8回)</p> <p>知的障害のある子供のこころと行動を、脳の発達とその障害から理解する。まず脳の構造と機能を脳の発生・発達の過程から捉える。そして、知的障害を引き起こす原因を出生前、周産期、出生後の3つ時期から整理する。その上で、脳の発達の障害による主な症状を、「知能の障害」「運動の障害」「てんかん」から理解する。さらに、脳の可塑性を取り上げ、知的障害のある子供のこころと行動の発達と社会生活への適応についても理解を深める。</p> <p>(⑫ 丹羽 登／7回)</p> <p>本講義の後半は、知的障害のある子供を理解するために、知的機能の検査や適応行動の理解について、その基礎となる知識や技能の理解を深める。また、その心理の特性の理解とそれをふまえた援助や、知的障害児の心理的特性や発達をふまえた教科、自立活動等の指導について、さらに、将来の社会参加と自立に向けて、知的障害児の人間関係の形成や社会性の発達に関する行動理解と支援についても、特別支援学校で行われている教育実践の事例を通して基礎的な理解を深める。</p>	オムニバス方式
	肢体不自由者の 心理・生理・病理	<p>特別支援学校に在籍する肢体不自由のある子供の実態として、重度知的障害と運動障害を併せ有する重度・重複化が進んでいる。まず、肢体不自由の原因となる疾患・筋骨格系と調節する神経などの構造や仕組みなど、生理学的な特徴を学び、事故などによる外傷なども含め、その原因となる疾患や病理面の知識について理解を深める。重度・重複障害についても言及する。その上で、生理・病理に応じた個別対応や、運動、情動、認知、言語等の発達に関する心理的な面について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 特別支援科目	病弱者の心理・生理・病理	<p>病弱教育に携わる教員が子どもを理解するために必要な医学的知識、心理等を概説する。 教員として病弱児へのアプローチをどのようにすべきかについて考える。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 萩原 暢子/5回) 病弱者として、慢性呼吸器疾患、腎臓疾患、神経疾患、悪性新生物その他の疾患や身体虚弱の状態について、医学的な疾患の知識を学ぶために、まず生理面と病理面からアプローチして理解を深め、その後臨床的な側面について言及する。</p> <p>(② 萩原 暢子・③ 東道伸二郎/3回) (共同) 病弱者の生理と病理のうち特に小児がん、代謝性疾患、精神疾患について、臨床の事例にも触れつつ学ぶ。</p> <p>(③ 東道 伸二郎/7回) 病弱者の生理と病理を理解し、その上で、自宅や学校から離れて病院に入院し、治療や生活に制限が加えられることなどが、子どもの心の有様にどのように影響するかについて理解する。さらに、病気の子もだけでなくその子を取り巻く家族への影響についても考える。緩和医療の対象となっている子どもについても考える。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	知的障害者教育論Ⅰ	<p>特別支援学校(知的障害)における教育課程の編成とその基本的な構造について理解するとともに、特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のある子供の教育に必要な基礎的な知識を習得する。 特別支援教育における知的障害のある子供に対する教育の基本的な考え方と特別支援学校における教育課程の編成と基本的構造を概説する。知的障害教育における基礎・基本的な知識を理解することで、子供一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育課程の編成力と実践力の基盤を養う。</p>	
	知的障害者教育論Ⅱ	<p>知的障害のある子供への指導・支援に必要な知識と技能を習得し、個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した教材・教具の作成と、学習指導案の作成と模擬授業の演習を行い、指導・支援のための理論と方法を学ぶ。 知的障害のある子供の特別な教育的ニーズに応じた個別の指導計画と個別の教育支援計画を活用したコミュニケーション指導のための教材・教具の作成演習や学習指導案作成から模擬授業の演習を通して、授業実践について学ぶ。</p>	
	肢体不自由者教育論Ⅰ	<p>特別支援学校(肢体不自由)における教育課程の編成とその基本的な構造について理解し、特別支援学校が地域で担う役割と、教育実践のための基礎的な知識を習得する。 肢体不自由のある子供に対する教育の基本的な考え方と特別支援学校における教育課程の編成とその基本的構造を概説する。肢体不自由教育における教育課程の特徴、指導及び実践の基本を理解することで、特別な教育的ニーズに応じた教育課程の編成力と実践力の基盤を養う。</p>	
	肢体不自由者教育論Ⅱ	<p>肢体不自由のある子供への指導・支援に必要な知識と技能を習得し、個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した教材・教具の作成演習と、実際の授業実践の事例から、指導・支援のための理論と方法を学ぶ。 肢体不自由のある子供の特別な教育的ニーズに応じた個別の指導計画と個別の教育支援計画を活用したコミュニケーション指導のための教材・教具の作成演習や様々な授業実践事例を通して、指導・支援の理論と方法を学ぶ。</p>	
	病弱者教育論Ⅰ	<p>病気はその子にとって突然起こることが多く、急な入院とともに、その後長期にわたり医療や生活上の様々な規制が必要となってくる。何の準備もなく、起こったこの事態に子どもたちは、多くの不安を抱いてしまう。本講座では、病院に入院した中で病弱の子どもたちを支える教育システムを概説する。病気やその治療のために様々な制限のある中で学習保障や病氣理解、心理的なケアなどの支援をどのように行うかについて理解する。また退院後のフォローアップや義務教育ではない高校生への支援についても考えていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開科目 特別支援科目	病弱者教育論Ⅱ	<p>病気により病院に入院している子どもたちに対して教育の立場からのアプローチすることが、治療そのものにも好影響を及ぼしている事実がある。病気であることにより様々な制限が加えられているからこそ、教育の持つ意味合いが重要になってくる。本講座では病気やその治療のために通常の教室と異なり、様々な制限のある中で学習保障や病气理解、心理的なケアなどの支援を行える力量を養う。また病気の子どもの家族への支援の在り方についても理解する。子どもが亡くなる事実に際して、回りの子どもや指導者のケアについても考える。</p>	
	視覚障害者の心理・生理・病理	<p>視覚障害教育に携わる教員が子どもを理解するために必要な医学的知識、心理等を概説する。 教員として視覚障害児へのアプローチをどのようにすべきかについて考える。 視覚障害の基礎知識（生理と病理など）、そして心理状態について理解する。その理解に立って、個々の障害が学校生活にどのような影響を与えるのか、それに対する特別な教育的支援の配慮はいかなるものが可能であるかについて理解する。さらに、特別支援学校、特別支援学級、通常学級での、心理等のケアの方法の違いなどを学ぶ。</p>	
	聴覚障害者の心理・生理・病理	<p>人と人が意思疎通するときに、音声言語を介して行われることが多い。その音声を取り入れるのに聴覚が大きく関わっている。聴覚に障害があるということは、他の人が言っていることがわからないという状態であり、人と人のコミュニケーションに障害があると捉えることができる。本講座では、聴覚障害の生理と障害を起す病理を基礎的な知識として押さえたうえで、心理面や学習面に対する影響を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全7.5回)</p> <p>(③ 東道 伸二郎／4回) 聴覚障害の生理・病理について、医学的な知識の基礎を学ぶ。伝音系と感音系の種類の違い、その各々に応じた子どもの聞こえ、聴力検査、補聴器や人工内耳による聴力保障などについて理解する。</p> <p>(⑤ 江川 正一／3.5回) 聴覚障害をコミュニケーションの障害と捉え、聴覚障害の心理、生理、病理についての理解のもとに、聴覚障害がコミュニケーション、社会生活、言語発達や学習等に及ぼす心理面への影響について考える。</p>	オムニバス方式
	視覚障害者教育論	<p>視覚障害に関して、その教育方法、教育内容等について講義と体験を通して理解する。視覚障害教育における教育課程と学習指導要領、発達段階に応じた指導上の留意事項、自立活動（歩行、点字、視覚補助具等）の指導、キャリア教育等に関する知識や技能等について理解を深める。そして、特別支援学校、特別支援学級、通常学級での、実際の授業のための指導案の作成、模擬授業等を複数回行うことで、教育実習が充実したものになるように実践力を付ける。</p>	
	聴覚障害者教育論	<p>聴覚障害は子どもの学習上、社会生活、心理などその子どもの多くの面に影響を及ぼす。それに対して適切な指導を行うことにより、障害の影響を少なくすることができる。本講座では、聴覚の障害が及ぼす困難を主体的に改善・克服することために設けられた自立活動の指導として聴覚学習、発音指導、言語指導の内容を理解し、指導できる力量を養う。また、教科学習や学級における配慮などについて考え、実践できる素地を作る。さらに、これらを支える教育システムや教育課程編成の基本的な考え方について理解する。</p>	
	障害者教育課程論	<p>特別支援教育は、特別支援学校だけでなく、小・中学校の特別支援学級や通常の学級など、全ての学校で行うこととしている。本授業では、特別な教育的ニーズのある子供の理解を深め、その指導や支援に関する基本的な知識と技能を習得することを目標とする。 我が国の特別支援教育に関わる教育制度、教育法規等を概説し、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導に関する基礎的な理解を深めることで、特別な教育的ニーズのある子供の理解と教育の概要について知る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目	特別支援科目	LD等教育総論	文部科学省の調査によると普通学級に在籍する発達障害の可能性のあるとされた児童生徒の割合が6.5%である。この割合はどの学級にも発達障害の可能性のあるとも言える。本講座では、普通学級に在籍する言語障害、LD、ADHD、自閉スペクトラム等の発達障害、また、重度重複障害の病理、生理、について概説し、その障害特性との関係で支援の方法について理解する。また二次的な障害として不登校になる児童生徒についても理解する。	
		特別支援学校教育実習 事前事後指導	事前指導では、実習を円滑に進めていくための知識として、知的障害者・肢体不自由者・病弱者の心理的・身体的特徴を確認するとともに、その特徴に基づいた指導法を再度確認する。また、視覚障害・聴覚障害・重度重複・LD等の幼児・児童等の心理的・身体的特徴及び指導法も確認する。そして、教員の服務について理解を深め、教育実習における学習内容・課題を明確にする。また事後指導では、実習体験の自己評価を通して自らの子供観・特別支援教育観を新たにし、教師となる自覚を高め、新たな自己課題を見出す契機とする。	集中
		特別支援学校教育実習	履修した特別支援教育に関する知識・技能を基に、教育現場で児童の育成に直接携わることを通して、教育の意味や内容、方法を学ぶ。また、教師としてのものの見方、考え方、豊かな心情、専門職としての資質や能力を身につける。 ・特別支援教育を実践している学校の特質を理解する。 ・児童生徒に対する理解と教育方法及び教師の姿勢を理解し、獲得するための機会とする。 ・児童生徒の教育に対する教育理念や教師の使命を身につける機会とする。 ・特別支援教育を行うにあたっての自己の課題を見い出す契機とする。	集中
	専門教育科目	関連科目	心理統計法Ⅰ	多くの心理学の実証的研究では、量的なデータを扱うため、心理統計の基礎知識を身につけることが、研究を行う基本となるだけでなく、今までに得られた研究成果を正しく理解する上でも不可欠となる。本授業では、心理統計法の基本的な考え方を理解し、記述統計の基礎的知識を身につけることを目標とする。そのために、まずは統計的考え方を日常生活での具体例から理解し、尺度水準、データの代表値、図表化、散布度などに関しては、練習問題を解くことを繰り返すことによって理解を促す。
心理統計法Ⅱ	記述統計と推測統計の違いについて理解し、母集団からサンプルを抽出する具体的な方法について学ぶ。統計的仮説検定の基礎的な用語や考え方については、適宜、具体例を示し、理解を促す。データの標準化および正規分布を利用した基礎統計、相関および連関に関する分析についても練習問題を通して、実践的な力を身につけていく。最後に心理統計法全体のまとめを行い、2年次以上で履修する、より高度な統計的知識や方法の学びの基盤を確かなものとする。			
基礎統計学	この科目では、主として、データ分析に必要とされる統計の基礎的理解を目標としてとして学習することを目的としている。具体的には、1変量データの数値表現（代表値、散布度、分布の形状など）、2変量データの数値表現（属性相関係数、順位相関係数、積率相関係数、直線回帰式など）、三変量データの数値表現（偏相関係数、重相関係数など）、度数分布表と図による表現（度数分布表、クロス集計表、ヒストグラム、散布図など）などである。			
推測統計学Ⅰ	心理学を学ぶ上で、科学的な方法論を修得することは必須であり、様々な諸問題に対し、数量的なデータを得、統計解析を行い、意味のある情報を得ることが求められる。推測統計学Ⅰでは、「心理統計法」で修得した記述統計を復習しながら、推測統計における統計的仮説検定の考え方および具体的な手順について概説する。後半には、代表値や散布度の算出および図表の作成方法を学び、さらに二つの変数の関係（相関係数、 χ^2 乗検定）について統計的仮説検定を実際に進め、各手法の意味や使い方について理解することを目指す。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 関連科目	推測統計学Ⅱ	心理学を学ぶ上で、科学的な方法論を修得することは必須であり、様々な諸問題に対し、数量的なデータを得、統計解析を行い、意味のある情報を得ることが求められる。推測統計学Ⅱでは、統計的仮説検定の復習を行いつつ、心理統計の中でも基本的な分析となる、2平均値の差の検定（独立した2群のt検定・対応のあるt検定）、分散分析（一要因分散分析・二要因分散分析）を概説し、各手法の意味や使い方について理解することを目指す。	
	介護等体験	特別支援学校や社会福祉施設における介護等体験を通じて、個人の尊厳や社会の連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図り、義務教育の充実を期することを目的としている。事前指導では、介護等体験で何を学ぶのか目的意識を持つことを目指す。そのために、特別支援学校や社会福祉施設の法制度や事業内容、子供や利用者との関わりについて学ぶ。事後指導では、介護等体験で学んだことを振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。	集中
	学校経営と学校図書館	教育、学校教育、学校経営といった視点から、学校図書館について考え、学校図書館と学校図書館職員の使命・機能を総合的に理解することを目指す。学校図書館の運営・管理にあたる司書教諭の任務と役割について、学校図書館職員や地域との連携についても触れる。(1)教育および学校教育における学校図書館の意義、(2)学校図書館の使命・機能、(3)学校図書館職員の使命・役割、(4)学校経営における学校図書館の位置づけ、の4つを教育・学習の個別課題とする。	
	学校図書館メディアの構成	学校図書館の役割には、「学習情報センター」、「教材・教育情報センター」、「読書センター」の三つがある。司書教諭はこれらの役割を学校図書館の機能として展開していくことが期待されている。本科目では、多様な学習環境において「学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成」を目的とする。具体的には、学校図書館のコレクション構築、情報メディアの組織化がその主題である。「学校図書館メディアとは何か」「学校図書館メディアの選択」「学校図書館メディアの組織化」を個別課題とする。	
	学習指導と学校図書館	学校図書館は、学校における教育・学習の重要な支援機関である。具体的には、どのような支援を行うのか、また、情報の溢れる現代社会の中で新たにどのような役割が求められるようになるのかを学ぶ。 1. 学校教育・子どもの学習において学校図書館が果たす役割を学ぶ。 2. 現代社会において求められる情報リテラシーの獲得に、学校図書館がどのような支援を行うことができるかを米国の学校図書館基準などをもとに考察する。 3. 学校図書館を活用する教科学習の具体案を作成する。	
	読書と豊かな人間性	子どもが成長していく過程において読書がどのような意義を持つかを考察する。また、子どもが読書の楽しさを知るために、学校図書館はどのような役割を果たすことができるかを、実習を交えながら学ぶ。 1. 子どもの読書能力と読書興味の発達段階を学ぶ。 2. 子どもの読書の意義についての考え方の変遷を把握する。 3. 読書に関する学校図書館の重要なサービスについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。 4. 読書に関する日・英・米の行政施策や民間の取り組みについて学ぶ。 5. 子どもの読書や文化を取り巻く問題点について考察する。	
	情報メディアの活用	学校図書館の役割には、「学習情報センター」、「教材・教育情報センター」、「読書センター」の三つがある。司書教諭はこれらの役割を実現するキーパーソンとなることが求められる。本科目では学校図書館におけるメディア活用能力を身につけ、さらに生徒を指導する能力を獲得することを目標とする。(1)司書教諭としての必要な各種メディアの現状、特性、活用等について学習する、(2)あわせて関連法規、情報倫理についても学ぶ、の2つを教育・学習の個別課題とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	こども教育演習	<p>教育学・保育学等に関する研究論文・文献や教育現場で行われている実践事例を読み、各自が関心あるテーマを積極的に研究し、報告・研究・発表・討論を重ねながら、研究資料の集め方、研究資料の整理の仕方、文献の引用の仕方、具体的な文書作成法、及び効果的なプレゼンテーションの方法などを身につける。また、1年次で学んだ「基礎統計学」と2年次で学んだ「推測統計学」について、アンケート調査などでどのように研究に使うのかについても実際の研究論文を通して学修する。</p>	
	卒業論文	<p>学生生活の総仕上げとして、1年次から学んできた教科に関する科目、教職に関する科目及び教育実習等を踏まえ各自が興味・関心を踏まえ研究課題を設定する。多くの先行研究の検索し、論理的な研究、実証的研究などを十分に踏まえる。その際、文献研究だけではなく、自己の教育実習の研究授業を振り返る授業研究・学習者研究、及びアンケート調査を用いた心理調査など研究課題にあった研究方法で課題に取り組む。また完成後は研究の結果を相互に発表し合い、意見交換をし、研究の意義等を再確認する。</p> <p>(① 工藤 哲夫) 国語科教育、カリキュラム及び教育方法に関する課題などについてとりあげる。</p> <p>(④ 神月 紀輔) 教育学を基盤にした算数・情報の教育方法、および情報モラル指導の研究などをとりあげる。</p> <p>(② 萩原 暢子) こどもを健康的に育む視点から、産婦人科学、小児科学、病理学、生理学について探究する。</p> <p>(4 田中 裕喜) 教育学、幼児教育、教育社会学の研究成果を活かして、現代の教育課題に取り組む。</p> <p>(⑤ 江川 正一) ユニバーサルデザインの視点を組み込んだ特別支援教育、生徒指導論の研究を進める。</p> <p>(7 石井 浩子) こどもの健康、保育内容を踏まえた、保育プログラムの開発を行う。</p> <p>(⑦ 植田 恵理子) 音楽科教育、幼児教育、器楽演奏におけるこどもの表現意欲向上を目指した実践開発を行う。</p> <p>(9 小川 博士) 目標と指導と評価の一体化を図る理科教育及び環境教育の授業実践開発を行う。</p> <p>(10 古庵 晶子) 音楽科教育を生涯学習のひとつという捉え方から、実践的指導力の形成を目指し、器楽演奏に取り組む。</p> <p>(11 畠山 寛) 教育心理学、発達心理学、保育の心理学の研究成果を踏まえた、保育のあり方を探究する。</p> <p>(13 太田 容次) 特別支援教育、教育学、教育方法学の視点から、障害者のためのプログラム開発を行う。</p> <p>(14 大西 慎也) こどもの社会認識形成を目指した社会科教育及び生活科教育の授業実践開発を行う。</p> <p>(15 住本 純) 幼小連携を踏まえた体育科教育、体育実技の研究を進める。</p>	